

百三十七條第一項ハ之ヲ適用セストノ部分ヲ剝奪削除シタリ右論證ノ如ク原審判決ヲ爲シタル裁判長判事小玉平太郎判事數馬伊三郎判事安田慶嗣ハ辯護人ト等シク本件ニ關シ矢野小市ニ衆議院議員選舉法第百三十七條第一項ヲ適用セストノ言渡ヲ爲ス方カ之ヲナササルモノヨリ輕キモノナリトノ法律上ノ見解ヲ有スルニ不拘矢野小市ニ對シ何等第一審檢事又ハ原審立會檢事ヨリ附帶控訴ナキニ第一審カ同人ニ言渡シタル判決ヲ同人ニ不利益ニ第一審判決ヨリ重ク處斷シタルハ刑事訴訟法第四百三條ノ規定ヲ閑却スル不當ノ判決ニシテ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リテ○刑事訴訟法第四百三條ハ被告人控訴ヲ爲シタル事件及被告人ノ爲ニ控訴ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得スト規定シ第一審判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ禁シタリト雖法律ノ趣意ハ判決主文ノ全體ヨリ觀察シテ第一審判決ヨリ實質上刑ノ重カルヘキ言渡ヲ爲ササラシムルニ在リテ必スシモ刑其ノモノノ言渡ノミニ限ルモノニ非スシテ刑ノ執行ニ付又ハ刑ノ言渡ニ基ク資格ノ喪失又ハ停止ニ付テモ不利益ノ變更ヲ許ササルモノト解スルヲ相當トス然レハ衆議院議員選舉法第百三十七條第一項所定ノ選舉權及被選舉權ノ停止ハ同法罰則ニ掲クル罪ヲ犯シタル者ニ對スル刑ノ言渡ニ基ク效果ニシテ刑其ノモノニ非スト雖刑ト同シク恩赦令ノ適用ヲ受ケ復權ノ對象トナルモノニシテ裁判所ハ同第百三十七條第二項ニヨリ情狀ニ因リ刑ノ言渡ト同時ニ之ヲ停止セサル旨ノ宣告ヲ爲シ得ヘキモノナレハ第一審判決ニ於テ被告人ニ對シ選舉權及被選舉權ヲ停止セサル宣告ヲ爲セルニ拘ラス控訴審ニ於テ

【要旨第一】

【要旨第二】

之カ宣告ヲ爲ササルハ即チ實質上被告人ニ重キ刑ヲ言渡シタルモノニ外ナラサルカ故ニ檢事ノ控訴又ハ附帶控訴ナキ限りハ違法ナリト謂フヘシ而シテ本件ニ於テ第一審判決カ被告人小市ニ對シ衆議院議員選舉法第百三十七條第一項ヲ適用セサル旨宣告セルヲ原審カ檢事ノ獨立控訴又ハ附帶控訴ナキニ拘ラス之カ宣告ヲ爲ササリシコト所論ノ如シト雖其ノ主刑ニ於テ第一審ハ罰金八十圓ナリシニ原審ニ於テ罰金六十圓ノ輕キ言渡ヲ爲セルカ故ニ縱令附隨ノ處分タル選舉權及被選舉權ノ停止ヲ爲スモ之ヲ以テ實質上第一審判決ノ刑ニ關シテ重キ變更ヲ爲シタリト謂フヲ得ス論旨ハ理由ナシ

同第十三點原判決ハ被告兩名ヲ縣會議員選舉罰則違反罪ニ問擬シタリ然ルニ原審公判調書ヲ閱スルニ字和川辯護人ハ「鈴木候補ヲ投票スルノ意思アル同志カ共同推薦ノ意思ヲ確定シ而シテ共同推薦スルコトハ罪トナルモノニ非ス」ト主張シタルコトハ記録二一二丁ニ徴シ明白ナリトス而シテコノ主張ハ法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由タル事實上ノ主張ニ屬スルヲ以テ原判決ニ於テハコノ主張アリタル事ヲ判文ニ掲記シ之ニ對スル判斷ヲ示ササルヘカラサルモノナリトス然ルニコノ主張ニ對シ何等ノ判斷ヲ示ササル原判決ハ判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ○所論辯護人ノ主張ハ畢竟犯罪構成事實ノ否認ニ過キスシテ刑事訴訟法第百六十條第二項ニ所謂法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由タル事實上ノ主張ニ該當セサルヲ以テ之ニ對スル判斷ヲ示ササルモ違法ニ非ス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事平井彦三郎關與

衆議院議員選舉法第百三十七條第一項ノ規定ヲ適用セサル旨ノ宣告ナキ場合ト刑
 事訴訟法第百三十七條ノ違反 同上ノ旨管ナキ場合ト刑事訴訟法第百三十七條

○出版法違反被告事件(昭和三年(九)第五四九號 事實審理)

同年五月二十二日第四刑事部決定

【上告人】 被告人 石 附榮 一 辯護人 布施辰治 武藤運十郎

【第一審】 新潟區裁判所【第二審】 新潟地方裁判所

○判示事項

出版法第二十二條ノ罪ノ判示

○決定要旨

出版法第二十二條ノ罪ヲ判示スルニ當リテハ印刷物カ文書圖書ナルコトヲ明ニシ其ノ印刷物カ同法第三條ノ適用ヲ受クヘキモノナルコトヲ知ラシムルニ足ル程度ニ於テ内容ヲ示ササルヘカラス

【參照】 出版法第三條 文書圖書ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日前ニ製本二部ヲ添ヘ内務省ニ届出ヘシ

同法第九條 書簡、通信、報告、社則、塾則、引札、諸藝ノ番附諸種ノ用紙證書ノ類及寫眞ハ第三條第六條第七條第八條ニ據ルヲ要セス但第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ルル者ハ此法律ニ依テ處分ス

同法第二十二條 第三條ノ届出ヲ爲サスシテ文書圖書ヲ出版シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

同法第三十五條 文書圖書ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セスト雖其ノ目的發賣頒布ニ在ルモノハ總テ此ノ法律ニ依ル

刑事訴訟法第三百六十條第一項 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ

○事實

第二審判決ハ左記ノ事實ヲ認定シ被告人榮一ノ行爲ニ對シ出版法第三條第二十二條第三十五條ヲ適用シ同被告人ヲ罰金十五圓ニ處シタリ

被告人ハ内務省ニ届出ヲ爲サスシテ新潟商業學校生徒ノ暴行問題ニ關シ昭和二年十一月十三日頃新潟市西大畑町井上乙吉宅ニ於テ「市内の全學生諸君!!此の暴力に對して立て」ト題シ謄寫版刷半紙半切ノ印刷物四五百枚ヲ印刷シ内約半數ヲ同月十四日頃ノ午前八時頃新潟中學校門前ニ於テ登校生徒ニ頒布シ残り約半數ハ市内學生ニ頒布スル目的ヲ以テ翌十五日頃同僚ナル渡邊健一金子辰雄ノ兩名ニ交付シタルモノナリ

○理由

辯護人布施辰治武藤運十郎上告趣意書第一點原判決ノ援用セル第一審判決ハ「被告人ハ内務省ニ届出

出版法第二十二條ノ罪ノ判示

ヲ爲サスシテ新潟商業學校生徒ノ暴行問題ニ關シ昭和二年十一月十三日頃新潟市西大畑町井上乙吉宅ニ於テ「市内の全學生諸君!!此の暴力に對して立て」ト題シ謄寫版刷半紙半切ノ印刷物四五百枚ヲ印刷シ内約半數ヲ同月十四日頃ノ午前八時半頃新潟中學校門前ニ於テ同校生徒ニ頒布シ残り約半數ハ市内學生ニ頒布スル目的ヲ以テ翌十五日頃同僚ナル渡邊健一金子辰雄ノ兩名ニ交付シタルモノナリト認定シ被告人ヲ出版法第三條ニ問擬處斷シタリ然レトモ被告ノ謄寫版印刷ノ前示文書ハ出版法第二條ノ所謂文書ニ該當スルモノニアラスシテ同條違反ノ罪ヲ構成スヘキモノニアラサルナリ若シ判示文書ハ同法第三條ノ所謂文書圖書ニ該當スルモノトスルニハ該文書ノ内容ハ如何ナルモノナリヤ其ノ内容ヲ明示セサルヘカラサルモノナリトス然ルニ原判決ハ何等其ノ内容ヲ明カニセス漫然被告ヲ出版法第三條ノ違反ナリトシテ處斷シタルハ擬律錯誤ノ違法アルカ又ハ事實理由不備ノ違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在リ○按スルニ出版法第三條ニ依リ内務省ニ届出ヲ爲スヘキ文書圖書ノ印刷物中ニハ同法第九條所定ノ印刷物ノ如キ之ヲ包含セサルヲ以テ其ノ届出ヲ爲ササルコトニ因リ成立スル同法第二十二條ノ罪ヲ判示スルニ當リテハ先ツ印刷物カ文章ナリヤ將タ圖書ナリヤヲ明ニシテ且ツ印刷物カ同法第三條ノ適用ヲ受クヘキモノナルコトヲ知ラシムルニ足ル程度ニ於テ其ノ内容ヲ示スニ非レハ其ノ理由ニ於テ缺クルトコロアリト云ハサルヘカラス然ルニ原判決カ本件ニ付引用シタル第一審判決ノ判示スルトコロハ被告人ハ内務省ニ届出ヲ爲サスシテ……市内の全學生諸君!!此暴力

【要旨】

に對して立て」ト題シ謄寫版刷半紙半切ノ印刷物四五百枚ヲ印刷シ内約半數ヲ……登校生徒ニ頒布シ……ト云フニアリテ單ニ印刷物ノ表題ヲ掲クルニ止マリ叙上印刷物ノ種別及内容ニ關シテハ一モ判示スルコトナシ然レハ原判決カ出版法第三條違反ノ事實トシテ引用シタル第一審判決ノ判示ハ其ノ理由ニ不備アルモノニシテ從テ原判決モ亦理由ニ不備アルニ歸シ之ヲ破毀スヘキモノト認ム
仍テ刑事訴訟法第四百十條ニ則リ本件ニ付事實ノ審理ヲ爲スヘキモノトシ爾餘ノ論旨ニ對シテハ說明ヲ須ヒス主文ノ如ク決定ス

○機船底曳網漁業取締規則違反被告事件(昭和三年(レ)第五六四號 同年五月二十二日第四刑事部判決) 棄却)

【上告人】 原審 辯護人 松川孟一
 【被告人】 被告人 淺川啓太郎 辯護人 藥師寺志光
 【第一審】 宇和島區裁判所 【第二審】 松山地方裁判所

○判示事項

機船底曳網漁業ノ許可ト其ノ船舶

機船底曳網漁業ノ許可ト其ノ船舶

○判決要旨

機船底曳網漁業ニ於テ許可以外ノ船舶ヲ使用スル場合ニハ更ニ其ノ船舶毎ニ許可ヲ受クヘキモノトス

〔参照〕機船底曳網漁業取締規則第二條 機船底曳網漁業ハ其ノ漁業根據地ヲ管轄スル地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

前項ノ許可ノ效力ハ第三條第一項ニ掲クル事項ニ付他ノ地方長官ノ管轄ニ屬スル水面ニモ及フ

同規則第三條 前條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ船舶毎ニ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

- 一 漁業名簿
 - 二 漁業根據地
 - 三 採業區域
 - 四 漁具ノ構造
 - 五 船舶總噸數
 - 六 機關ノ種類及馬力
- 前項ノ願書ニハ第一號様式ニ依ル船舶件名書ヲ添附スヘシ
- 同規則第六條 機船底曳網漁業ノ許可ノ期間ハ五年トス

同規則第十二條 左ノ場合ニ於テハ機船底曳網漁業ノ許可ハ其效力ヲ失フ但シ第一號ノ場合ニ於テ其ノ相續人又ハ合併後存續スル會社若ハ合併ニ因リテ設立シタル會社カ引續キ其ノ漁業ヲ營ムトキハ此ノ限ニ在ラス

一 機船底曳網漁業者死亡シ又ハ解散シタルトキ
二 許可ヲ受ケタル船舶滅失シ、沈没シ、解散シ又ハ國籍ヲ喪失シタルトキ
前項但書ノ場合ニ於テハ相續又ハ合併アリタルコトヲ證スル書面ヲ添へ死亡又ハ解散ノ日ヨリ三十日以内ニ漁業鑑札ノ書換ヲ申請スヘシ

同規則第十八條 第二條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁具及漁獲物ハ之ヲ沒收ス若シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

同規則第二十一條 第四條第二項、第五條、第十條、第十一條、第十二條第二項又ハ第十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

機船底曳網漁業者許可ヲ受ケスシテ第三條第一項第五號又ハ第六號ニ掲クル事項ヲ變更シ又ハ第十六條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタルトキ亦前項ニ同シ

○事實

第二審判決ハ左記ノ事實ヲ認定シ被告人啓太郎ノ行爲ニ對シ機船底曳網漁業取締規則第二條第一項第十八條ヲ適用シ同被告人ヲ罰金五十圓ニ處シタリ

機船底曳網漁業ノ許可ト其ノ船舶

被告人ハ大正十二年十二月二十五日其ノ所有ノ機船第一若宮丸第二若宮丸ヲ使用スル二艘曳機船底曳網漁業ノ許可ヲ受ケ爾來同船ニ依リ操業シ來リタルカ昭和二年一月中更ニ機船第一若宮丸第二若宮丸ヲ新造シ所轄地方長官ヨリ右新造船二艘ヲ使用スル機船底曳網漁業許可ヲ受ケサルニ拘ラス右新造船二艘ヲ使用シテ同年二月十一日ヨリ同年四月二十八日迄ノ間及同年九月十三日ヨリ同年十月十九日迄ノ間前後數回ニ互リ押收ノ底曳網其他ノ漁具(證第一號)ヲ使用シテ機船底曳網操業ヲ爲シ代金四千五百圓五十錢ニ相當スル魚類ヲ捕獲シタルモノナリ

理由

辯護人藥師寺志光上告趣意書第一點原判決ハ被告人カ「大正十二年十二月二十五日其ノ所有ノ機船第一若宮丸第二若宮丸ニ使用スル二艘曳機船底曳網漁業ノ許可ヲ受ケ爾來同船ニ依リ操業シ來リタルカ昭和二年一月中更ニ機船第一若宮丸第二若宮丸ヲ新造シ所轄地方長官ヨリ右新造船二艘機船ヲ使用スル機船底曳網漁業ノ許可ヲ受ケサルニ拘ラス右新造船二艘ヲ使用シテ同年二月十一日ヨリ同年四月二十八日迄ノ間及同年九月十三日ヨリ同年十月十九日迄ノ間前後數回ニ互リ押收ノ底曳網其他ノ漁具ヲ使用シテ機船底曳網操業ヲ爲シ」タル事實ヲ認定シ之ニ對シ機船底曳網漁業取締規則第二條第一項第十八條ヲ適用シタルハ法律ヲ誤解シタル違法アルモノトス何トナレハ本件被告人ハ原判決ノ認定シタルカ如ク「大正十二年十二月二十五日其ノ所有ノ機船第一若宮丸第二若宮丸ヲ使用スル二艘曳機船底曳網

漁業ノ許可ヲ受ケ」タルモノニシテ右許可ハ法律上五年間繼續スルモノナルヲ以テ(同規則六條)被告人ノ所爲ハ右許可ノ期間中許可ヲ得シテ船舶ヲ變更シ機關ノ馬力ヲ増加シテ漁業ニ從事シタルニ過キサカ故ニ假リニ被告人ノ所爲カ法律上處罰スヘキモノナリトスルモ機船底曳網漁業取締規則第二十一條ヲ以テ處斷スヘキモノナリト謂フヘク同規則第十八條ニ問擬スルコトヲ得サレハナリ蓋シ機船底曳網漁業ハ船舶ヲ單位トシテ各船舶毎ニ漁業ノ許可ヲ與フルモノナリト雖其ノ漁業許可ハ漁業者ノ資力技能等漁業ヲ經營シ行ク個人的資格ヲ規準トシテ漁業者其ノ人ニ對シ與ヘラルル行政行爲ニシテ船舶タル物ニ對シ與ヘラルルモノニ非ス從テ其ノ許可ハ漁業者ノ一身ニ專屬シ漁業者ノ死亡又ハ解散ニ因リテ其ノ效力ヲ失フヲ以テ本則トシ只漁業者ノ人格ノ承繼者ヲ以テ目スヘキ一般承繼人カ漁業能力ヲ有シ「引續キ其ノ漁業ヲ營ムトキ」ニ限り許可ハ其ノ效力ヲ持續スルニ過キスシテ(同規則一二條一號)許可ハ常ニ人ニ對シテ與ヘラルルモノナルカ故ニ船舶ト法律上ノ運命ヲ共ニスルモノニハ非ス從テ漁業者カ船舶ヲ他ニ讓渡スルモ許可ハ船舶ト共ニ其ノ讓渡人ニ移轉スルコトヲ得サルナリ最モ法ハ許可ヲ受ケタル船舶カ滅失又ハ沈没シタルトキハ許可ハ效力ヲ失フ旨ヲ規定シ(同規則一二條二號)恰モ許可カ船舶ト終始スルカ如キ外觀ナキニ非スト雖這ハ許可カ船舶ニ專屬スル爲ニハ非スシテ却テ漁業者カ船舶ノ滅失ニヨリテ漁業經營不能ニ陥ルカ爲ニ特ニ將來ニ向テ許可スヘカラサルモノトシテ其ノ失效ヲ規定セルモノニシテ漁業ノ許可ハ漁業者ニ對シ與フルノ精神ニ反スルモノニ非スサ

レハ本件ノ如ク新造第一及第二若宮丸カ舊第一及第二若宮丸ノ滅失前之ニ代用スヘク建造サレ經濟上
 新造船カ舊船ノ漁業能力ヲ代位シタル場合ニ於テハ漁業者ハ船舶滅失ニヨリ漁業能力ヲ喪失スル場合
 ニ該當セサルカ故ニ漁業者ニ對シ漁業ヲ禁止スルノ理由ナク從テ漁業者カ新造船ニヨリ漁業ヲ營ミタ
 レハトテ之ヲ同規則第二條ニ違反スルモノト謂フヲ得サルナリト云フニアレトモ○機船底曳網漁業ヲ
 營ムニハ許可ヲ受ケタル特定ノ船舶ヲ使用スルコトヲ要シ他ノ船舶ヲ以テスル場合ハ更ニ出願ノ上其
 ノ船舶ニ依ル漁業ノ許可ヲ受クヘキモノナルコトハ機船底曳網漁業取締規則第三條第十二條等ノ律意
 ニ徴シ明白ニシテ此ノ如キハ取締ノ必要上個々ノ船舶ニ就キ之ヲ使用シテ爲ス漁業ヲ其ノ出願者ニ許
 可スルモノナレハ畢竟人ヲ對象トスル許可ニ外ナラス然レハ原判決カ判示事實ニ對シ判示法條ヲ適用
 處斷シタルハ正當ナリト謂フヘク所論同規則第二十一條ニ觸ルル行爲トシテ規定スルトコロハ船舶ノ
 總噸數機關ノ種類及馬力ヲ擅ニ變更スル等何レモ許可ヲ受ケタル船舶ニ關スル事項ニシテ船舶其ノモ
 ノヲ變更シタル場合ノ如キハ之ヲ包含セサルコト明白ナルカ故ニ判示事實ヲ同法條ニ間擬スヘシト爲
 ス論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス
 檢事溝淵孝雄關與

【要旨】

○縣會議員選舉罰則違反被告事件(昭和三年(九)第五七六號
同年五月二十二日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 行政長 藏外 九名 辯護人 堀川 嘉夫

【第一審】 姫路區裁判所 【第二審】 神戸地方裁判所

○判示事項

選舉期日ノ公布又ハ告示ト衆議院議員選舉法第一百十二條ノ罪

○判決要旨

選舉期日ノ公布又ハ告示ハ衆議院議員選舉法第一百十二條ノ罪ノ處

罰條件ニ非ス

【參照】 府縣制第十三條 府縣會議員ノ選舉ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フ其ノ告

示ニハ選舉ヲ行フヘキ選舉區投票ヲ行フヘキ日時及選舉スヘキ議員ノ員數ヲ記載
シ選舉ノ期日前二十日目マテニ之ヲ發スヘシ

天災事變等ノ爲投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキ
ハ府縣知事ハ當該選舉區又ハ投票區ニ付投票ヲ行フヘキ日時ヲ定メ投票ノ期日前

選舉期日ノ公布又ハ告示ト衆議院議員選舉法第一百十二條ノ罪

七日目マテニ之ヲ告示スヘシ
同制第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス
衆議院議員選舉法第十八條 總選舉ハ議員ノ任期終リタル日ノ翌日之ヲ行フヲ例ト
ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ議員ノ任期終リタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ行
フコトヲ妨ケス

議會開會中又ハ議會閉會ノ日ヨリ二十五日以内ニ議員ノ任期終ル場合ニ於テハ總
選舉ハ議會閉會ノ日ヨリ二十六日以後三十日以内ニ之ヲ行フ
衆議院解散ヲ命セラレタル場合ニ於テハ總選舉ハ解散ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ
行フ

總選舉ノ期日ハ勅命ヲ以テ之ヲ定メ少クトモ二十五日前ニ之ヲ公布ス

衆議院議員選舉法第十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲
役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ
金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束
ヲ爲シ又ハ要應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ
- 二 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ
其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、
寄附其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ
- 三 投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋
勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ第一

號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ

四 第一號若ハ前號ノ供與、要應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承
諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

五 前各號ニ掲クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ

○事實

第二審判決ハ被告人長藏ニ對シ左記ノ事實ヲ認定シ府縣制第四十條大正十四年法律第四十七號衆議院
議員選舉法第一百二十二條第二號同法第九十六條第二百二十九條刑法第五十四條第一項第十條ヲ適用シ被告
人長藏ヲ罰金百五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ七十五日間勞役場ニ留置スヘキモ
ノト爲シタリ

昭和二年九月二十五日施行セラレタル兵庫縣縣會議員選舉ニ際シ被告人長藏ハ同月五日同縣加古郡ヨ
リ日本勞農黨ヲ標榜シテ立候補ヲ爲シ爾餘ノ各被告人ハ全部同郡ニ於ケル選舉人ニシテ就中被告人光
次ハ同月九日右長藏ノ爲メ選舉事務員ト爲リタルモノナルトコロ被告人長藏ヲ除ク爾餘ノ被告人等ハ
全部鑛鍛冶職人ニシテ同被告人等其他同縣加古印南美囊加東加西ノ五郡在住ノ鑛鍛冶職人ノ組織セル
播州鑛工組合ニ於テハ豫テ其原料タル鐵ノ供給ヲ山陽利器株式會社ヲ組織セル間屋ヨリ受ケタル上其
製品ヲ更ニ右問屋ニ販賣シ因テ問屋ノ爲メ二重ニ其利益ヲ收去セラレ來リタルカ昭和二年八月中右問
屋カ製品ノ値下ヲ斷行シタルヨリ右鑛工組合ニ於テモ之カ對策トシテ問屋側ニ對シ右原料品ノ値下ヲ

選舉期日ノ公布又ハ告示ト衆議院議員選舉法第十二條ノ罪

要求スルニ至リ同月二十五日同縣加東郡小野町幼稚園ニ於テ問屋側ニ對スル最後ノ交渉ヲ試ムヘク組合ノ總會ヲ開催スルヤ被告人長藏ニ於テモ同人カ右鎌工組合ト友誼團體タル關係アル全日本農民組合兵庫縣聯合會ノ本部主事ナル地位ニ在リタル關係上ヨリ同總會ニ參加出席シ同人援助ノ下ニ前記交渉ヲ遂クル所アリシカ第一被告人長藏ハ同日午後八時頃同町料理店鶴龜亭ニ於テ未タ自ラ議員候補者ノ届出ヲ爲ササルニ拘ラス自己カ當選スル目的ヲ以テ右全日本農民組合兵庫縣聯合會ノ會長ニシテ前記播州鎌工組合ノ組合長タル河合義一及同鎌工組合ノ加古郡側幹部ニシテ選舉人タル被告人光次金三郎久藏トノ會合ノ席上右義一紹介ノ下ニ同被告人等三名ニ對シ右選舉ニ付自己カ加古郡ヨリ日本勞農黨ヲ標榜シテ立候補スヘキヲ以テ應援シ吳レ度ク當選ノ上ハ鎌工組合製造ノ鎌ヲ自己カ主事トシテ關係アル農民組合ヲシテ直接鎌工組合ヨリ買取ラシメ以テ從來鎌工組合ノ製品ヲ一旦問屋ニ賣込ミ更ニ問屋ヨリ之ヲ農民組合ニ賣却シ居タルニ因リ問屋ノ爲メ獲得セラレ居リタル利益ヲ右鎌工組合ヲシテ取得セシムル様盡力シ遣ルヘキ旨申向ケ以テ自己カ當選スル目的ヲ以テ同被告人等ノ關係アル該鎌工組合ニ對スル特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ選舉人タル右被告人三名ニ對シ同時ニ各誘導ヲ爲スト共ニ議員候補者其他法定ノ選舉運動者ニ非スシテ同被告人等三名ニ付同時ニ各選舉運動ヲ爲シタリ

○理由

被告人行政長藏辯護人堀川嘉夫上告趣意書第一點原判決ハ理由冒頭ニ於テ「昭和二年九月二十五日施行セラレタル兵庫縣縣會議員選舉ニ際シ被告人長藏ハ同月五日同縣加古郡ヨリ日本勞農黨ヲ標榜シテ立候補ヲ爲シ爾餘ノ各被告人ハ全部同郡ニ於ケル選舉人ニシテ就中被告人光次ハ同月九日右長藏ノ爲メ選舉事務員トナリタルモノナルトコロ被告人長藏ヲ除ク爾餘ノ被告人等ハ全部鍛冶職人ニシテ同被告人等其ノ他同縣加古印南美囊加東加西ノ五郡在住ノ鎌鍛冶職人ノ組織セル播州鎌工組合ニ於テハ豫テ其ノ原料タル鐵ノ供給ヲ山陽利器株式會社ヲ組織セル問屋ヨリ受ケタル上其ノ製品ヲ更ニ右問屋ニ販賣シ因テ問屋ノ爲メ二重ニ其ノ利益ヲ收去セラレ來リタルカ昭和二年八月中右問屋カ製品ノ値下ヲ斷行シタルヨリ右鎌工組合ニ於テ之カ對策トシテ問屋側ニ對シ右原料品ノ値下ヲ要求スルニ至リ同月二十五日同縣加東郡小野町幼稚園ニ於テ問屋側ニ對スル最後ノ交渉ヲ試ムヘク組合ノ總會ヲ開催スルヤ被告人長藏ニ於テモ同人カ鎌工組合ト友誼團體タル關係アル全日本農民組合兵庫縣聯合會ノ本部主事ナル地位ニアリタル關係上ヨリ同總會ニ參加出席シ同人援助ノ下ニ前記交渉ヲ遂クル所アリシカ」理由第一ニ於テ「第一被告人長藏ハ午後八時頃同町料理店鶴龜亭ニ於テ未タ自ラ議員候補者ノ届出ヲ爲ササルニ拘ラス自己カ當選スル目的ヲ以テ右全日本農民組合兵庫縣聯合會ノ會長ニシテ前記播州鎌工組合ノ組合長タル河合義一及同鎌工組合ノ加古郡側幹部ニシテ選舉人タル被告人光次金三郎久藏トノ會合ノ席上右義一紹介ノ下ニ同被告人等三名ニ對シ右選舉ニ付自己カ加古郡ヨリ日本勞農黨ヲ標榜シテ立候補スヘキヲ以テ應援シ吳レ度ク當選ノ上ハ鎌工組合製造ノ鎌ヲ自己カ主事トシテ關係アル農民

組合ヲシテ直接鎌工組合ヨリ買取ラシメ以テ從來鎌工組合ノ製品ヲ一旦問屋ニ賣込ミ更ニ問屋ヨリ農民組合ニ賣却シ居リタルニヨリ問屋ノ爲獲得セラレ居リタル利益ヲ右鎌工組合ヲシテ取得セシムル様盡力シ遣ルヘキ旨申向ケ以テ自己カ當選スル目的ヲ以テ同被告人等ノ關係アル該鎌工組合ニ對スル特殊ノ利害關係ヲ利用シテ選舉人タル右被告人三名ニ對シ同時ニ各誘導ヲ爲スト同時ニ議員候補者其ノ他法定ノ選舉運動者ニアラスシテ同被告人等三名ニ付キ同時ニ各選舉運動ヲ爲シタルモノニシテ被告人長藏ヲ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百十二條第二號選舉罰則違反ナリト判示シテ居ル然レトモ原判決ノ確定シタル判示事實(理由冒頭及第一)ニ對シテハ絕對ニ衆議院議員選舉法第百十二條第二號(以下單ニ選舉法第百十二條ト略稱ス)ヲ適用處斷スルコトハ出來ナイノテアルカ原判決ハ同法條ヲ誤解シ不當ニモ同法條ヲ適用處斷シタモノテ原判決ハ全然法律違反テアルコトハ謂フヲマタ今左ニ其ノ理由ヲ明白ニスルモノテアル(一)元來選舉法罰則ノ法條ニヨツテ保護セラレテ居ル所謂「法益」トハ何テアルカヲ確定セネハナラヌ而シテ其ノ法益ヲ確定スルニハ更ニ根本的ニ選舉ノ法律上ノ性質ヲ決定スルコトカ必要テアル選舉ノ法律上ノ性質ニツイテノ學說ハ多岐テアルカ吾人ノ正當テアルト確信スルトコロハ「議員ノ選舉」ハ選舉人ノ集團即チ選舉人團ナル一ツノ集合制ノ直接機關カ他ノ直接機關部即チ議會(又ハ府縣會)ノ部分機關テアル議員ヲ選定スル一種ノ合同行爲テアル換言スレハ選舉トハ選舉人カ集マツテ一個ノ集團トシテ爲ス議員ノ任命ニ外ナラナイ從ツテ議員ヲ選舉スル選舉人團

モ一個ノ國家機關トシテ公務ヲ行ツテ居ルモノテアル故ニ選舉ノ主體ハ國家自身テアル(法學博士森口繁治著比例代表法ノ研究二五頁以下參照)斯クノ如ク選舉ハ國家カ主體トナツテ一種ノ公務ヲ執行スルモノテアルコトカ明瞭トナツタカラ其ノ法益モ亦國家カ或特定シタル選舉ト云フ公務執行權其ノモノテアル事カ判ルノテアル而シテ此ノ國家或ハ特定ノ選舉ト云フ公務執行ハ抽象的ニハ何時ニテモ存在スルモ具體的ニハ必ス或特定ノ選舉ノ行ハルル場合ニ於テノミ選舉ト云フ公務執行カ存在スルモノテアル或特定ノ選舉ハ或特定ノ期間ニ於テ存在スルモノテ其ノ特定ノ選舉ノ始期ハ選舉ノ告示ノアツタ時テ其ノ以前ニ於テハ全然選舉ト云フ國家ノ公務執行ハ存在シナイノテアル府縣會議員選舉ニ於テハ府縣知事カ選舉ノ告示ヲ爲シタル日ヨリ茲ニ始メテ具體的ニ選舉ト云フ國家ノ公務執行カ開始セラレ所謂公務執行ニ着手シタルノテアル而シテ選舉法罰則ノ法條ニヨツテ保護セララル所ノ「法益」タル選舉ト云フ公務執行權其ノモノカ存在スルニ至リ從ツテ選舉法罰則法條ノ要求スル行爲ヲ爲シタル場合ニ於テハ茲ニ始メテ罰則違反ノ犯罪カ成立スルノテアル換言スレハ選舉ト云フ國家ノ公務執行(選舉ノ公正ヲ期スル)ヲ妨害スル行爲(選舉法罰則法條所定ノ行爲)ハ選舉ノ告示カアリ茲ニ具體的ニ選舉ト云フ公務ノ執行カ開始セラレタル時ヨリ存在シ得ルモノテ未タ選舉ノ告示カ存在セズ具體的ニ選舉ト云フ公務ノ執行カ開始セラレテ居ラヌ時期ニ於テハ侵害(妨害)セラルル具體的ノ選舉ト云フ公務執行其ノモノハ全然存在シテ居ラヌカラ之ヲ侵害(妨害)スルコトノ出來ナイコトハ定ニ明カテアル

本件ニ於テハ被告人長藏カ推薦セラレ候補者トナツタ選舉區ハ兵庫縣ニシテ同縣知事ハ昭和二年九月三日選舉ノ告示ヲ爲シ被告人長藏ハ同年九月五日推薦届出ヲ受ケテ候補者トナツテ居ルノテ兵庫縣ニ於ケル縣會議員選舉ト云フ具體的ノ公務ノ執行ハ昭和二年九月三日ニ開始セラレテ居リ其ノ以前ニ於テハ絶對ニ具體的ニ選舉ト云フ公務執行ハ存在シテ居ラヌノテアル而シテ原判決ノ認定シタル事實ニヨレハ被告人長藏ハ昭和二年八月二十五日午後八時頃云々特殊ノ直接ノ利害關係ヲ利用シテ被告人光次等ヲ誘導シ選舉法第百十二條第二號ニ該當スル犯罪行爲ヲシタリト判示シテ居ル(被告人長藏ハ此行爲ハ全然否認シテ居ルカ今假リニ之カアツタトシテモ)カ其ノ原判決所謂行爲ノアツタ日時ハ昭和二年八月二十五日テアツテ兵庫縣知事カ同縣縣會議員選舉ノ告示ヲシタノハ前記ノ通り同年九月三日テアツテ其ノ選舉ノ告示以前テアル同年八月二十五日ハ未タ具體的ニ選舉ノ公務執行カ開始セラレテ居ラヌノテアルカラ假リニ原判決ノ認定シタル特殊ノ直接利害關係ヲ利用シ誘導シタリトスルモ其ノ行爲ハ未タ存在シテ居ラヌ又具體的ノ兵庫縣縣會議員選舉ト云フ公務ノ執行(選舉ノ公正ヲ期スル)ヲ妨害(侵害)スルコトノ出來ナイコトハ寔ニ明白テアツテ斷シテ選舉法第百十二條第二號ノ要求スル行爲ニ該當スルモノト云フ事ハ出來ナイノテアル然ルニ原審カ原判決ヲシタノハ明カニ選舉ノ法律上ノ性質ヲ知ラナイノミナラス選舉法ニヨツテ保護セラルル法益カ何テアルカラモ明ラカニシテ居ラヌ爲テアル若シソレ選舉ノ法律上ノ性質及選舉法ニ因テ保護セラルル法益ノ何モノテアルカラ知ル

ナラハ前述ノ理由ニヨリ本件ハ選舉法罰則違反テナイト斷定セネハナラヌノテアル原判決ニヨレハ府縣知事ノ選舉ノ告示カ存在セス從テ具體的ニ選舉ト云フ公務ノ執行カ開始セラレテ居ラヌ以前ニ於テモ何時ニテモ選舉法第百十二條第二號ノ要求スル如キ行爲ヲ爲シ選舉ノ公務ノ執行ヲ妨害(選舉ノ公正ヲ妨害)シ得ルコトトナルカ之ハ實ニ選舉法ヲ全然誤解シタル結果テアリ抽象的ニ存在スル選舉ト云フモノト具體的ニ存在スル選舉トノ解釋ヲ誤マリ選舉法ノ對象トナル選舉カ常ニ具體的ニ特定シ或一定ノ期間ニ行ハルルモノニ限定セラレテ居リ抽象的ニ存在スル選舉ハ全ク選舉法ノ對照トナラヌコトヲ知ラサル爲テアル之ハ宛モ刑法ノ公務執行妨害罪(刑法第九十五條)ニ於ケルト同様テアツテ公務員カ現實ニ其ノ職務ヲ執行スルニ當ツテ其ノ具體的ノ現實ノ公務ノ執行其ノモノニ對シテ妨害ヲ與ヘタル場合ニ於テノミ其ノ種ノ犯罪ハ成立スルノテアツテ只單ニ公務員テアリ抽象的ニ職務執行權ヲ有シテ居リ未タ具體的ニ何等公務ノ執行ニ着手シテ居ラヌ間ニ於テ例令其ノ公務員ニ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタリトスルモ斷シテ公務執行妨害罪ヲ構成スルモノテハナイノト同様ノ關係テアル本件ニ於テハ被告人長藏カ假リニ原判決ニ判示シタ様ナ「誘導」ヲシタトスルモ刑法ノ公務執行妨害罪ニ於テ未タ公務員カ具體的ノ公務ノ執行ニ着手シテ居ラヌ以前ニ於テ其ノ公務員ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタト同様ノ關係ニアリ公務員ニ對シテハ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタカラ單ニ人ニ對スル暴行又ハ脅迫罪ハ成立スルモ公務執行妨害罪ノ成立スルノ餘地カナイ即チ本件選舉ノ公務執行ノ着手ハ選舉ノ告示アリタル昭和

二年九月三日テアルカラ其ノ以前ニ於ケル行爲ハ具體的ノ選舉ノ公務執行ニ着手シテ居ラヌカラ妨害セラルル公務執行其ノモノハ存在シテ居ラヌカラ全然違反テハナイノテアル原判決理由第一ニヨルト將來立候補スルカモ判ラヌカ立候補シタナラハ應援シテクレトノ意味カ判示セラレテ居ルカ選舉法罰則ノ要求スル所ハ具體的ノ選舉カ開始セラレタカ否カヲ標準トシテ其ノ違反行爲ハ何時行ハレタカヲ判定シテ之ヲ處斷セントスルモノテ將來具體的ノ選舉カ行ハレルカモ判ラヌカ未タ現在ニ選舉カ行ハレテ居ラスケレトモ將來行ハレル選舉ノ公正ヲ期スル爲メニ何時ニテモ斷ヘス選舉法ノ罰則ヲ適用スルモノト解シテハ全ク誤リテアル今假リニ將來行ハレルノ選舉ニ對シテ現在ニ於テ選舉法第百十二條第二號所定ノ如キ行爲ヲシタリトスルモノノ行爲ハ他ノ制裁法規ニ抵觸スルコトカアルカモ判ラヌカ選舉法第百十二條第二號ノ違反行爲トハ斷シテナラヌソレハ已ニ前述スル如ク現在ニ於テ侵害セラルル具體的選舉ノ公務執行其ノモノカ存在シテ居ラヌカラテアル之レハ丁度刑法ノ公務執行妨害罪ノ場合ニ將來ニ於テ其ノ公務員カ或特定ノ公務執行ヲ爲スコトカ明白シテ居ツテモ未タ現實ニ其ノ公務ノ執行ニ着手シテ居ラネハ假令行爲者ニ於テ其ノ公務員ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタナラハ必ス公務ノ執行ハ妨害カ出來ルトノ認識カアツタトスルモ其ノ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル當時ニ於テハ全然公務ノ執行ソノモノハ存在シテ居ラヌカラ所謂法益タル具體的公務執行權ハ未タ侵害セラレテ居ラヌカラ同罪ハ絕對ニ成立スルコトハナイノト同様テアルト云ヒ」第二點原判決ハ理由ヲ附セサル違法ノ判決

テアル選舉法第百十二條第二號ノ規定ハ趣意書第一點ニ論セル如ク府縣知事カ縣會議員選舉ノ告示ヲ爲シタル後ニ於テ始メテ適用セラルルモノニシテ普通ハ候補者カ立候補届出ヲ爲シタル上其ノ政見ヲ發表スルニ當リ其ノ言論ニ於テ偶「特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導シ」タル場合ニ適用セラルルヲ尤モ正當トスルモノテアルカラ兵庫縣知事カ何時選舉ノ告示ヲシタカヲ判示スルコトハ本件判斷上最モ重要ナルニ拘ラス原判決ニハ兵庫縣知事カ選舉ノ告示ヲシタル日時ノ判示ナク又其ノ事實ヲ取調ヘタルコトナク漫然選舉告示ノ日テアル昭和二年九月三日以前ノ同年八月二十五日ニ於ケル行爲ヲ直ニ選舉法第百十二條第二號ニ該當スル違反行爲テアルト斷定シテ居ルコトハ理由ヲ附セサル違法ノ判決ト謂ハネハナラヌ即チ兵庫縣知事ノ選舉ノ告示ヲシタル昭和二年九月三日以前ノ同年八月二十五日ノ行爲ト雖尙且ツ選舉法第百十二條第二號ノ規定カ適用セラルル理由ヲ附セネハナラヌノテアルカ原判決ニハ此ノ點ニ付テノ理由ヲ附シテ居ラヌカラ違法ノ判決ト謂フノテアルト云フニ在レトモ○衆議院議員選舉法第百十二條第二號ノ犯罪ハ將來行ハルヘキ選舉ニ付當選ヲ得又ハ得セシメサルノ目的ヲ以テ同號所定ノ行爲ヲ爲スニ因リテ成立シ而シテ選舉期日ノ公布又ハ告示ノ如キハ犯罪構成要件タラサルハ勿論其ノ處罰條件ニモ非サルヲ以テ苟モ右所定ノ行爲アルニ於テハ該罪ハ直ニ成立シ其ノ行爲カ選舉期日ノ公布又ハ告示前ニ行ハレタルト否トヲ問フコトナシ原判決認定ノ事實ニ依レハ被告人ハ昭和二年九月二十五日施行セラレタル兵庫縣縣會議員選舉ニ際シ日本勞農黨ヲ標榜シテ立候補ヲ爲シ

【要旨】

タル者ナルトコロ同年八月二十五日兵庫縣小野町料理店鶴龜亭ニ於テ選舉人タル被告人光次久藏及金三郎ニ對シ右選舉ニ付自己カ加古郡ヨリ日本勞農黨ヲ標榜シテ立候補スヘキヲ以テ應援シ吳レ度當選ノ上ハ鎌工組合製造ノ鎌ヲ自己カ主事トシテ關係アル農民組合ヲシテ直接鎌工組合ヨリ買取ラシメ以テ從來鎌工組合ノ製品ヲ一日問屋ニ賣込ミ更ニ問屋ヨリ之ヲ農民組合ニ賣却シ居タルニ因リ問屋ノ爲獲得セラレ居タル利益ヲ右鎌工組合ヲシテ取得セシムル様盡力シ遣ハスヘキ旨申向ケ特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタリト云フニ在リテ其ノ衆議院議員選舉法第一百二十二條第二號ノ罪ニ該ルヤ極メテ明白ナリ而シテ選舉期日ノ公布又ハ告示カ犯罪ノ成否ニ影響ナキコト叙上ノ如クナル以上原判決カ該選舉期日ノ公布又ハ告示前ノ行爲ニ付犯罪ノ成立ヲ認メ又該選舉期日ノ公布又ハ告示ニ付何等判示スル所ナカリシトスルモ理由不備又ハ理由齟齬ノ違法アルモノト謂フヘカラス論旨ハ孰レモ理由ナシ(其ノ他ノ上告理由及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事 澤淵 孝雄 關與

○ 瀆職被告事件 (昭和二年(九)第一八二五號 棄却)

〔上告人〕 被告人 喜多嘉造 外十名 辯護人

古木伊山岡山花山 賀村和順 藤三 英一 足立新太郎 邊宮政太 辻村太 田邊政太 山内政太 岡田政太 明石九郎 海野普吉

〔第一審〕 大阪地方裁判所 〔第二審〕 大阪控訴院

○ 判示事項

賄賂ト賄賂ニ非サル謝禮トヲ兼ネタル金錢ノ收受ト沒收又ハ追徴書類取寄ノ照會ニ對シ寫ノ送付アリタル場合ト不服ノ申立

○ 判決要旨

一 公務員カ賄賂ト賄賂ニ非サル謝禮トヲ兼ネ之ヲ分別スルコトヲ得サル金錢ヲ收受シタルトキハ其ノ金額全部ヲ沒收若ハ追徴スヘキモノトス〔要旨第一〕

二 裁判所カ辯護人ノ申請ニ係ル書類ノ取寄ヲ公務所ニ照會スル決

賄賂ト賄賂ニ非サル謝禮トヲ兼ネタル金錢ノ收受ト沒收又ハ追徴書類取寄ノ照會ニ對シ寫ノ送付アリタル場合ト不服ノ申立

定ヲ爲シタルモノニ付其ノ寫ノ送付アリタル場合ニ於テ之ヲ公
判廷ニ顯出シテ被告人ニ示シタルニ被告人及辯護人カ其ノ原本
ノ送付ニ非サル點ニ關シ何等ノ異議ヲ述ヘサルトキハ後日ニ至
リ取寄書類ノ原本ニ非サルノ故ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得
サルモノトス【要旨第二】

【參照】 刑法第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要
求若クハ約束シタルトキハ三年以上十年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當
ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スル
コト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス
刑事訴訟法第三百四十四條第二項 新期日ノ指定其ノ他別段ノ手續ヲ必要トスル證
據調ハ決定ニ依リ之ヲ爲スヘシ

○事實

本件ハ被告人及其ノ犯罪事實多數ナルヲ以テ第二審判決中本判例ニ關係アル被告人末松次男同竹原喜
一郎ニ關スル部分ノミヲ摘記センニ第二審判決ハ右被告兩名ニ對シ左記ノ事實ヲ認定シ刑法第九十
七條第一項前段第九十八條第一項第五十五條第二十一條第十八條第九十七條第二項ヲ適用シ被告
人末松次男ヲ徵役六月ニ處シ第一審ノ未決勾留日數中三十日ヲ本刑ニ算入ス被告人竹原喜一郎ヲ罰金

百五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置ス
被告人末松次男ヨリ金千圓ヲ追徴スル旨ノ宣告ヲ爲シタリ

被告人末松次男ハ大阪稅務監督局管内下京稅務署屬ニシテ大正十二年一月頃ヨリ同十三年十二月頃
迄同署直稅課長トシテ直稅ニ關スル調査等ノ事務ニ從事シタルモノ又被告人竹原喜一郎ハ山林製材
業者ナル處

第三 被告人末松次男ハ前掲職務ニ從事中京都市下京區三條通ノ毛織物輸入商有本嘉兵衛カ所轄下
京稅務署ニ提出中ノ大正十二年度ノ所得稅減損更訂及營業稅免除申請事件ニ付同人ヨリ委任ヲ受ケ
タル代辦業東田幸市郎ヨリ之カ調査等ニ付職務上便宜ノ取扱ヲ爲シ吳レ度キ請託ヲ受ケ之カ謝禮ノ
趣旨ニ出ツルモノナルコトヲ了知シ乍ラ幸市郎ヨリ

(イ) 大正十三年七月中被告人次男肩書居宅ニ於テ現金參百圓
(ロ) 同年八月中同所ニ於テ現金貳百圓ノ各供與ヲ受ケテ夫々其ノ職務ニ關シ收賄シ且其ノ後右現
金ハ何レモ之ヲ自己ノ用途ニ費消シ

第四 被告人竹原喜一郎ハ從來奈良縣吉野郡大塔村大字辻堂ニ居住シ大阪稅務監督局管内吉野稅務
署ニ所得稅ノ納付ヲ爲シ來リタルモノナル處後其ノ住居ヲ肩書住居地ニ移シ大正十二年中前記職務
權限ヲ有スル被告人末松次男ト相識ルニ及ヒ同人其ノ他ノ者ノ勸說ニ從ヒ大正十三年度ヨリ所轄下

賄賂ト賄賂ニ非サル謝禮トヲ兼ネタル金錢ノ收受ト沒收又ハ追徴 書類取寄ノ照 三九一 (三)

京稅務署ニ所得稅ノ納付ヲ爲スコトト爲リタルカ從來吉野稅務署ノ課稅正確ヲ缺クモノアリシヨリ被告入喜一郎ハ同年度ノ所得稅申告書ヲ直接被告人次男ニ託シ之カ調査ニ付職務上相當ノ處置ヲ爲シ吳レ度キ旨依頼シ且其ノ他職務ニ關セサル事項ニ付テモ夫々其ノ調査方等ノ依頼ヲ爲シ被告人次男モ之ヲ了承シテ職務上職務外ニ於テ夫々盡力スルトコロアリタルヨリ被告人喜一郎ハ被告人次男ノ職務外ノ盡力ニ對シテハ額面金貳百五拾圓ノ商品切手及金百圓ノ現金等ヲ贈リテ酬ユル所アリシカ
(イ) 其ノ後大正十三年八月二十三日頃被告人喜一郎肩書居宅ニ於テ被告人次男ヨリ其ノ妻ノ流産ニ託シテ出金ヲ求メラルルヤ即時同所ニ於テ同人ニ對シ前記職務上ノ處置其ノ他ニ對スル謝禮トシテ現金壹百圓ヲ供與シ

(ロ) 其ノ後同年九月上旬頃被告人喜一郎ハ同人ノ同年度ノ所得稅額ニ付吉野稅務署ノ調査額約十萬圓ナリシニ對シ下京稅務署ニ於テハ自己ノ申告額ニ近キ金五萬圓餘ニ決定シタル旨ノ通知ヲ受ケタルノミナラス被告人次男ヨリ辭職後ニ於ケル使用方ヲ要求セラレタルヨリ其ノ使用方ノ拒絕ニ因リ自己ノ納稅ニ關シ不利益ヲ受クルコトナキ爲ト前記次男ノ職務上ノ處置ニ對スル謝禮トヲ含メテ同年十月二十一日被告人次男ノ肩書居宅ニ到リ同人ニ對シ金四百圓ヲ供與シ以テ各其ノ職務ニ關シ贈賄シ

被告人次男ハ前掲職務ニ從事中右(イ)(ロ)ノ日場所ニ於テ其ノ記載ノ如キ職務上ノ處置ニ對スル謝

禮ノ趣旨ニ出ツルモノナルコトヲ了知シ乍ラ同掲記ノ金圓ノ各供與ヲ受ケテ其ノ職務ニ關シ夫々收賄シ且後日之ヲ自己ノ用途ニ費消シタルモノナリ

以上各被告人ノ所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

尙ホ第二審裁判所ノ昭和二年五月二十七日ノ公判ニ於テ被告人末松次男ノ辯護人古賀英ハ京都府下京稅務署ヨリ大正十三年度及同十四年度ノ各所得稅調査簿ノ取寄ヲ申請シ同裁判所ハ之ヲ許容シ同署ヨリ右兩年度ノ所得稅調査簿ノ寫ヲ送付シ來リタルニヨリ同裁判所ハ之ヲ公判廷ニ顯出シテ各被告人ニ示シタルニ各被告人及其ノ辯護人ハ原本ノ送付ニ非サル點ニ付第二審ノ辯論終結ニ至ルマテ何等ノ異議ヲ述ヘサリシモノトス

○ 理由

被告人末松次男辯護人伊藤和三郎追加上告趣意書第四點原審判決ハ其ノ理由第四ニ於テ「(イ)其ノ後大正十三年八月二十三日頃被告人喜一郎肩書居宅ニ於テ被告人次男ヨリ其ノ妻ノ流産ニ託シテ出金ヲ求メラルルヤ即時同所ニ於テ同人ニ對シ前記職務上ノ處置其ノ他ニ對スル謝禮トシテ現金壹百圓ヲ供與シ(中略)被告人次男ハ前掲職務ニ從事中右(イ)(ロ)ノ日場所ニ於テ其ノ記載ノ如キ職務上ノ處置ニ對スル謝禮ノ趣旨ニ出ツルモノナル事ヲ了知シ乍ラ同掲記ノ金圓ノ各供與ヲ受ケテ其ノ職務ニ關シ夫々收賄シ且後日之ヲ自己ノ用途ニ費消シ」ト判示シタリ此ノ判示ニ依ルトキハ前段ニ於テ被告人喜一郎

賄賂ト賄賂ニ非サル謝禮トヲ兼ネタル金錢ノ收受ト沒收又ハ追徴 書類取寄ノ照

カ上告申立人タル被告人次男ニ供與シタル金百圓ハ職務上ノ處置ニ對スル謝禮ノミニアラス其ノ他ニ對スル謝禮ヲモ包含スルモノナル事ヲ明カニ認メ乍ラ其ノ次段ニ於テ上告申立人カ右金圓全部ヲ職務上ノ處置ニ對スル謝禮ノ趣旨ヲ以テ收賄シタリト認定シタルハ同一事實ニ付認定ニ前後矛盾ノ違法アルノミナラス前段認定ノ如クナラハ金百圓ハ職務上ノ處置其ノ他ニ對スル謝禮ナルヲ以テ百圓全額ニ付賄賂トシテ追徵スヘキ性質ノモノニアラス然ルニ原判決ハ其ノ主文ニ於テ右金額全部ヲ賄賂トシテ追徵ヲ命シタルハ違法ナリト云フニ在リテ○原判決ノ認定事實ハ所論ノ如シト雖公務員ニ對スル金圓ノ贈與カ職務上ノ謝禮ト職務外ノ謝禮トヲ兼ネ之ヲ分別スルコトヲ得サルトキハ其ノ全部ニ付賄賂ノ性質ヲ具有スルモノト認ムヘキヲ以テ結局原判決ハ所論ノ如キ理由ニ齟齬アリト爲スヲ得サルノミナラス全部ニ付賄賂ノ性質ヲ具有スル以上原判決カ其ノ全部ノ賄賂トシテ其ノ價額ヲ追徵シタルハ正當ナリ論旨理由ナシ

同第五點原審記錄ニ依レハ昭和二年五月二十七日ノ公判ニ於テ上告申立人タル被告人末松次男ノ辯護人古賀英ハ京都府下京稅務署ヨリ大正十三年度所得稅調查簿及同十四年度所得稅調查簿ノ取寄ヲ申請シタルコトハ同日公判調書及同辯護人ノ證據書類取寄申請書ニ依リ明カニシテ同申請ノ許容セラレタルコトハ原審第四回公判調書第四四三六葉以下ニ「裁判長ハ合議ノ上曩ニ辯護人ヨリ申請アリタル右證據申請中被告麻田治郎一ノ爲ノ書類取寄申請中ノ一項及二項ノ書類ノ取寄及其ノ他各辯護人ノ各證

人喚問ノ申請ハ何レモ總テ之ヲ却下スル旨決定ヲ告ケタリ裁判長ハ右却下シタル以外ノ當審ニ於ケル各辯護人ヨリノ書類取寄申請ニヨリ各所管官廳ヨリ取寄セタル記錄四〇八八丁以下記載又ハ編綴ノ各書類ヲ示シタリ」トアルニ徵シ明カナリトス然ルニ原審記錄第四〇八八丁以下ノ記載又ハ編綴ノ各書類中ニハ被告次男ノ爲辯護人古賀英ヨリ取寄申請シタル前記ノ京都府下京稅務署大正十三年度及同十四年度所得稅調查簿ナキノミナラス原審記錄第三七三五丁乃至第三七三九丁ノ書類取寄囑託書中ニモ右申請ニヨル調査簿ノ取寄囑託ヲ爲シタル形迹ナシ即チ原審ハ被告人次男ノ爲辯護人ノ申請ニ基ク證據書類取寄ノ決定ヲ爲シ乍ラ其ノ取寄及證據調ヲ爲ササルハ審理不盡ニシテ判決ヲ爲シタル重大ナル違法アルモノナリ假リニ原審第四回公判調書第四四三六丁以下ノ記錄ニテハ前記辯護人古賀英ノ書類取寄申請ニ對スル許否ハ不分明ナリト解釋スルコトヲ得ルモノトセハ原審ハ辯護人古賀英ノ右證據書類取寄申請ニ對シ許否ノ決定ヲ爲サスシテ判決ヲ與ヘタルモノニテ之レ又審理不盡ノ違法判決ニシテ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ○所論證據申請ニ付テハ原裁判所ニ於テ之ヲ許容シ當該稅務署ニ對シ之カ取寄ノ照會ヲ爲シ同稅務署ヨリハ當該調査簿ノ寫ヲ送付シ來リタルヲ以テ之ヲ各被告人ニ示シタルコトハ原審公判調書ノ記載及本件記錄第三七三八丁及第四〇九三丁以下ニ編綴セラレアル書類ニ徵シ明白ニシテ被告人及辯護人ハ原本ノ送付ニ非サル點ニ付何等ノ異議ヲ述ヘタル事迹ナク且其ノ寫ノ内容ハ原本ト異ナル所ナキモノト認ムヘク被告人等ハ此ノ決定ノ施行ニ對シ満足シ

【要旨第二】

賄賂ト賄賂ニ非サル謝禮トヲ兼ネタル金圓ノ收受ト沒收又ハ追徵 書類取寄ノ照會ニ對シ寫ノ送付アリタル場合ト不服ノ申立

類ノ卸賣ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス
 相續ニ依リ前項ノ營業ヲ繼續スル場合ハ許可ヲ受ケタルモノト看做ス
 銃砲ノ修繕又ハ改造ノ業ヲ營ム者ハ銃砲製造業者ト看做シ火藥類ノ變形又ハ修理
 ノ業ヲ營ム者ハ火藥類製造業者ト看做ス
 銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條 拳銃、短銃又ハ仕込銃ハ職務又ハ銃砲ニ關ス
 ル營業ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外所轄警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ授
 受、運搬又ハ携帯スルコトヲ得ス
 前項ノ規定ハ仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ニ之ヲ準用ス
 同規則第四十二條 營業者ハ許可ヲ受ケサル者ニ銃砲火藥類又ハ第三十九條ノ武器
 ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ讓受ニ付許可ヲ要セサル場合及銃砲火藥類取締法施行
 區域外ニ居住スル者ニシテ當該行政官廳ニ依リ移入ノ許可ヲ受ケタルモノニ對シ
 銃砲火藥類ヲ移出讓渡スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 刑事訴訟法第四百二十五條 上告趣意書ニハ上告ノ理由ヲ明示スヘシ
 訴訟手續ノ法令ニ違反スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ違反ニ關スル事實ヲ表
 示スヘシ
 第四百十二條及第四百十四條ノ場合ニ於テハ訴訟記録及原裁判所ニ於テ取調ヘタ
 ル證據ニ現ハレサル事實ヲ援用スルコトヲ得ス
 第四百十三條ノ場合ニ於テハ事實ヲ表示シ其ノ證據ヲ差出スヘシ

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ事實ヲ認定シ被告人原助衛ニ對シテハ銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條第
 四十五條刑法第六十二條第一項第五十五條第六十三條第六十八條第三號銃砲火藥類取締法第三條第一
 項第十六條第一項刑法第四十五條前段第四十七條第十條被告人中島巖ニ對シテハ銃砲火藥類取締法第
 三條第一項第十六條第一項刑法第五十六條第五十九條第五十七條ヲ各適用シテ被告人原助衛ヲ懲役六
 月被告人中島巖ヲ懲役一年ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
 第一被告人寅吉ハ銃砲火藥類商ナル處三井敏盛事野中濱吉ヨリ拳銃及同實包ノ讓渡方ノ依頼ヲ受ケ同
 人カ銃砲火藥類ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サルニ拘ラス
 拳銃及同實包ヲ支那方面ニ密輸出スルモノナルコトヲ知悉シナカラ之ヲ承諾シ大正十四年三月初旬頃
 ヨリ同年六月末頃迄ノ間二十一回ニ亙リ拳銃合計千六百八十九挺同實包合計十八萬個ヲ東京市内其ノ
 他ニ於テ右濱吉ニ讓渡シ以テ濱吉等カ左記第四記載ノ如ク拳銃及同實包ヲ支那大連其ノ他ニ密輸出シ
 タル行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

第三被告人助衛ハ銃砲火藥類商佐藤清太郎ノ代理主任ナル處

(一) 犯意繼續シテ大正十四年三月頃豫テ知合ナル被告人直興ノ依頼ニ基キ被告人寅吉カ法定ノ資
 格ナキ者ニ對シ拳銃實包ノ讓渡ヲ爲スモノナル事情ヲ知悉シナカラ同年三、四月頃前後三回ニ亙リ
 佐藤商店ノ營業帳簿ニ同實包合計六萬個ヲ被告人寅吉ヨリ讓受ケタル如ク假裝ノ記入ヲ爲シタル上

銃砲火藥類取締法第三條ノ拳銃、短銃、同實包ノ讓渡方ノ依頼ヲ受ケタル者ニ對シテハ、
 銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條ノ武器ノ

其ノ買受證ヲ同人ニ交付シ

更ニ同年五月頃右佐藤商店カ拳銃及實包ノ販賣ヲ中止スルノ己ムナキニ至ルヤ豫テ知合ナル静岡縣富士郡吉原町火藥類商藤波徳次郎ニ依頼シ同年六月頃同人ヲシテ其ノ帳簿ニ拳銃ノ實包八萬個ヲ四回ニ被告人寅吉ヨリ讓受ケタルモノノ如ク假裝ノ記入ヲ爲サシメ同時ニ其ノ買受證ヲ作成セシメテ之ヲ被告人寅吉ニ交付セシメ因テ同被告人ノ前記實包ノ讓渡行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

(二) 行政官廳ノ許可ヲ受ケスシテ大正十三年十一月初旬頃ヨリ大正十四年六月末日頃迄ノ間前後數十回ニ互リ神戸市内其ノ他ニ於テ拳銃合計一万七千四百七十八挺同實包合計百九十一万二千六百個ヲ法定ノ資格ナキ被告人巖等ニ讓渡シ以テ銃砲火藥類販賣ノ營業ヲ爲シ

第四被告人政吉ハ銃砲火藥類商ニアラス且行政官廳ノ許可ナキモノナル處前記野中濱吉ト共謀ノ上拳銃及同實包ヲ支那方面ニ密輸出センコトヲ企テ大正十四年三月頃ヨリ同年六月頃迄ノ間前後十數回ニ互リ右濱吉カ被告人寅吉ヨリ讓受ケタル前記拳銃及實包ノ内拳銃合計五百挺實包合計八萬個ヲ神戸市榮町四丁目大森回漕店ノ手ヲ經テ神戸港ヨリ支那大連天津青島等ニ密輸出ヲ爲シ

第六被告人巖ハ行政官廳ノ許可ナキニ拘ラス大正十四年三月頃ヨリ同年六月末頃迄ノ間前後六回ニ互リ神戸市内ニ於テ被告人作治郎ニ對シ拳銃合計二百二十四挺及同實包合計二万九百個ヲ讓渡シ以テ銃砲火藥類販賣ノ營業ヲ爲シタルモノナリ

尙被告人巖ハ大正八年二月十七日東京區裁判所ニ於テ横領詐欺罪ニ因リ懲役一年二月ニ同年五月十二日臺北地方法院ニ於テ横領罪ニ因リ懲役一年ニ大正十二年一月三十日大垣區裁判所ニ於テ文書偽造行使罪ニ因リ懲役六月ニ各處セラレ何レモ其ノ當時刑ノ執行ヲ終ヘタルモノナリ

被告人原助衛ノ辯護人ハ被告人助衛ハ銃砲火藥類營業者タル佐藤清太郎ノ代理人ナリシヲ以テ同被告人ノ本件所爲ニ付テハ營業者本人ニ於テ其ノ責ニ任スヘク從テ同被告人ハ當然無罪タルヘキ旨辯疏スレトモ被告人助衛ノ判示ノ各所爲ハ營業者タル佐藤清太郎ノ營業ニ關スルモノト認メ難キノミナラス銃砲火藥類取締法規違反ノ犯罪行爲ヲ構成スルモノナルヲ以テ同被告人自ラ之カ刑責ヲ負擔スヘク敢テ其ノ營業者本人ヲシテ其ノ責ニ任セシムヘカラサルコト論ヲ俟タサル所ナルニ依リ右辯護人ノ辯疏ハ之ヲ排斥ス

被告人中島巖辯護人赤井幸夫ハ相被告辯護人ノ上告論旨ヲ援用シタルカ相被告人ノ一人タル渡邊寅吉ハ其ノ辯護人ヨリ上告趣意書ノ提出アリタル後昭和三年三月一日死亡シ當院ハ同月十三日同人ニ對シ公訴棄却ノ決定ヲ爲シタリ

○ 理 由

被告人中島巖辯護人秋山高三郎高橋順一上告趣意書第二點原審判決ニハ被告人ニ對シ累犯ノ加重ヲ爲スニ當リテ其ノ前キニ受ケタル刑ノ執行ヲ了リタル事實ヲ確定セサルノ失當アリ此點ニ關スル原審公判ノ取調ハ第三回公判調書ニ記載セラレアリ「此時裁判長ハ本

銃砲火藥類取締法第三條ト拳銃 銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條ノ武器ノ
意義 相被告辯護人ノ上告理由ノ援用ト相被告人ノ死亡

件記録第三冊三九八丁ノ被告人ニ對スル前科調査ヲ讀聞ケ問此ノ通り相違ナキヤ答オ讀ミ聞ケ通リノ前科ニ相違アリマセトノ問答ノ記載アルニ過キスシテ前科調査ニハ素ヨリ其ノ刑ノ執行済ナリヤ否ヤノ記載ナク原審裁判所ハ被告人ニ對シ其ノ刑ノ執行了リタルヤ否ヤヲ確カムルコトナキヲ以テ右ノ刑ノ執行ニ關シテハ全ク不明ニ終レリ右第三回ノ公判ノ審理ハ第四回公判ニ依ツテ更新セラレタル事ハ第四回公判調査ノ記載ニヨリ明カナルモ其ノ記載ニ依ルモ尙右刑ノ執行了リタルヤ否ヤノ點明白ナラス前二言渡サレタル刑力累犯加重ノ原因タルニハ其ノ刑ノ執行了リタル事ヲ要スルヤ論ヲ俟タス原審判決ハ右刑ノ執行了リタル旨記載セリト雖公判ニ於テ其ノ事實ヲ確ムルコトナク取調ヲ爲サスシテ刑罰加重ノ事實ヲ認定シタルニ歸着シ失當ナルコト洵ニ明白ナリト思料スト云フニ在レトモ○原判決ハ被告人ノ前科ニ付其ノ執行了リタル事ヲ確定シ之ニ對シ累犯ノ規定ヲ適用シタルコト同判決ノ說明ニ徴シ明白ニシテ假令公判ニ於テ被告人ニ對シ刑ノ執行了リタルヤ否ヤニ付裁判所ノ訊問取調ナシトスルモ之カ事實ヲ確定スルニ妨ケサルモノナレハ論旨理由ナシ

同第四點原審判決カ被告人ノ所爲ヲ營業ナリト認定シタルハ失當ナリト思料ス原審認定ノ事實ハ悉ク被告人ノ否認スル所ナリト雖假ニ被告人ニ對シ右ノ如キ犯行アリト爲スモ之ヲ目シテ營業ナリトスルノ當否ヲ疑ハサルヲ得ス原審判決ハ此ノ點ニ關シ讓渡行爲ヲ數回反覆シタル事跡自體ニ依リ明瞭ナリト説明スレトモ或種ノ行爲ヲ反覆シタルコトノミヲ以テ足ラス之ヲ不特定人ニ對シテ爲ス意思アルヲ必要トス而シテ本人ノ供述或ハ其ノ設備等ニ依テ不特定人ニ對シテ之ヲ爲スノ意思ニ基キタル事ヲ認メサルヘカラス本件認定事實ノ如ク一特定人ニ對シ極メテ短期間内ニ僅カニ數回其ノ行爲ヲ反覆シタル事實ノミヲ以テ之ヲ營業ナリト斷シタルハ妄斷ニシテ失當ナリト云ハサルヲ得スト云フニ在レトモ○營業トハ營利ノ目的ヲ以テ同種ノ行爲ヲ反覆スルヲ指稱スルモノニシテ必スシモ不特定人ニ對シテ爲ス事ノ意思アル事ヲ要セサルモノナレハ論旨理由ナシ

同第五點原審判決ニハ錯誤存ス原審判決ハ許可ナクシテ拳銃ノ販賣營業ヲ爲シタルモノハ銃砲火藥類取締法第三條第十六條ニ違反スト爲セトモ元來銃砲火藥類取締法令ニ於テ拳銃ヲ銃砲ノ一種ト看做セルヤ否ヤハ疑問ノ存スル所ナリト思料ス銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニハ「拳銃短銃又ハ仕

込杖ハ云々」トアリ其ノ第四十二條ニハ「銃砲火藥類又ハ第三十九條ノ戎器云々」トアリテ第三十九條掲クル所ノ拳銃ハ第四十二條ノ規定ニ依レハ銃砲火藥類ニ非サルコトヲ示セルモノナリト思料ス果シテ此ノ見解ニシテ謬リナクンハ拳銃販賣ノ行爲ヲ以テ許可ヲ受ケスシテ銃砲ヲ販賣シタルモノト爲シ得サルヤ明白ニシテ原審判決ノ擬律ハ之ヲ誤レルモノト爲ササルヲ得ス加之假リニ之ヲ銃砲ナリトスルモ銃砲火藥類取締法第一條ニ依レハ銃砲ニハ軍用銃砲ト非軍用銃砲トノ二種アリ其ノ軍用銃砲ノ意義ヲ同條第二項ニ於テ千メートル以上ノ距離ニ有効ニ彈着スヘキ裝置ヲ有シ陸軍又ハ海軍ノ用ニ供シ得ヘキ銃砲ヲ軍用銃砲ト爲シ居リテ斯種ノ裝置ヲ有スル拳銃數種存シ現ニ軍用ニ供セラレ居ル事ハ顯著ナル事實ニシテ法令ハ軍用ト非軍用トニ依ツテ其ノ適用ヲ異ニシ販賣營業者ニ非スシテ軍用銃砲讓渡ヲ爲シタル如キハ罰金又ハ科料ニ處セラルルニ過キサル事銃砲火藥類取締法第六條第十九條ノ規定ニヨリ明カナルカ故ニ其ノ讓渡行爲ヲ處罰セントスレハ軍用銃ナリヤ非軍用銃ナリヤヲ明カニシテ之ヲ判決ニ明示スヘク之ヲ缺ケル原審判決ハ理由ヲ具備セサルモノト爲ササルヲ得スト云フニ在レトモ○銃砲火藥類取締法第三條ニ於ケル銃砲ト稱スルハ同法施行規則第一條ニ依ルトキハ軍用及非軍用ノ銃砲ヲ謂フモノニシテ其ノ中ニ拳銃ヲ包含スルコト勿論ニシテ同取締法施行規則第四十二條ノ規定アルノ故ヲ以テ之ニ包含セスト爲ス事ヲ得ス何トナレハ同規則第四十二條ニ於ケル第三十九條ノ戎器トハ單ニ同條第二項ニ規定セル仕込刀劍其ノ他變裝シタル戎器ヲ指稱スルニ過キサルモノニシテ拳銃

【要旨第一】
【要旨第二】

銃砲火藥類取締法第三條ノ拳銃ノ銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條ノ戎器ノ意義相被告辯護人ノ上告理由ノ採用ト相被告人ノ死亡

ノ如キハ專口銃砲火藥類ノ中ニ包含セシムルノ趣旨ナルコト是等法條ノ文意ニ照シ明白ナレハナリ而シテ前述ノ如ク同銃砲ノ中ニハ軍用銃砲ト其ノ他ノ銃砲トヲ包含スルモノナレハ之ヲ區別シテ明示セサルモ同法第三條第十六條ノ適用ヲ爲スニ何等ノ妨ナキモノトス論旨理由ナシ

被告人原助衛辯護人秋山高三郎高橋禎一上告趣意書第一點原審判決ニハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ノ規定ニ從ヒ示スヘキ判斷ヲ示ササルノ失當アリ原審公判廷ニ於テ辯護人ヨリ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ基キ判斷ヲ求ムル趣旨ヲ以テ二ケノ抗辯ヲ提出シタルコトハ公判調書ノ記載ニ依テ明ナリトス該抗辯ノ要旨ハ其ノ第一ハ營業者カ許可ヲ受ケサル者ニ銃砲火藥類ヲ讓渡スル行爲ヲ處罰スルコトカ銃砲火藥取締法施行規則第四十二條ノ法意ナルヲ以テ假裝ノ讓渡所謂「空廻」ナル被告人ノ行爲ハ右第四十二條ニ該當スルモノニアラスト云フニ在リ其ノ第二ハ假リニ其ノ行爲ヲ四十二條ニ該當スルモノト爲スモ同條ノ犯罪主體ノ營業者ナルコトハ明文上明ニシテ營業使用人タルニ過キサル被告人ノ行爲ヲ同條ヲ以テ律スルコトヲ得スト爲スニアリタリ而シテ原審判決ハ其ノ第二ノ抗辯ニノミニ關シテ「被告人ノ本件所爲ニ付テハ營業者本人ニ於テ其ノ責ニ任スヘク縱テ被告人ハ全然無罪ナルヘキ旨辯疏スレトモ被告人ノ所爲ハ營業者タル佐藤清太郎ノ營業ニ關スルモノト認メ難ク」云々ト説明セルニ過キスシテ前記第一ノ抗辯ニ關スル判斷ヲ示ザサルハ刑事訴訟法第三百六十條第四十條第二十號ニ違反セルノ失當アルモノニシテ破毀ヲ免レスト思料スト云フニ在レトモ○原判決ノ事實認定ニ依レハ被告人ハ渡邊寅吉カ法定ノ資格ナキ者ニ對シ拳銃實包ノ讓渡ヲ爲スニ當リ之カ幫助ヲ爲シタリト云フニ在リテ所論ノ如ク假裝ノ讓渡行爲ナリト認メタルモノニ非サレハ所論ノ主張ハ自ら排斥セラレタルモノト認ムヘキノミナラス其ノ主張ハ要スルニ本件犯罪事實ニ對スル單純ナル否認ナリト解スヘク刑事訴訟法第三百六十條第二項ノ主張ニ該當セサルモノトス論旨理由ナシ

同第三點原審判決ハ被告人ノ所爲ニ對シ併合罪ノ法條ヲ適用シ加重ノ刑ヲ科シタルハ失當ナリ原審判決ハ原審法廷ニ於テ辯護人ヨリ被告人ノ所爲ハ併合罪ヲ構成スルモノニ非ストノ抗辯即チ刑事訴訟法第三百六十條第二項後段ノ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張ヲ爲シタルニ拘ラス之ニ對シテ何等ノ判斷ヲ示ササルノ失當ニ坐シタルノミナラス前點所論ノ如ク被告人ノ所爲ハ別個ノ二所爲ニ非スシテ同種繼續ノ所爲ナルコト明カナルヲ以テ之ニ對シテ併合罪ノ法條ヲ適用シ刑ノ加重ヲ爲シタルハ失當ナリト思料スト云フニ在レトモ○併合罪トシテ刑ヲ加重スヘキヤ否ヤハ單一犯罪カ一個ナリヤ數個ナリヤニ依テ決定セラルルモノニシテ之ヲ以テ直チニ當該犯罪ニ對スル刑ノ加重原由ナリト認ムル事ヲ得サルモノナレハ所論ノ主張ヲ以テ直ニ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂刑ノ加重ノ原由タル事實上ノ主張ト稱スル事ヲ得サルノミナラス原判決ノ說明ニ依レハ所論辯護人ノ主張カ排斥セラレタル事自ラ明ニシテ所論事實ニ付原判決カ併合罪ト認定シ之ニ對シ刑法第四十七條ヲ適用シ刑ノ加重ヲ爲シタルハ相當ナリ論旨理由ナシ

同第四點原審判決ニハ理由不備存ス此點ニ關シテ原審認定第一事實第三ノ(一)ノ事實トシテ判示セラルル所ヲ比較觀察スレハ直ニ判明スル所ニシテ即チ第三ノ(一)トシテ被告人助衛ニ對シテ認定スル所ハ相被告人寅吉カ法定ノ資格ナキ者ニ對シテ銃砲實包ノ讓渡ヲ爲スコトヲ知りテ佐藤商店ノ帳簿ニ買受ケノ記帳ヲ爲シ買受證ヲ作成シテ之ヲ同人ニ交付シ相被告人寅吉ノ實包ノ讓渡行爲ヲ容易ナラシメテ則チ同人ノ犯罪行爲ヲ幫助シタリト爲スニ在リ從テ此ノ記載ニ依レハ相被告人寅吉ノ犯罪行爲トシテ實包ノ讓渡行爲ナルモノ存スルコトヲ要ス而シテ贖ツテ第一事實トシテ相被告人寅吉ニ對シテ認定シタル判示ヲ見レハ同人カ野中寅吉ニ對シテ拳銃及實包ヲ讓渡シ同人ノ銃砲火藥類密輸出ノ行爲ヲ容易ナラシメ之ヲ幫助シタリト云フニ在リテ文字ノ上ニハ「讓渡シ」トノ記載アルモノヲ讓渡ノ犯罪行爲ト認メタルニ非サルコトハ同人ニ對スル適條ニ銃砲火藥類取締法第八條第十六條第一項ヲ引用セルコトニ徴シテ明カナリトス則チ原審判決ハ被告人寅吉ノ讓渡行爲カ讓渡行爲トシテ處罰シタルニ非スシテ其ノ讓渡行爲カ野中寅吉ノ密輸出行爲ヲ容易ナラシムル結果ト爲ルヲ以テ此ノ點ヨリ處罰シタルモノナリト謂ハサル可ラス然ラハ原審判決ハ第一事實ニ於テ相被告人寅吉ニ對シテ讓渡行爲ヲ犯罪ト認メサルニ拘ラス第三ノ(二)ニ於テ被告人ニ對シテハ寅吉ノ實包ノ讓渡行爲ヲ幫助シタリト爲スモノニシテ其ノ間理由ノ組織存スト爲ササルヲ得ス又若シ判決ノ趣旨ハ相被告人寅吉ノ野中寅吉ニ對スル讓渡行爲即チ寅吉ノ密輸出行爲ノ從犯ナリト爲スモノナランニハ其ノ所爲ヲ幫助シタル被告人助衛ノ所爲ハ所謂從犯ノ從犯ニシテ犯罪ヲ構成セサルモノト謂ハサルヲ得ス原審判決ハ本來從犯ノ從犯トシテ處罰シ難キモノヲ強ヒテ處罰セントシ正犯ニハ密輸出行爲ノ從犯ヲ認メ其ノ從犯行爲ハ實ハ密輸出行爲自體ナル讓渡行爲ヲ別個ノ如ク爲シテ之ヲ幫助シタリトシテ從犯ノ從犯タリトノ攻撃ヲ避ケントシタルカノ嫌アリ特ニ被告人助衛ノ所爲ヲ相被告人寅吉ノ所爲ノ幫助トシナカテ助衛ニハ第四十二條ヲ寅吉ニハ第十六條ヲ適用シ主犯ト從犯トノ間ニ其ノ適條

銃砲火藥類取締法第三條拳銃 銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條ノ武器ノ
憲義 相被告人辯護人ノ上告理由ノ採用ト相被告人ノ死亡 四〇五 (三七)

ヲ異ニスルカ如キハ殆ント想像タモ及ハサル所ニシテ失當タルコト洵ニ明白ナリト思料スト言フニ在レトモ○原判決ノ事實認定ニ依
レハ被告人ハ渡邊寅吉カ他ノ者ハ拳銃實包ヲ讓渡スル事カ其ノ者ノ密輸出ノ爲ナル事ノ情ヲ知ラス單ニ同人カ法定ノ資格ナキ者ニ對
シ拳銃實包ノ讓渡ヲ爲スモノナルノ情ヲ知り之ニ對シ所論ノ幫助行爲ヲ爲シタリト言フニ在レハ右寅吉ニ對スル責任如何ニ拘ラス被
告人ニ對シ密輸出ニ關スル銃砲火藥類取締法第十六條ノ規定ヲ適用セス單ニ同法施行規則第四十二條第四十五條ヲ適用シ之カ從犯ト
シテ刑法第六十二條ヲ適用シタルハ相當ナリ論旨理由ナシ

同第六點原審判決ニハ處罰ス可ラサル所爲ヲ處罰シタルノ失當アリト思料ス原審判決カ被告人ニ對シテ第三ノ(一)トシテ認定シタ
ルカ如キ事實即チ營業者ノ代理人トシテ其ノ營業帳簿ニ買入レサルモノヲ買入レタル如ク記載シ之ニ關スル買受證ヲ發行シテ他人ニ
交付シタル所爲カ銃砲火藥類取締法令ニ違反スルヤ否ヤハ大ニ考究ニ値スル問題ナリト思料ス銃砲火藥類取締法令ハ危險ナル銃器ノ
輕々シク轉賣スルコトヲ防止セルトコロノ法令ニシテ專ラ現品ノ所有者占有者ノ變更ヲ嚴重ニ取締ラントスル趣旨ニ出テタルモノナ
リ故ニ取締法施行規則第四十二條ニ讓渡又ハ讓受ト稱スルハ現品ノ所有權又ハ占有ノ移動スル行爲ヲ指稱スルモノニシテ現品ノ所有
權又ハ占有權ノ移動ハ帳簿ノ記載又ハ買受證ノ存在ニ依ツテ行ハルルニ非スシテ原審第一事實認定ノ如ク相被告人寅吉ハ許可ヲ受ケ
サルモノナルヲ知リナカク野中濱吉ニ讓渡スルモノナルカ故ニ被告人助衛ノ帳簿ノ記載存セストモ被告人助衛ノ買受證之レナキモ決
シテ其ノ讓渡行爲ヲ不可能又ハ困難ナラシムルモノニ非ス唯現品ト帳簿トノ對照検査ヲ受クルニ際シ其ノ行途ヲ明カニシ置ク必要上
自己カ賣主トシテ記載シタル營業者ノ帳簿ニ買受ノ記載アルヲ必要ト爲スノミ從テ其ノ記載カ現品交付ノ前ニアルモ後ニ在ルモ買受
證ノ交付カ現品授受ノ後ニアルモ前ニ在ルモ何等關スル所ニ非ス前ニ現品ノ授受行ハレ之カ犯跡ヲ蔽ハシメニ記載ヲ爲シ買受證
ヲ整ヘタリトスレハ所謂事後ノ從犯トナリテ犯罪ヲ構成セサルコト明カナリ此關係ヲ觀ル時被告人ノ所爲ハ銃砲火藥類取締法令ニ謂
フ所ノ讓渡行爲ト何等關係ナキモノニシテ施行細則第四十二條ニ該當セサルハ勿論銃砲火藥類取締法令ニハ斯ノ種ノ所爲ヲ處罰スル
ノ規定存スルナク或ハ法令ノ不備ニアラスヤト思料ス執レニスルモ被告人ノ所爲ハ銃砲火藥類取締法令上ノ犯罪ヲ構成セサルモノニ
シテ原審判決カ之ヲ處罰シタルハ失當ナリト思料スト云フニ在レトモ○原判決ノ認定ニ依レハ所論ノ所爲ハ拳銃實包ノ讓渡ヲ容易ナ
ラシムルモノナル事勿論ナレハ之ニ對シ從犯トシテ刑法第六十二條ヲ適用處罰シタルハ相當ナリ論旨理由ナシ

同第八點原審判決ニハ被告人ノ一人ニ對シ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘサリシ失當アリ原審第八回公判調書ニハ相被告人野中政吉不出
頭ノ爲メ同人ニ對スル審理ヲ分離スル旨ノ記載アリ而シテ第一回乃至第七回ノ公判調書ノ何レニモ同人ニ對シ最終ノ陳述ヲ爲ス可キ
機會ヲ與ヘタル旨ノ記載存セス第九回及第十回ニ於テハ同被告人ハ引續キ出頭シ居ラス最終第十一回公判調書ノ記載ニ據レハ同人カ
出頭シタルコト明白ナリトス原審裁判所ハ此ノ時ニ於テ同被告人ニ最終ノ陳述ヲ爲ス可キ機會ヲ與フ可カリシニ拘ラス之ヲ爲スコト
ナクシテ直ニ他ノ事件ヲ併合シ判決ヲ言渡シタル旨ノ記載アリテ同被告人ニ對シテハ結局途ニ最終ノ陳述ノ機會ヲ與ヘサリシモノニ
シテ原審判決ノ同被告人ニ對スル部分ハ刑事訴訟法第一百十七條ニ違反シ破毀ヲ免レスト思料ス既ニ同被告人ニ對スル認定事實
ニシテ事實ノ審理ヲ受ケ從テ原審事實ノ變更スル場合アル可キコト明カナリトスレハ同被告人ノ犯行ヲ幫助シタリトセラルル相被告
人渡邊寅吉ニ對スル認定事實モ亦變更セラルル事ヲ豫期セサルヲ得ス而シテ被告人助衛ハ右寅吉ノ犯行ヲ幫助シタリトセラルルモノ
ナルヲ以テ被告人助衛ニ對スル事實モ亦動ト爲リ結局原審判決ノ被告人ニ對スル部分モ亦破毀ヲ免レスト思料スト云フニ在リテ○
假ニ所論ノ如キ違法アリトスルモ其ノ違法ハ他ノ被告人ニ關スルモノニシテ被告人助衛ニ對シテハ何等ノ影響ヲ及ホスヘキモノニ非
サレハ之ヲ以テ同被告人ノ上告趣意ト爲スハ當ラス論旨理由ナシ

被告人中島巖辯護人赤井幸夫上告趣意書第四點原判決ハ請求ヲ受ケタル事件ニ付判斷ヲ爲ササル違法アルモノナリ本件豫審終結決定
ニハ上告人ニ付テハ原判決ニ認メラレタル事實ノ外「銃砲火藥類取締法」ノ代理主任被告人助衛ヨリ支那方面ニ密輸出スル目的
ヲ以テ大正十四年三月初旬頃ヨリ同年六月末頃迄ノ間前後數十回ニ互リ神戸市内及其ノ他ニ於テ拳銃合計九千七百八十七挺拳銃實包
合計九十二萬四千四百個ヲ讓受ケ其ノ頃之レヲ神戸市内其ノ他ニ於テ他ニ讓渡シタル事實ニ付公判ニ付スル旨ノ記載アリ原審檢事
亦被告人巖ニ對シ原審力不問ニ付シタル犯罪事實ハ當院ニ於テ之ヲ認メサルヘカラス依テ被告人巖ニ對シテ審理ノ範圍ヲ擴張スヘキ
モノニシテ第二審ノ判決前ニ於ケル行爲ハ第二審判決ニヨリ中斷スルモ被告人助衛ノ自供シ居ル事實ハ當然被告人巖ニ對シテモ亦其
ノ事實ヲ認定セサルヘカラスト主張シタルコト原審公判調書ノ記載ニ徴シテ明ナル處ナリトス然ルニ原判決カ右事實ニ對シテ何等
ノ判斷ヲ爲スコトナカリシハ違法ニシテ此點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ○被告人ニ對スル本件公訴ノ事實カ
行政官廳ノ許可ヲ受ケスシテ銃砲火藥類ノ販賣ノ營業ヲ爲シタリト言フニ在ル事豫審請求書同決定書ノ記載ニ徴シ明白ナレハ所論ノ

銃砲火藥類取締法第三條ト拳銃 銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條ノ武器
ノ意ニ 相被告人ノ上告理由ノ採用ト相被告人ノ死亡 四〇七 (三三)

兩個ノ事實ハ相合シテ單一ノ公訴事實ト認ムヘキモノナレハ之ニ對シ審理判決ヲ爲シタル以上營業行爲ノ一部タル銃砲火藥類ノ販賣ノ各個ノ事實ニ付公訴事實全部ヲ認メサリシトスルモ之ヲ以テ原判決ニ對シ所論ノ如キ違法アリト爲スヲ得サルハ勿論ナリ論旨理由ナシ

【要旨第三】

同第五點相被告人辯護人ノ上告論旨ハ之ヲ引用スト云フニ在レトモ○共同被告人渡邊寅吉辯護人大井靜雄西原要カ提出ノ上告趣意ニ付テハ被告人寅吉ハ死亡シ之カ公訴ニ付テハ既ニ公判前ニ於テ棄却セラレ本件訴訟關係ヨリ全然離脱シタルモノナレハ援用ノ效ナク其ノ他ノ共同被告人辯護人提出ノ上告趣意ニ付テハ援用論旨ノ理由ナキ事夫々前述説明ニヨリ明ナルヲ以テ茲ニ之カ説明ヲ援用ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省畧ス)

以上ノ理由ニヨリ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事平井彥三郎關與

○市會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和三年(九)第五八四號) 棄却
(同年五月二十九日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 中塚安次郎 辯護人 永田良雄

【第一審】 和歌山地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

市制第四十條ノ法意ト準用セラルル法律ノ變更アリタル場合

○判決要旨

市制第四十條ノ規定ハ同條所定ノ議員選舉ニ付其ノ選舉時ニ施行セラルル衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用スルノ趣旨ト解スヘク從テ市會議員選舉罰則違反事件ヲ審判スルニ當リ其ノ經過ニ於テ犯罪時ト判決時トニ依リ適用スヘキ罰則ヲ異ニスルトキハ刑法第六條ニ則リ之ヲ處斷スヘキモノトス

【參照】 市制(明治四十四年法律第六十八號)第四十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選舉法第八十七條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

市制第四十條ノ法意ト準用セラルル法律ノ變更アリタル場合

- 一 議員候補者カ投票ヲ得ル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢物品手形其ノ他ノ財産上ノ利益又ハ公私ノ職務ノ供與若ハ其ノ供與ノ約束ヲ爲シ又ハ其ノ供與ノ申込ヲ爲シタルトキ
 - 八 第一號乃至第三號前三號ノ供與應接待供給代辨ヲ受ケ若ハ要求シ又ハ第一號乃至第三號前三號ノ申込ヲ承諾シ若ハ第四號乃至第六號ノ誘導ニ應シタルトキ
- 大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法第十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 四 第一號若ハ前號ノ供與、應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

○事實

第二審判決ハ左記ノ事實ヲ認定シ被告人安次郎ノ行爲ニ對シ市制第四十條明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選舉法第八十七條第一項第八號刑法第五十五條ヲ適用シ同被告人ヲ禁錮二月ニ處シタリ被告人菅谷美輝夫ハ貳拾餘年間教育事業ニ携ハリ居タルモノナルカ昭和二年五月中旬頃肩書居住地附近ノ住民竝原審共同被告人神前長一郎下川龜楠等有力者ノ推ス所トナリ同月二十三日頃翌月十一日施行セラレタル和歌山市市會議員選舉ノ一級議員候補者トシテ立候補ヲ宣シタルモノナル處何レモ自己ニ投票ヲ得ル目的ヲ以テ(一)其ノ選舉事務長タリシ選舉運動者加納藤三郎ト共謀ノ上藤三郎ノ手ヲ經テ(イ)同年六月五日頃和歌山市關戸ナル美輝夫ノ選舉運動者ニシテ且一級有權者ナル中塚安次郎方

ニ於テ同人ニ對シ其ノ選舉運動並投票ニ對スル對價トシテ金參拾圓ノ供與ヲ爲シ被告人中塚安次郎ハ和歌山市關戸方面ニ於テ被告人菅谷美輝夫ノ爲ニ選舉運動ヲ爲シ居タル一級有權者ナル處(一)前記第一ノ(イ)記載ノ日場所ニ於テ同掲記ノ趣旨ノ下ニ加納藤三郎ノ手ヨリ金參拾圓ノ供與ヲ受ケ(二)前記選舉ニ際シ一級議員候補者トシテ立候補シタル竹内助一ノ選舉運動者佐竹直太郎ヨリ右竹内助一ノ爲ニ投票セラレ度旨ノ請託ヲ受ケ之ヲ承諾シ其ノ投票ノ對價トシテ同年六月九日頃同市關戸ニ於テ直太郎ヨリ金參拾圓ノ供與ヲ受ケタルモノニシテ以上被告人美輝夫安次郎ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ出テタルモノトス

○理由

刑事訴訟法第四百三十四條第二項ニ基キ原判決ニ於ケル法令ノ適用ノ當否ニ付按スルニ市制(明治四十四年法律第六十八號)第四十條ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用スト規定シ其ノ罰則ニ付テハ法規ノ名稱若クハ法條ヲ舉ケテ之ヲ特定セサルノミナラス同規定ハ衆議院議員選舉法中同議員選舉ニ關スル罰則カ市制施行後ニ於テ數次改正セラレタルニ拘ハラズ大正十年法律第五十八條ヲ以テセル市制中ノ改正ニ於テモ同十五年法律第七十四號ヲ以テセル同改正ニ於テモ變改セラレタルコトナキ事實ニ徴スルトキハ市制第四十條ニ於ケル右規定ハ同條所定ノ議員選舉ニ付キ現在及將來ヲ問ハス其ノ選舉時ニ施行セラルル衆議

【要旨】

市制第四十條ノ法意ト準用セラルル法律ノ變更アリタル場合

院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用セントスルノ律意ナリト解セサルヘカラス從テ市會議員選舉ニ關スル罰則ハ市制第四十條ノ廢止セラレサル限り衆議院議員選舉ニ關スル罰則ト終始シ其ノ後者ノ改正ハ同時ニ前者ノ改正タルヘキ關係ニアルヲ以テ市會議員ノ選舉罰則違反事件ヲ審判スルニ當リ其ノ經過ニ於テ犯罪時ト判決時トニ依リ適用スヘキ罰則ヲ異ニスルコトアルトキハ刑法第六條ニ從ヒ處斷スヘキヤ當然ナリ仍テ之ヲ本件ニ稽フルニ判示被告人ノ犯行ハ犯罪時タル昭和二年六月中ニアリテハ市制第四十條及明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選舉法中大正八年法律第六十號ヲ以テ改正セラレタル前記衆議院議員選舉法第八十七條第一項第八號刑法第五十五條ニ該當シ又原判決ノ言渡シアリタル昭和三年二月二十八日ニアリテハ市制第四十條及同年二月二十日ヲ選舉期日トセル衆議院議員總選舉ヨリ施行セラレタル大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法第一百十二條第四號刑法第五十五條ニ該當シ各適用スヘキ罰則ヲ異ニスルカ故ニ原審ハ刑法第六條ニ則リ叙上ニ法ヲ適用シタル上刑法第十條ニ依リ刑ノ輕重ヲ比較シ輕キ犯罪時法ニ從ヒ處斷セサルヘカラサルモノトス然レハ原判決カ事茲ニ出テス直チニ前記犯罪時法ノミヲ適用シタルハ擬律ニ不法アルヲ免カレスト雖本件ハ刑法第六條ノ適用上結局犯時法ニ依リ之ヲ處斷スヘキニ歸シ右ノ不法ハ判決ニ影響ナキコト明白ナレハ原判決ハ之ヲ破毀スヘキニアラス(辯護人ノ上告理由及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事柴碩文關與

○贓物故買被告事件

(昭和三年(九)第五二八號 棄却)
同年五月三十日第三刑事部判決

【上告人】 被告人 片桐金三郎 辯護人 (鈴木重信 松永東)
【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京地方裁判所

○判示事項

質取始末書ト證據書類

○判決要旨

質取主力其ノ質取ノ顛末ヲ記載シテ之ヲ捜査官廳ニ提出シ刑事記錄中ニ編綴セラレタル質取始末書ハ刑事訴訟法第三百四十條ニ所謂證據書類ニ外ナラサルモノトス

質取始末書ト證據書類

【參照】 刑事訴訟法第三百四十條 證據書類ハ裁判長之ヲ朗讀シ若ハ其ノ要旨ヲ告ケ又ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ朗讀セシムヘシ
單ニ風説又ハ素行ヲ記載シタル書類ニシテ人ノ名譽ヲ毀損スル虞アルモノハ之ヲ朗讀スルコトヲ得ス
前項ノ書類ハ之ヲ被告人ニ示シ被告人文字ヲ解セサルトキニ限り其ノ要旨ヲ告ケヘシ

同法第三百四十一條 證據物ハ裁判長之ヲ被告人ニ示スヘシ
證據物中書面ノ意義證據ト爲ルモノニ付テハ被告人文字ヲ解セサルトキハ其ノ要旨ヲ告ケヘシ

○事實

第二審公判調書ニ依レハ第二審ノ裁判長ハ訴訟記録中ニ編綴セラレタル川本米次郎提出司法警察官中野警察署長警視村田勇宛ノ質取始末書ノ證據調ヲ爲スニ當リ之ヲ被告人ニ示サス其ノ内容ヲ讀聞ケタルモノナリ

○理由

辯護人鈴木重信松永東上告趣意書第二點原判決ハ有罪判決ノ資料トシテ訴訟法上許サレサル證據ヲ援用シ且證據手續ニ違背シ判決ノ材料トナシタル違法アリ蓋シ原判決(記録第二八二丁御參照)ハ「川本米次郎作成ニ係ル質取始末書ト題スル書面ノ記載ニ徴スルニ」云々ト謂ヒ明カニ右川本米次郎作成

ニ係ル質取始末書ヲ證據ニ使用シタリ然レトモ右質取始末書ハ法令ニヨリ作成シタルモノニアラスシテ全ク第三者ノ作成シタルモノニ係リ之ヲ證據トシテ使用センカ爲ニハ必スヤ刑事訴訟法第三百四十三條ノ條件ヲ具備セサルヘカラサルト共ニ之ヲ證據ト爲サンカ爲ニハ公判ニ於テ被告人ニ示シ辯解スルノ機會ヲ與ヘサルヘカラス然ルニ原判決ハ右手續ニ違背シ刑事訴訟法第三百四十三條ノ規定ノ條件具備セサルニ拘ラス之ヲ證據ニ使用シ而モ之ヲ證據ト爲スニ付證據ヲ被告人ニ示サス結局原判決ハ證據ニ關スル規定ニ違背セル違法アルヲ以テ到底破毀ヲ免レスト信スト云フニ在レトモ○所謂質取始末書ナルモノハ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非スト雖被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタルモノニ非サルカ故ニ刑事訴訟法第三百四十三條第一項ニ依リ書證トシテノ證據能力ヲ制限サレタルモノト云フヲ得ス而シテ該書證カ事實認定ノ資料ト爲シ得ルヤ否ヤハ一ニ裁判所ノ自由ナル心證判斷ニ待ツヘキモノナリトス而シテ該質取始末書ハ本件贓物故買事件ニ關シ質取主カ其ノ質取ノ顛末ヲ記載シ之ヲ搜查官廳ニ提出シ記録中ニ編綴セラレタルモノニシテ一種ノ報告的文書ニ屬シ刑事訴訟法第三百四十條ニ所謂證據書類ニ外ナラサルモノトス從テ斯カル書證ニ對シテハ同條第一項ノ規定ニ從ヒ裁判長之ヲ朗讀シ若ハ其ノ要旨ヲ告ケ又ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ朗讀セシムルヲ以テ適法ナル證據調ノ方式ト謂ハサルヲ得ス記録ヲ查スルニ原審ノ公判ニ於テハ所論質取始末書ニ付テハ裁判長之ヲ被告人ニ示シタル事跡ナキモ其ノ之レヲ讀聞ケ適法ナル證據調ノ手續ヲ履踐シタルコト原審第一二回公判調書ノ

質取始末書ト證據書類

記載(記録二六六、二六一丁参照)ニ徴シ明白ナルカ故ニ前段説明ノ理由ニ照シ原判決ニハ所論ノ如ク探證ノ法則又ハ證據調ノ方式ニ違背シタル證據ヲ罪證ニ供シタル不法アルモノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス
檢事宮崎晋一關與

○往來妨害被告事件(昭和三年(九)第六一七號 棄却)
(同年五月三十一日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 藪内 靜雄 辯護人 細谷 榮

【第一審】 和歌山區裁判所 【第二審】 和歌山地方裁判所

○判示事項

刑法第二百二十四條第一項及警察犯處罰令第二條第十二號ノ各犯罪

ト連續犯トノ關係

○判決要旨

刑法第二百二十四條第一項ノ犯罪ト警察犯處罰令第二條第十二號ノ犯罪トハ各其ノ構成要件ヲ異ニシ罪質ヲ同ウセサルモノナレハ刑法第五十五條ニ所謂同一ノ罪名ニ觸ルルモノト爲スコトヲ得ス

【參照】 刑法第二百二十四條第一項 陸路水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

警察犯處罰令第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

十二 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者

刑法第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及辯護人ノ主張ニ對スル判斷ヲ爲シ刑法第二百二十四條第一項ヲ適用シテ被告人ヲ罰金二十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ十日間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ阪上源一中筋龜之助ト共謀ノ上昭和二年六月二十八日夜和歌山縣海草郡有功村大字園部ノ道幅五尺乃至一間ノ村道ニ於テ鐵條網ヲ張り渡シ重量十貫目位ノ大石約十個ヲ竝置シ枯木藁等ヲ推積シテ前記道路ヲ壅塞シ尙同村道深サ二尺幅三尺位ノ溝渠ニ架設セラレタル石橋ノ一部ヲ撤去シテ之ヲ損壞シ以テ往來ノ妨害ヲ生セシメタルモノナリ

辯護人ハ被告人ニ於テ昭和二年六月三十日警察犯處罰令第二條第十二號ニ觸ルル行爲ヲ爲シ曩ニ和歌山警察署ニ於テ科料五圓ニ處セラレ本件起訴犯罪ハ右警察犯處罰令違反ノ所爲ト連續犯タルヘキモノナルニヨリ本件ニ付テハ免訴ノ言渡ヲ受クヘキモノナル旨主張スレトモ刑法第二百二十四條第一項ハ往來ノ妨害ヲ生セシムル意思ヲ以テ陸路水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シ因テ往來ノ不能若クハ困難ヲ惹起セシメタル所爲ヲ處罰シ警察犯處罰令第二條第十二號ハ往來ノ妨害ヲ生セシムルノ意思ナキ同號所定ノ單純ナル行爲ヲ處罰スルモノニシテ右兩箇ノ犯罪ハ各其ノ構成要件ヲ異ニスル別箇獨立ノ犯罪ナリトス然リ而シテ辯護人主張ノ前顯警察犯處罰令違反ノ所爲ハ取寄ニ係ル關係書類ニ徵スルニ被告人ハ昭和二年六月三十日午後十一時頃和歌山縣海草郡有功村大字園部字天神臺村道ニ於テ長サ二間位ノ割板ヲ道路上ニ濫ニ放置シ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタリト謂フニアルヲ以テ被告人ニ於テ故ラニ往來ノ妨害ヲ生セシムルノ意思ナカリシモノト認ムルヲ相當ナリトスヘク從テ本件犯行ト前記警察犯處罰令違反ノ所爲トハ連續犯ノ關係ニアルモノトハ爲難ク辯護人ノ右主張ハ採用スルニ由ナシ

○ 理 由

辯護人細谷馨上告趣意書被告人ハ昭和二年六月二十八日村道(道幅五尺乃至一間)ニ鐵條網ヲ張り渡シ重量十貫目位ノ大石十箇ヲ竝置シ枯木藁等ヲ推積シテ道路ヲ壅塞シ尙同村道深サ二尺幅三尺位ノ溝渠ニ架設セラレタル石橋ノ一部ヲ撤去シテ之ヲ損壞シ以テ往來ノ妨害ヲ生セシメタルモノニシテ刑法第二百二十四條第一項ニ該當スルモノトナシ被告人ニ對シ罰金二十圓ニ處スル旨ノ有罪判決ヲ言渡シタリ然レトモ被告人ハ昭和二年六月三十日午後十一時頃右村道ニ於テ長サ二間位ノ割板ヲ道路上ニ濫ニ放置シテ交通ノ妨害ヲ生セシメタル爲和歌山警察署ニ於テ同年七月十一日警察犯處罰令第二條第十二號ニ該當スルモノトシテ科料金五圓ニ處セラレタルモノナリ然ルニ原審判決ハ前者ハ往來ノ妨害ヲ生セシムル意思アリ後者ハ往來ノ妨害ヲ生セシムル意思ナキモノトシテ兩者ノ構成要件ヲ異ニシ區別シタリ然レトモ犯法行爲ノ意思ハ犯罪ノ客觀的構成要件ニ對スル認識ヲ要スルモノナルコトハ處罰法規ニ關スル一般原則ナリ故ニ例外規定ナキ限り之ニ從ハサルヘカラス之ヲ警察犯處罰令前記法條ニ見ルモ其ノ犯意ハ一、公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ナルコト二、濫リニ物件其ノ他交通ノ妨害トナルヘキ行爲ヲ爲シタルコト三、右行爲ハ交通ノ妨害トナルヘキモノナルコトヲ觀念シテ敢行シタコトニ付正當ナル認識ノ下ニ犯サレタルモノナルコトヲ要ス故ニ右列舉ノ中孰レカ一ヲ缺如スルモ犯意ナキモノトシテ犯罪構成要件ヲ充足セサルモノト謂ハサルヘカラス大正十二年一月二十三日ノ判決ニ「或袋地

ニ甲ノ住宅及同人ノ借家二軒アリテ同人及借受人並其ノ家族等數名之ニ居住シ其ノ出入口ハ是等ノ者
 並是等ノ者ニ用事アル不特定多數ノ者ノ爲ニ日常自由ニ交通ノ用ニ供セラルル場所ニシテ公衆ノ自由
 ニ往來シ得ヘキ場所ナルコト明瞭ナル場合ニ於テハ右出入口ニ板ヲ打付ケ外部トノ交通ヲ不能ナラシ
 メタル所爲ニ對シ警察犯處罰令第二條第十二號ヲ適用スルハ正當ナリト之ニ依テ見ルモ該行爲自體
 ニ於テ交通ノ妨害トナルヘキコトヲ觀念シテ敢行シタルモノナルコト明ナリ然ルニ原判決ハ往來妨害
 ヲ生セシムル意思ヲ要セサルモノト判定シタルハ法律ノ解釋ヲ誤リタルモノト謂ハサルヘカラス假リ
 ニ該條カ右意思ヲ要スルモノニアラストセハ刑法第二百二十四條モ亦同様ニ解釋セサルヘカラス單ニ破
 壞又ハ壅塞ノ行爲ニ對スル認識アレハ足り特ニ往來ノ妨害ヲ生セシムル希望ト意欲トヲ要スルモノニ
 アラスト解釋セサルヘカラス彼此レ犯意ノ範圍ニ付廣狹差異ノ區別ヲ設クヘキモノニアラス右兩條ノ
 區別ハ危險程度ノ大小ニヨリテ區別スヘキモノニシテ犯意ノ構成要件ニ差異ナク罪ノ本質ニ於テハ毫
 モ異ルモノニアラス結局同一罪名中ニ包含セラルヘキモノトス從テ本件ハ前叙犯行ト連續犯ノ關係ニ
 立ツモノニシテ免訴ノ判決ヲ受クヘキ筋合ノモノナルニ原判決カ事茲ニ出テサリシハ法律ノ解釋ヲ誤
 リタル誤判アルモノト謂ハサルヘカラスト云フニ在レトモ○刑法第二百二十四條第一項ノ罪ハ陸路水路
 又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル事ヲ要件トシ其ノ犯罪ノ成立ニハ特ニ其ノ手
 段トシテ陸路水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞スル事ヲ要スルト同時ニ其ノ行爲ノ結果往來ノ妨害ヲ生セ

シムルコトヲ要スルモノニシテ從テ犯人ハ其ノ行爲ノ結果タル往來ノ妨害ニ付認識アル事ヲ要スルモ
 ノナルニ反シ警察犯處罰令第二條第十二號ノ罪ハ公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫リニ車馬舟
 筏其他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害トナルヘキ行爲ヲ爲ス事ヲ要件トシ其ノ犯罪ノ成立ニハ特ニ前者
 ノ如ク其ノ行爲ノ結果トシテ往來ノ妨害ヲ生セシムル事ヲ要スルモノニ非ス從テ此ノ場合ニ於テハ前
 者ト異リ犯人ハ單ニ敍上ノ行爲ヲ爲ス事ニ付認識アルコトヲ要スルモノニアラス蓋シ刑法第二百二十四
 條第一項ノ罪ハ所謂具體的危險犯ト稱セラルルモノニシテ特ニ其ノ行爲ノ結果往來ノ妨害ナル危險狀
 態ヲ發生セシムルコトヲ要スルニ拘ラス警察犯處罰令第二條第十二號ノ罪ハ所謂抽象的危險犯ト稱セ
 ラルルモノニシテ其ノ行爲ノ一般的性質ニ於テ交通妨害ノ危險性ヲ有スル事ヲ以テ足り特ニ具體的ニ
 往來ノ妨害ナル危險狀態ヲ發生セシムルコトヲ要セスシテ兩者ハ全然其ノ性質ヲ異ニスルモノナレハ
 ナリ此ノ如ク此兩者ノ罪ハ全然其ノ構成要件ヲ異ニシ其ノ罪質ヲ同ウセサルモノナレハ刑法第五十五
 條ニ所謂同一ノ罪名ニ觸ルルモノト爲ス事ヲ得サルハ勿論ナリ原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ被告
 人等ハ道路ヲ壅塞シ石橋ノ一部ヲ撤去シテ之ヲ損壞シ以テ往來ノ妨害ヲ生セシメタルモノト云フニ在
 ルヲ以テ刑法第二百二十四條第一項ニ該當シ被告カ前ニ和歌山警察署ニ於テ科料五圓ニ處セラレタル案
 件ハ村道ニ於テ割板ヲ濫リニ道路上ニ放置シ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタリト云フニ在ルヲ以
 テ這ハ警察犯處罰令第二條第十二號ニ該當スルコト明白ニシテ二者其ノ罪質ヲ異ニシ彼此ノ間ニ連續

犯ノ關係アリト云フヲ得サルヲ以テ前ニ警察犯處罰令ニ觸レ處罰セラレタルコトアリトスルモ本件ニ對シ免訴判決ヲ爲ササリシ原判決ハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事平井彦三郎關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件(昭和二年(れ)第一八七六號 事實審理
同三年六月十六日第三刑事部判決 破毀自判)

〔上告人〕 被告人 箱 田 弘 原審辯護人 辯護人 高野和雄

〔附帶上告人〕 檢 事

第一審 土浦區裁判所 第二審 水戸地方裁判所

○判示事項

新聞紙ニ依ル選舉人誘導ト新聞記者ノ業務

○判決要旨

新聞記者力特定ノ議員候補者ヲシテ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ選舉人ニ特殊ノ直接利害關係アル事項ヲ新聞紙ニ掲載シ之ヲ利用シテ該議員候補者ニ投票セシムヘク選舉人ヲ誘導スルハ刑法第三十五條ニ所謂正當ナル業務上ノ行爲ニ該當セス

新聞紙ニ依ル選舉人誘導ト新聞記者ノ業務

【參照】 刑法第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セズ
衆議院議員選舉法第一百十二條 左ノ各號ニ掲ケル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲
役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

二 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ
其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄
附其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導シタルトキ

府縣制第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

○事實

上告審ハ判決ニ依リ左記理由記載ノ如ク事實ヲ認定シ法律ヲ適用シテ被告人ヲ罰金百圓ニ處シ勞役場
留置期間ヲ二十五日ト定メ衆議院議員選舉法第三十七條第一項ノ規定ヲ適用セサル旨ノ宣告ヲ爲シ
タリ

○理由

本院檢事宮城長五郎上告論旨理由アリ原判決ハ破毀ヲ免カレサルコト曩ニ本院ノ爲シタル事實審理決
定ニ於テ説明スル如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ依リ原判決ヲ破毀シ更
ニ本件ニ付判決ヲ爲スヘキモノトス仍テ審按スルニ

被告人ハ茨城縣新治郡土浦町ニ於テ發行スル常總日曜新聞(月刊)ノ發行編輯兼印刷人ナル處昭和二

年九月二十五日施行セラレタル茨城縣會議員選舉ニ際シ新治郡選出議員候補者中山國通ノ選舉事務長
選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サルニ拘ラス同人ヲシテ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同月二十四日發行ノ
右新聞號外ニ「立候補ニ就テ中山國通君談」ト題シ「當選後ハ誠意ヲ傾注シテ縣治ニ盡瘁シ厚意ニ酬
ユヘキ積リナルカ土浦町ハ未成品ニシテ施設ヲ要スルモノ多クアリ商工業學校ノ設置ノ如キ地下道問
題ノ如キ皆然リ町内選舉人ハ自己ノ意ヲ諒トシ自己ニ投票セラレタシ」トノ趣意ヲ執筆掲載シ同號外
約四千枚ヲ同日土浦町及其ノ附近ノ選舉人其ノ他ノ各戸ニ頒布シ土浦町民一般カ現ニ熱望シ居レル縣
立商業設置鐵道地下道開設ニ付當選後中山國通カ之ニ盡力スヘキコトヲ知悉セシメ以テ土浦町内各選
舉人ニ對シ特殊ノ利害關係アル右問題ヲ利用シテ中山候補者ニ投票スヘク誘導シ以テ選舉運動ヲ爲シ
タルモノナリ

證據ヲ按スルニ被告人カ判示新聞ヲ經營シ自ラ其ノ發行編輯兼印刷人タルコト昭和二年九月二十五日
施行セラレタル茨城縣會議員選舉ノ際中山國通カ新治郡選出議員候補者タリシコト同月二十四日發行
ノ同新聞號外ニ「立候補ニ付中山國通君談」ト題シ判示ノ如ク執筆掲載シ且頒布シタルコト並被告人
カ同候補者ノ選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サルコトハ被告人ノ當公庭ニ於テ自認スル所ニ
シテ之ト土浦町長笹部重道ニ對スル檢事聽取書ニ縣立商業學校設置及鐵道地下道開設ハ土浦町民一般
ノ希望ニシテ縣費ヲ以テ縣立商業學校ヲ設置スルコトト國費ヲ以テ鐵道地下道ヲ開設スルコトハ土浦

町ニ取り重大ナル利害關係アル故町民全體ハ皆其ノ成就ヲ希望シ居ル旨ノ供述記載及押收ニ係ル常總日曜新聞(押第二三號ノ一)中判示趣旨ノ記事トヲ綜合スルトキハ判示犯行ノ事實ヲ認ムルニ十分ナリ被告人ハ當公廷ニ於テ判示號外ヲ發行シタルハ縣會議員選舉ノ際ヲ利用シ同新聞ノ爲ニ宣傳ヲ試ミタルニ過キスシテ判示ノ如キ目的ニ出テタルニ非ス又地下道開設ハ成就ノ見込ナク縣立商業學校ノ設置モ巨額ノ寄附ヲ要シ何レモ土浦町民ノ熱望シ居ル程大問題ニ非ス從テ本件號外記事ニ依リ選舉人ニ對シ特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ之ヲ誘導シ以テ選舉運動ヲ爲シタル事實ナキ旨辯疏スレトモ前記證據ニ徴シテ其ノ事實ヲ肯定スルニ足ルヲ以テ該辯疏ハ之ヲ採用セス又辯護人ハ被告人ノ行爲ハ新聞記者タル者ノ當然ノ業務上ノ行爲ナレハ刑法第三十五條ニ該當シ犯罪ヲ構成セスト主張スレトモ議員候補者ノ政見ヲ新聞紙ニ掲載シテ讀者ニ紹介スルカ如キ事實ノ報道ヲ爲スニ止マラス特定ノ議員候補者ヲシテ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ特殊ノ直接利害關係アル事項ヲ新聞紙ニ掲載シ之ヲ利用シテ該議員候補者ニ投票スヘク選舉人ヲ誘導スルハ新聞記者ノ正當ナル業務上ノ行爲ナリト謂フヲ得サルヲ以テ判示行爲ニ對シテハ刑法第三十五條ノ適用ナク從テ同條ヲ援引シテ其ノ罪責ヲ免カルコトヲ得サルモノトス

仍テ之ヲ法律ニ照スニ被告人ノ行爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第二號第九十六條第二百二十九條刑法第五十四條第一項前段第十條ニ該當スルヲ以テ重キ衆議院議員選舉法第一百十二條第

【要旨】

二號ノ罪ノ刑ニ從ヒ罰金刑ヲ選擇シテ處斷シ刑法第十八條ニ依リ其ノ勞役場留置期間ヲ定ムヘク尙衆議院議員選舉法第三十七條第一項ノ規定ハ同條第二項ニ依リ之ヲ適用セサルヲ相當トス依テ主文ノ如ク判決ス
 檢事宮城長五郎關與

○傷害致死被告事件(昭和三年(九)第六九五號 同年六月十八日第五刑事部決定 事實審理)

【上告人】 被告人 林 三 出 辯護人 市原 統
 【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

宣誓手續ノ履踐ト訊問調書ノ效力

○決定要旨

記録中宣誓書存在セス又之ヲ作成シタリト認ムヘキ形跡ナキ以上

宣誓手續ノ履踐ト訊問調書ノ效力

ハ當該證人又ハ通事ニ對スル訊問調書ハ無効ナリトス

【參照】 刑事訴訟法第九十六條 證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

同法第九十八條 宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ但シ訊問後宣誓ヲ爲ス場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

裁判長ハ起立シテ宣誓書ヲ朗讀シ證人ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

同法第二百三十六條 第十四章ノ規定ハ通譯及翻譯ニ付之ヲ準用ス

同法第二百二十八條 第十三章ノ規定ハ勾引ニ關スル規定ヲ除クノ外鑑定ニ付之ヲ準用ス但シ檢事及司法警察官ハ第二百二十二條第三項ニ規定スル處分ヲ爲スコトヲ得ス

○事實

第二審判決ハ左記ノ事實ヲ認定シ被告人ヲ懲役五年ニ處シ但未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入シ押收ニ係ル日本刀一振ヲ沒收シ訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ宣言ヲ爲シタル處其ノ援用證據ニ關スル證人及通事ニ對スル各豫審訊問調書ニ宣誓セシメタル旨ノ記載アルモ宣誓書ハ存在セサルモノトス

被告人ハ前掲肩書住所（東京府荏原郡碑衾町大字碑文谷九十一番地）ト同番地ニ支那料理店融和亭ヲ經營シ金化三ヲシテ之カ管理ヲ爲サシメ居リタル處昭和二年七月九日李善吾ノ移轉祝ニ招待セラレ其ノ際同人ヨリ融和亭ノ女給一人ヲ該宴席ニ侍セシムルコトヲ依頼セラレタルヲ以テ被告人ハ之ヲ約諾シ女給林春仙ニ林德振ト共ニ右宴席ニ來ルヘキコトヲ命シ置キテ同夜八時頃李善吾方ニ抵リ其ノ酒宴ニ列シタリ然ルニ同夜林德振ノミ其ノ酒席ニ來リテ林春仙ハ金化三カ止メタル爲メ來ラサル旨ヲ告ケタル爲メ被告人ハ滿坐ノ中ニテ大ニ面目ヲ失シ憤懣措ク能ハス歸宅シテ金化三ヲ詰リタルモ同人カ却テ反抗シタル爲メ益々憤慨シ同夜十二時頃自己所有ノ日本刀一振（昭和二年押第七四一號）ヲ提ケテ前記融和亭ニ抵リ其ノ憤憤ヲ霽ス爲メ右日本刀ヲ以テ先ツ暖簾ヲ切落シ硝子戸器物等ヲ破壊シ居合セタル女給林春仙及具用玉カ恐怖シテ同亭ノ便所内ニ逃込ムヤ被告人ハ直チニ之ヲ追跡シ同人等ヲ傷害セント欲シ該日本刀ヲ以テ外部ヨリ便所ノ戸ヲ貫通シテ具用玉ノ腹部ヲ突刺シテ深サ後腹壁ニ及フ刺創ヲ負ハシメ同人ヲシテ右刺創ニ因ル急性腹膜炎ニ基因シテ同月十一日死亡スルニ至ラシメタルモノナリ

○理由

辯護人市原統上告趣意書第一點原審判決書中證據ノ援用ニ於テ證人林春仙ニ對スル豫審調書ニ於ケル供述ヲ援用シ本件ノ尤モ爭アル被告人ニ犯意アリタルヤ否ヤノ情況證據トセラレタリ然ルニ右林春仙

宣誓手續ノ履踐ト訊問調書ノ效力

ノ證言ハ黃鳳鎮ノ通譯ニ因リタルコト記録ニ明カニシテ何レモ證人亦ハ通譯トシテ宣誓セシメタル旨ノ記載アルニ拘ラス記録中其ノ證據(宣誓書)ヲ見出サス右林春仙ノ證據調ハ無効ナルモノナリトセサルヘカラサルニ拘ラス原審ニ於テ之ヲ證據ニ援用シタルハ破毀ヲ免レスト云フニ在リ○按スルニ刑事訴訟法第九十八條ノ規定ニ依レハ宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲シ且宣誓書ハ之ヲ朗讀シ宣誓者ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘキモノナルヲ以テ宣誓書ナケレハ適法ニ宣誓手續ヲ履踐シタルモノト認ムルニ由ナキモノトス記録ヲ調査スルニ通事黃鳳鎮及證人林春仙ニ對スル各豫審訊問調書ニハ宣誓セシムヘキモノト認メ宣誓セシメタル旨記載シアレトモ右兩人ノ宣誓書ト認ムヘキモノ存在セス又存在シタリト認ムヘキ形跡ナシ而シテ證人ニ關スル右第九十八條ノ規定ハ同第二百三十六條第二百二十八條ノ規定ニ依リ通譯ニモ之ヲ適用スヘキモノナレハ通事黃鳳鎮ニ對シテハ宣誓セシムヘキモノト認メナカラ適法ノ宣誓手續ヲ履踐セシメスシテ通譯ヲ爲サシメタルコトトナリ其ノ通譯ハ通譯トシテ有效ナラス又證人林春仙ニ對シテハ宣誓セシムヘキモノト認メナカラ適法ノ宣誓手續ヲ履踐セシテ之ヲ訊問シタルコトトナリ其ノ供述ハ證言トシテノ效力ナキモノトス然レハ右通譯ニ依リ訊問シタル林春仙ノ證言ヲ本件斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ採證上ノ違法アリ該違法ハ原判決認定ノ事實確定ニ影響スルヲ以テ本論旨ハ理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノトス仍テ他ノ論旨及被告人ノ上告趣意書辯護人渡邊十寸穂上告趣意書記載ノ各論旨ニ對スル説明ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十條ニ依リ主文ノ

如ク決定ス

檢事宮崎晋一關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件(昭和三年(れ)第六六六號
同年六月十九日第一刑事部判決) 破毀自判

【上告人】 被告人 阿部壽三郎 辯護人 清瀬一郎
外四名
【第一審】 德島區裁判所 【第二審】 德島地方裁判所

○判示事項

推薦狀加名ノ勸誘ト衆議院議員選舉法第九十六條ノ禁止ニ觸レサル行爲

○判決要旨

特定ノ人ヲ議員候補者トシテ推薦スルニ付他人ニ對シ單純ニ推薦狀ニ加名センコトヲ勸誘スル行爲ハ其ノ勸誘力議員候補者ノ立候

推薦狀加名ノ勸誘ト衆議院議員選舉法第九十六條ノ禁止ニ觸レサル行爲

補届出以後ニ在ルト以前ニ在ルトヲ問ハス均シク衆議院議員選舉
法第九十六條ノ禁止ノ範圍外ニ在ルモノトス

【参照】衆議院議員選舉法第九十六條 議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務
員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ演説又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ此
ノ限ニ在ラス

○事實

第二審判決ハ左記ノ事實ヲ認定シ被告人等ニ對シ刑法第六十六條府縣制第三十九條第四十條衆議院議
員選舉法第九十六條第二百九十九條ヲ適用シ被告人壽三郎林藏ヲ各罰金七十圓ニ被告人國二德次郎武平
ヲ各罰金五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ各金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場
ニ留置スヘキモノト爲シタリ

被告人等ハ孰レモ德島縣名西郡阿野村村會議員ナルトコロ昭和二年九月八日頃同村役場等ニ於テ同年
十月一日施行ノ德島縣縣會議員選舉ニ付同村出身ナル西田喜一カ議員候補者トシテ立ツニ於テハ同人
ノ當選ヲ期センコトヲ申合セ末タ其ノ法定ノ選舉運動者タルノ資格ヲ得居ラサリシニ拘ラス同郡鬼籠
野村入田村神領村下分上山村上分上山村ニ於ケル有力者ニ就キ右西田喜一カ立候補ノ上ハ其ノ推薦人
タランコトノ承諾ヲ得置カンコトヲ共謀シ

第一被告人壽三郎林藏國二ノ三名ハ(イ)同年九月十一日右鬼籠野村ノ選舉有權者ナル佐佐木作太ヲ訪
ヒ被告人壽三郎ニ於テ西田喜一カ立候補スルコトニ爲リタルニ付宜敷ク依頼スル旨申入レ(ロ)又右同
日同村安井旅館ニ於テ選舉有權者ナル河野千賀藏ニ面接シ被告人壽三郎林藏ニ於テ交々西田喜一カ立
候補ノ上ハ宜敷ク依頼スル旨申入レ

第二被告人壽三郎國二ノ兩名ハ同月十二日前記入田村ノ選舉有權者ナル松崎團平森出竹藏ヲ夫々訪ヒ
被告人壽三郎ニ於テ各西田喜一カ立候補スルニ於テハ宜敷ク依頼スル旨申入レ

第三被告人德次郎武平ノ兩名ハ(イ)同月十一日前記神領村ノ選舉有權者ナル河口重兵衛ヲ訪ヒ被告人
德次郎ニ於テ河野村村會議員ハ殆ト一致シテ西田喜一ヲ推薦スルコトニ致シタル旨告ケ(ロ)又同日
記下分上山村ノ選舉有權者ナル吉川愛太ヲ訪ヒ被告人德次郎ニ於テ西田喜一カ縣會議員ニ立候補スル
コトニ爲リ阿野村ニ於テハ同人ヲ推薦スルニ至リタル旨告ケ夫々暗ニ右西田喜一ヲ推薦方愆憑シ
以テ西田喜一カ立候補ノ上ハ其ノ推薦人タランコトヲ依頼シ同月十二日立候補ノ届出ヲ了セル右議員
候補者西田喜一ノ爲メニ選舉運動ヲ爲シタルモノナリ

尙第二審判決ハ法律理由ノ末尾ニ於テ左記ノ説明ヲ付シタリ

被告人等カ共謀ノ上西田喜一ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ有權者ヲ戶別訪問シ又ハ連續シテ選舉人ニ
面接シタリトノ公訴事實ハ其ノ犯意アリタルコトヲ認ムヘキ證明ナキモ右ハ本件ニ牽連犯ノ一部トシ

テ起訴セラレタルモノト認ムルニ依リ特ニ主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲サス
 上告審ハ下記ノ判決理由ニ依リ原判決ヲ破毀シ被告壽三郎國二武平林藏徳次郎ニ無罪ノ言渡ヲ爲シタ
 リ

○理由

各被告辯護人清瀬一郎上告趣意書本件ノ犯罪トシテ判示セラレタル所ハ要スルニ被告人等ハ徳島縣會
 議員候補者西田喜一カ議員候補者トシテ立ツニ於テハ同人ノ當選ヲ期センコトヲ申合セ未タ其法定ノ
 選舉運動者タルノ資格ヲ得居ラサルニ拘ラス附近村落ノ有力者ニ就キ右西田喜一カ立候補ノ上ハ其推
 薦人タルコトノ承諾ヲ得置カンコトヲ謀リ「西田喜一カ立候補ノ上ハ宜敷依頼スル」等ノ申入ヲ爲シタ
 リト言フニ在リテ原審ハ此行爲ヲ以テ衆議院議員選舉法第九十六條本文ノ禁止ニ反スルモノト爲セリ
 而シテ原判決ハ此等申入ヲ爲シタルコトカ戸別訪問又ハ連續面接ノ禁止規定ニ觸ルルヤ否ヤノ點ニ付
 キテハ寧ロ其ノ犯意ナシトシテ之ヲ否定セリ右判決ハ衆議院議員選舉法ノ精神ニ合シタルモノニアラ
 スト考フ右ノ如キ行爲ハ(一)衆議院議員選舉法第九十六條但書ニ於テ法定運動者以外ノ者ニモ許サレ
 タル「推薦狀ニ依ル選舉運動」ノ範圍内ニ入ルカ若クハ少クトモ(二)アル選舉運動ノ「豫備行爲」ニシ
 テ未タ處罰ヲ受クヘキ事項ニ該當セサルモノナリ以下此二方面ノ觀察ヲ開陳スヘシ(一)推薦狀ニ依ル
 選舉運動ハ法定運動者以外ノ者ト雖モ適當ニ之ヲ爲シ得ルコトハ衆議院議員選舉法第九十六條但書ニ

規定セル所ノ如シ而シテ推薦狀ニ依ル選舉運動トハ何ソヤトノ問ニ對シ法律的ニ解答スレハ推薦狀ノ
 發送行爲ナリト謂フコトト爲ルヘシ然レトモ一旦推薦狀ノ發送ヲ以テ合法行爲ト爲シタル以上ハ之カ
 發送ヲ爲スニ必要ナル行爲亦合法ノ行爲ト認メラレサルヘカラス例ヘハ推薦狀ノ文案ノ作成推薦狀ノ
 印刷宛名ノ書記ノ如シ又推薦狀ハ數人ト共ニ之ヲ發送スルコトカ有效ナルコトアリ又便宜ナルコトア
 リ斯ル場合ニ數人カ共同シテ推薦狀ヲ發送スヘク協議シ又ハ勸誘スルコトモ亦推薦狀發送ノ前提トシ
 テ必要ナル行爲ナレハ此等ノ行爲モ亦合法的推薦狀發送行爲ノ範圍内ニ入ルヘキモノナルヤ當然ナリ
 尤モ斯ル場合ニ直チニ考慮セラレサルヘカラサル一事アリ何ソヤ曰ク今若シ推薦狀發送ヲ協議シ若
 クハ申込ムコトヲ以テ合法的推薦運動ノ範圍内ナリトスレハ世間或ハ名ヲ推薦狀協議又ハ其申込ニ藉
 リテ連續面接ノ禁ヲ潜リ若クハ戸別訪問ノ禁ヲ犯スモノアラン然リ世恐クハ斯ル場合簇出セン然レト
 モ事實ニ於テ連續面接又ハ戸別訪問ヲ爲スモノナルトキハ執法官ハ選舉法第九十八條ヲ適用シテ可ナ
 リ之ヲ躊躇スヘキニアラス是レ事實ノ問題ナリ斯ル事實問題發生スヘシトノ考ヨリシテ法律問題ノ解
 釋ヲ左右スヘキニアラス況ンヤ又實際ニ於テ連續面接又ハ戸別訪問ニ依ラスシテ推薦者タルノ協議又
 ハ申込ヲ爲スコトモ可能ナルニ於テヤ例ヘハ推薦狀ヲ共同ニ出シタキ旨書面ヲ以テ紹介スル場合又
 ハ本件ノ如ク戸別訪問又ハ連續面接トシテハ犯意ヲ缺如スルカ如キ場合はナリ乃チ推薦發送ノ協議又
 ハ申込カ獨立シテ存在スル場合ハ明ニ選舉法第九十六條但書ニ依リ犯罪ヲ構成スルモノニアラサルナ

リ本件ハ恰モ斯ノ場合ナルニ拘ラス原審カ之ヲ有罪ト爲シタルハ違法ナル判決ナリ(二)加之推薦狀ニ加名ヲ依頼スル行爲ハ實ハ選舉運動ノ豫備行爲ニ外ナラサルナリ一般刑法ニ於ケルカ如ク豫備ノ行爲ハ之ヲ處罰セラレス元來推薦者ハ法律上必スシモ一人タルヲ要セサルカ故ニ推薦者數人ナル場合ニ於テハ其多數意思ノ合致ヲ見ル爲メニハ必スヤ其内ノ一人カ先ツ之ヲ唱ヘ他人之ニ和スルノ外アルヘカラスサレハ特定ノ人ニ就キ推薦狀ニ加名スルヤ否ヤノ諾否ノ意見ヲ徵シ又ハ加名ノ依頼ヲ爲スカ如キハ推薦者ノ範圍ヲ確定スルニ必要ナル行爲ニシテ是レ選舉運動ノ準備乃至豫備ノ行爲ナリ候補者カ立候補届出前ニ於テ選舉運動ヲ爲スコトハ法ノ禁スル所ナレトモ立候補届出前ニ書面口頭又ハ電報ヲ以テ「立候補シタイト思フカ貴見承リ度シ」「議會解散宜敷頼ム」ト申出ツルカ如キハ選舉運動自體ニハアラスシテ單ニ立候補準備行爲ナリトシテ一般ニ無責任行爲ナリト解セラル(司法省内務省ノ共同解釋トシテ發表セラレタルモノ亦同シ)斯ノ如ク候補者ノ選舉運動ト立候補準備行爲トヲ區別シテ考ヘ得ヘキト同様ニ候補者以外ノ者ノ爲ス行爲ニモ亦選舉運動行爲ト其準備行爲トノ區別自ラ存在セサルハカラス本件ノ行爲ノ如キ若シ候補者カ之ヲ爲セハ選舉準備行爲トシテ不問ニ附セラルハキモノナルニ候補者以外ノ者カ爲シタル場合ニ却テ責任ヲ生スルト謂ハハ世人其本末ノ顛倒ニ驚カン候補者以外ノ者カ本件ノ如キ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テハ選舉運動ノ準備又ハ豫備行爲トシテ無責任行爲ト解スルヲ當然ト思考ス原審カ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ失當ナリ(附言)本件原審ト同一ナル徳島地方裁判

所カ本件ト略ホ同一案件ニ付キ言渡シタル判決ニ對シ本辯護人等ヨリ上告ヲ爲シタル處御院第四刑事部ハ本年四月二十日原判決ヲ破毀セラレ斷然無罪ノ言渡相成リタリ(事件番號ハ昭和三年(レ)第三四九號事件)右事件ノ判決謄本ハ未タ御下附相成ラサルモ御院ニ於テモ既ニ本件ノ如キ行爲ハ犯罪ヲ構成セサルモノト決定セラレタルモノト信ス仍テ此判例ヲ引用スト云ヒ各被告辯護人谷原公上告趣意書第二點原審判決ハ被告等カ西田喜一ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ有權者ヲ戸別訪問シ又ハ連續シテ選舉人ニ面接シタリトノ公訴事實ハ其ノ犯意アリタルコトヲ認ムヘキ證明ナシト判示セリ(判決書末尾參照)而シテ其ノ理由ハ被告等カ新ニ制定セラレタル選舉罰則ニ通セサル爲メ法規ノ研究會ヲ開キ且警察官ニ教ヲ受ケ然ル後ニ隣村ノ政情視察ヲ遂ケ因テ以テ西田推薦ノ可否ヲ決セントシタル等各種ノ供述(第一審ニテ高橋重平小崎綏攝ニ對スル行爲ヲ無罪トセシ點竝ニ第二審ニ於テ一部無罪トセシ點及ヒ證人各關係人ノ供述參照)ニ基ケルモノナリ已ニカカル認定ヲ爲シタル以上ハ投票ヲ得シムル目的ナカリシコトハ確定不動ノ事實ト謂ハサル可ラス然リ而シテ凡ソ選舉運動ナルモノハ特定ノ候補者ニ對スル當選ノ爲ニスル盡力ナルカ故ニ其ノ目的ハ必特定ノ候補者ニ投票ヲ得シムルコトニアラサル可ラス然ルニ本件ノ如ク已ニ其ノ目的ヲ缺クモノトセハ當然選舉運動ニ非スト斷定セサル可ラス蓋シ當選ハヨリ多キ得票ノ結果ナルカ故ニ目的得票ニ非ル行爲ハ外觀上選舉運動ニ類似スト雖モ其ノ實選舉運動ニ非スシテ或ハ選舉運動ニ移ルヘキ階梯トシテハ政情視察若クハ立候補乃至推薦準備行爲タ

ルモノナリ之ヲ法規上ニ對照スレハ立候補準備推薦準備等ヲ許容シタル明文ナシト雖又反對ニ之ヲ禁止シタル明文ナシ法文中唯一ノ明文トシテ立候補準備ニ關スル費用カ選舉運動費ニ非サルモノト看做サルル一點アリ之ニ關シ或ハ立候補準備カ一ツノ選舉運動ナルカ故ニ其費用ヲ特ニ運動費ヨリ除外スルヤノ感ナキニ非スト雖モ其ノ然ラサル所以ハ一般解釋上ノ實例トシテ「議會解散宜シク頼ム」「立候補シタイト思フカ貴見ヲ承り度シ」「貴下ノ所有ノ建物ヲ事務所トシテ貸シテ呉レルヤ」「選舉事務長トナツテ呉レル意思アリヤ」等ノ文書ヲ發送スル行爲及ヒ「起否ノ意思決定ノ爲メ政見ヲ發表スル行爲」「政見ヲ述ヘ最後ニ敢テ立候補セントスト書キタル宣言書發送行爲」等カ選舉運動ニ非スト認メラレ(内務省司法省合同發表參照)居ル點ヨリ觀ルモ明瞭ナリ而シテ此解釋ハ同時ニ推薦者ニモ適用セラルノミナラス殊ニ法第八十八條ニハ複數推薦ヲ認メ届出人ハ代表者ノ選定ヲ要スルコトヲ明示セリ然ラハ被告等ノ採リタル行動ハ候補者ノ起否未確定時代ニ於テ其ノ推薦ノ可否ヲ確定セン爲メノ準備行動ニ外ナラスシテ未タ運動ト稱スヘキモノニ非スト斷定セサル可ラス從テ衆議院議員選舉法第九十六條ノ所謂選舉運動ト稱スルコト能ハスサレハ同第二百二十九條ヲ適用シテ被告ノ所爲ヲ處罰シタルハ法律ヲ不當ニ適用シタル違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在リ○案スルニ府縣制第三十九條第四十條ニ依リ準用セラルル衆議院議員選舉法第九十六條ニハ議員候補者選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得サルコトヲ規定シナカラ演說又ハ推薦狀ニ依

【要旨】

ル選舉運動ニ付除外例ノ設アルヲ以テ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ選舉ノ自由公正ヲ保持スルニ關シ取締上事ニ害ナキヲ以テ之ヲ不問ニ附スル法意ナルコト蓋シ疑ヲ容レヌ故ニ推薦狀ヲ配布スルニ先チ之ヲ作成スル行爲ノ如キハ論ナク特定ノ人ヲ議員候補者トシテ推薦スルニ付他人ニ對シ單ニ推薦狀ニ加名センコトヲ勸誘スル行爲ノ如キモ亦推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スニ至ルヘキ準備行爲ニ屬シ縱令之ヲ進展セシムルモ結局推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スニ至ルニ過キサルモノナルカ故ニ均シク法ニ於テ之ヲ不問ニ付スルモノト解スルヲ正當トス故ニ他ニ投票ヲ得ル目的ヲ有シ如上ノ勸誘ヲ利用シテ之ヲ其ノ目的ヲ達スル手段ニ供スルニ非サル限其ノ勸誘ハ同法第九十六條ノ禁止ノ範圍外ニ在ルモノト謂フヘク勸誘カ立候補ノ届出以後ニ在ルト其ノ前ニ在ルトニ依リ論定ヲ異ニスルコトナキモノトス原判決ノ認ムル事實ニ依レハ被告人等ハ德島縣名西郡阿野村村會議員ニシテ昭和二年十一月一日施行ノ德島縣會議員選舉ニ付同年九月十二日ニ至リ議員候補者トシテ届出ヲ爲シタル同村出身西田喜一カ其ノ届出ヲ爲スニ先チ同月八日相與ニ喜一カ候補ニ立ツニ於テハ其ノ當選ヲ期センコトヲ申合セ未タ法定ノ選舉運動者タル資格ヲ有セサリシニ拘ハラヌ同郡鬼籠野村入田村神領村下分上山村上分上山村ニ於ケル有力者ニ就キ西田喜一カ立候補ノ上ハ其ノ推薦人タランコトノ承諾ヲ得置ンコトヲ共謀シ壽三郎林藏國二ハ判示第一ノ(イ)及(ロ)ノ如ク壽三郎國二ハ判示第二ノ如ク德次郎武平ハ判示第三ノ(イ)及(ロ)ノ如ク他村ニ至リ選舉有權者數名ヲ歴訪シ西田喜一カ立候補ノ上ハ其ノ推薦人タランコトヲ依賴

シタルモノニ係リ原判決ノ判示ニ依レハ被告人等カ西田喜一ニ投票ヲ得シムル目的ニ出テタルコトニ付テハ其ノ證明ナキモノナルヲ以テ原判決ノ認ムル被告人等ノ行爲ハ法律上罪ト爲ラサルニ依リ無罪ヲ言渡スヘキモノニシテ之ニ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第二百二十九條ヲ適用シ罰金刑ノ言渡ヲ爲シタル原判決ハ法令ニ違反スルモノナルヲ以テ上告ハ理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レス既ニ此點ニ於テ破毀ノ原因アルモノト認ムルヲ以テ他ノ論旨ニ對スル説明ハ省略ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ依リ原判決ハ之ヲ破毀シ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス依テ原審ノ認メタル事實ヲ法律ニ照スニ被告壽三郎國二武平林藏徳次郎ノ行爲ハ法律上罪トナラサルニ依リ同法第四百五十五條第三百六十二條ニ則リ右被告五名ニ對シ無罪ヲ言渡スヘキモノトス依テ主文ノ如ク判決ス

檢事溝淵孝雄關與

○賊物故買被告事件

(昭和三年(九)第八〇二一號
同年六月二十五日第二刑事部判決)

破毀自判

【上告人】 被告人 土 肥 清

中 田 梶 太
三 隅 正
四 方 田 保

【第一審】 大阪區裁判所

【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

罰金刑ニ對スル勞役場留置ノ言渡ト刑事訴訟法第四百三條

○判決要旨

第一審判決力罰金刑ニ對スル勞役場留置ノ言渡ヲ遺脱シタル事件ニ付被告人ノミ控訴ヲ爲シタル場合ニ於テ第二審判決力勞役場留置ノ言渡ヲ爲スハ刑事訴訟法第四百三條ニ違反スルモノトス

【參照】 刑法第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス
科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス
罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

罰金ニ付テハ裁判確定後三十日內科料ニ付テハ裁判確定後十日內ハ本人ノ承諾ヲ罰金刑ニ對スル勞役場留置ノ言渡ト刑事訴訟法第四百三條

ルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス
罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受タル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ金額ト留置
日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス
留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ
留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス

刑事訴訟法第四百三條 被告人控訴ヲ爲シタル事件及被告人ノ爲ニ控訴ヲ爲シタル
事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ事實ヲ認定シ被告人ニ對シ刑法第二百五十六條第二項第五十五條第十八條ヲ適
用シテ被告人ヲ懲役四月及罰金五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ二十五日間勞役場
ニ留置スル旨ノ言渡ヲ爲シタリ

被告人清ハ昭和二年九月十六日ヨリ同年十二月二日ニ至ル迄ノ間十四回ニ互リ犯意ヲ繼續シテ大阪市
港區九條北通三丁目五百四十四番地ノ自宅ニ於テ原審共同被告人相原和三郎ヨリ同人カ他ヨリ竊取シ
タル自轉車合計十四輛ヲ之カ總テ贓物タルノ情ヲ知リナカラ買受ケ之ヲ故買シタルモノナリ
又第一審裁判所ハ第二審判決ト同様ノ事實ヲ認定シ被告人ヲ懲役四月及罰金五十圓ニ處スル旨ノ判決
ヲ爲シタルモ右罰金刑ニ對スル勞役場留置ノ言渡ヲ遺脱シタルモノニシテ第一審判決ニ對シテハ被告
人ノミ控訴ヲ爲シタリ

上告審ハ左記ノ判決理由ニ依リ第二審判決中被告清ニ關スル部分ヲ破毀シ同被告人ヲ懲役四月罰金五
十圓ニ處シ右罰金刑ニ對スル勞役場留置ノ言渡ヲ爲サス

○理由

辯護人三隅正四方田保上告趣意書第二點本件第一審判決ヲ閱スルニ其ノ主文ニ於テ「被告人清ヲ懲役
四月罰金五十圓ニ處ス」トアルノミニシテ罰金不完納ノ場合ノ換刑處分ヲ言渡ササルモノナリ而シテ
第一審判決ニ對シテハ被告人ニ於テノミ控訴ヲ申立テ檢事ノ附帶控訴若クハ獨立控訴ナキモノナルヲ
以テ第二審ニ於テ第一審判決ヲ被告人ノ不利益ニ變更スルコトヲ許ササルコトハ刑事訴訟法第四百三
條ノ明規スル所ナリトス然ラハ原判決ニ於テ第一審同様「被告清ヲ懲役四月罰金五十圓ニ處シナカラ
更ニ罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ二十五日間勞役場ニ留置ス」ト言渡シタルハ結局第一審判決
ヲ被告人ノ不利益ニ變更シタルモノニシテ原判決ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ
在リテ○記録ヲ查スルニ第一審判決カ被告清ヲ懲役四月及罰金五十圓ニ處シ罰金不完納ノ場合ニ於ケ
ル勞役場留置期間ノ言渡ヲ爲ササリシモ之ニ對スル檢事ノ獨立控訴若クハ附帶控訴無カリシニ拘ラス
原判決ニ於テ被告清ヲ懲役四月及罰金五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ二十五日間
勞役場ニ留置ストノ言渡ヲ爲シタルコト寔ニ所論ノ如クナルヲ以テ原判決ハ所論ノ違法アリヤ否ヲ審
按スルニ刑事訴訟法第四百三條ノ趣意ハ被告人控訴ヲ爲シタル事件及被告人ノ爲ニ控訴ヲ爲シタル事

件ニ付テハ控訴裁判所ハ第一審判決ヨリ實質上刑ノ重カルヘキ言渡ヲ爲ササラシムルニ在リテ必スシモ刑其ノモノノ言渡ノミニ限ラス刑ノ執行ニ付テモ不利益ノ變更ヲ許ササルモノナルコトハ曩ニ當院ノ判示シタルトコロナリトス而シテ刑法第十八條第一項第四項第五項ニ依レハ罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間勞役場ニ留置シ留置期間ハ罰金ノ言渡ト共ニ之ヲ言渡スヘク之カ執行ハ裁判確定後三十日以内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ爲スコトヲ得スト規定シ又刑事訴訟法第五百五十三條ニ依レハ罰金ノ裁判ハ檢事ノ命令ニ因リ之ヲ執行ス此ノ命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有シ其ノ執行ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用スル旨規定スルヲ以テ若シ受刑人ヨリ任意ニ罰金ヲ納付セサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ準シ強制執行ニヨリ之ヲ徵收スヘキモノニシテ此ノ手續ニ依ルモ徵收スル能ハサルトキハ即チ罰金ヲ完納スルコト能ハサルモノトシテ勞役場留置ノ執行ニ及フヘク然カモ其ノ執行ニ付刑事訴訟法第五百六十五條ハ刑ノ執行ニ關スル規定ヲ準用スト定メ尙監獄法第九條ヲ以テ懲役囚ニ適用スヘキ規定ヲ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ準用セルニ徵スレハ斯ル勞役場留置ハ罰金刑ノ特別執行方法ナルコト多言ヲ要セスシテ明ナリ然レハ第一審判決カ罰金刑ニ對スル勞役場留置ノ言渡ヲ遺脱シタル場合ト雖第二審判決ニ於テ第一審判決ノ言渡ササル勞役場留置ノ言渡ヲ爲スハ罰金刑ノ特別執行方法ヲ附加スルコトトナリ實質上被告人ニ重キ刑ヲ言渡シタルモノト謂フヘキカ故ニ原判決ハ刑事訴訟法第四百三條ノ制限ニ違反シ破毀ヲ免レス論旨ハ理由アリトス(其ノ他ノ上

【要旨】

告理由及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上説明スル如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ原判決中被告清ニ關スル部分ヲ破毀シ更ニ判決ヲ爲スヘキモノニシテ原判決ノ確定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告清ノ所爲ハ刑法第二百五十六條第二項第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑ノ範圍ニ於テ同被告人ヲ懲役四月及罰金五十圓ニ處スヘク而シテ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條第一項第四項ニ則リ二十五日間勞役場ニ留置スヘキモノナルトコロ本件ハ被告人ノ上訴ニ係リ第一審判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得サルヲ以テ右勞役場留置ノ言渡ヲ爲サス主文ノ如ク判決ス

檢事三橋市太郎關與

○詐欺被告事件

(昭和三年(九)第六三三號
同年六月二十七日第三刑事部判決)

破毀自判)

【上告人】

被告人

山本みね

辯護人

澤田洪憲

公訴ノ受理ノ當否ト上告裁判所ニ於ケル其ノ事實ノ取調

○ 判示事項

公訴ノ受理ノ當否ト上告裁判所ニ於ケル其ノ事實ノ取調

○ 判決要旨

上告裁判所ハ公訴ノ受理ノ當否ニ關シテハ事實審理ノ決定ヲ爲サスシテ刑事訴訟法第四百三十五條ニ依リ部員ヲシテ事實ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得

【參照】 刑事訴訟法第四百三十五條 上告裁判所ハ裁判所ノ管轄、公訴ノ受理及訴訟手

續並第四百十三條ニ規定スル事由ニ關シテハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託

スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會

ハシムルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

同法第三百六十四條 左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

五 告訴又ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ

○ 事實

第二審裁判所ハ

被告人ハ夫山本備平トノ間ニ數人ノ子女アリテ生計裕ナラサルニ拘ラス金錢ヲ浪費スル癖アリ大正十二年頃モ他人名義ヲ冒用シテ金六千九百餘圓ヲ詐取シタル事實ニ付不起訴處分ニ爲リ居リタルモノナルトコロ猶更ニ改悛ノ情ナク

第一 自己ノ夫山本備平ノ弟山本伍作カ多少ノ資産アルヲ奇貨トシ同人名義ヲ冒シテ他人ヨリ金圓ヲ詐取センコトヲ企テ昭和二年三月十七日頃ヨリ同年四月下旬ニ至ル間前後四回ニ互リ横濱市中區西戸部町大松久保八百二十七番地太田はる方ニ到リ同人ニ對シ自分ノ夫ノ弟山本伍作ハ横濱船渠株式會社工場内ニ於テ造船ノ下請負ヲ爲シ居ルモノナルカ會社ノ都合上下金無キ爲メ職工等ニ對スル支拂ニ窮シ自分ニ金策方ノ依頼アリタルニ付金圓貸與セラレ度キ旨申入レテ右はるヲ欺罔シ因テ其ノ頃前記同人方ニ於テ同人ヨリ合計金六百圓ヲ受領シテ之ヲ騙取シ

第二 同年七月初旬頃前同様ノ目的ヲ以テ再ヒ前記はる方ニ到リ同人ニ對シ右伍作ハ前示請負ノ關係上金一千五百圓ヲ保證金トシテ前記會社ニ積立ツヘキ必要アルモ同人ニ於テ金五百圓不足ナルニ付其ノ借入方ヲ自分ニ依頼アリタルニ付貸與セラレ度シ萬一ノ場合ハ伍作所有ノ家屋ヲ賣却シテ債務ヲ履行スル筈ナリト詐言シテ右はるヲ錯誤ニ陥レ因テ其ノ頃前記同人方ニ於テ同人ヨリ金二百五十圓ヲ受領シテ之ヲ騙取シ

公訴ノ受理ノ當否ト上告裁判所ニ於ケル其ノ事實ノ取調

第三 同年七月三日横濱市中區久保町五百五十七番地猪山ちよ方ニ於テ同人ニ對シ前記太田はるカ其ノ夫ニ祕シテ郷里ニ家屋ヲ建築スル計畫ナルモ其ノ費用不足シ居ルヲ以テ金二百圓借入方ヲ自分ニ依賴アリタルニ付貸與セラレ度シト詐言シテ右ちよヲ欺罔シ因テ同日同人方ニ於テ同人ヨリ金百五十圓ヲ受領シテ之ヲ騙取シタル事實ヲ認定シ而シテ以上詐欺ノ各所爲ハ犯意繼續ニ出テタルモノトシテ刑法第二百四十六條第一項第五十五條ヲ適用シ被告人ヲ懲役六月ニ處シタルモ上告審ハ辯護人上告論旨第二點ニ基キ刑事訴訟法第四百三十五條ニ依リ事實審理ノ決定ヲ爲スコトナク公訴ノ受理ノ當否ニ關シ部員ヲシテ其ノ取調ヲ爲サシメタル結果原判決第一及第二ノ詐欺事實ノ被害者太田はるト被告みねトハ六親等内ノ血族ニシテ第二審ニ於テ右太田はるヨリ本件ニ付告訴ノ取消アリタル事實判明シタルヲ以テ下記判決理由ニ依リ原判決ヲ破毀シ刑法第二百四十六條第一項ヲ適用シ被告人ヲ懲役六月ニ處シ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ宣告ヲ爲シタリ

○ 理 由

辯護人澤田洪憲上告趣意書第二點「原判決ハ明カニ擬律ノ錯誤アリ如上本件ハ親族間ノ詐欺事犯ニシテ既ニ被害者ヨリ告訴取消(正式ノ書面上ノ告訴スラナシ)ノアリタルヲ以テ須ク刑法第二百五十一條第二百四十四條刑事訴訟法第三百六十四條ヲ適用シ公訴ヲ棄却スヘキモノナルニ拘ハラヌ原審ハ事茲ニ出テス漫然ニ事實共有罪ノ認定ヲ下シタル過失アリ」ト云フニ在リ○仍テ刑事訴訟法第四百三十

【要旨】

五條ニ則リ公訴ノ受理ニ付按スルニ原判決第一及第二ノ詐欺事實ニ付被害者太田はるヨリ告訴アリタルコトハ檢事ノ太田はるニ對スル聽取書ニ於ケル同人ノ供述記載ニ依リ認め得ヘシト雖右太田はるカ原審第一回公判ニ於テ同裁判所ニ對シ告訴取下書ヲ提出シ告訴ノ取消ヲ爲シタルコトハ太田はるノ告訴取下書ノ記載ニ徴シ明カナリ而シテ原判決第一及第二ノ詐欺事實ノ被害者太田はるト被告みねトハ同居關係ナキ再從姉妹ニシテ六親等内ノ血族ニ該當スルコトハ記録中ノ静岡縣駿東郡小泉村長渡邊孫三郎名義ノ戶籍證明書親族關係證明御願ト題スル書面ニ對スル同村長名義ノ證明書鈴木房次郎市川周藏ノ各舊戶籍謄本及鈴木金次郎市川政吉ノ各除籍謄本ノ記載及常審受命判事ノ被告山本みね證人太田はる勝又萬平鈴木喜作ニ對スル訊問調書ノ各供述記載ヲ綜合シ認ムルニ難カラス然リ而シテ刑法第二百五十一條ヲ以テ準用セラルル同法第二百四十四條第一項後段ニ依レハ其ノ前段掲記以外ノ親族間ニ於ケル詐欺ハ親告罪ナルヲ以テ告訴ノ取消アリタルトキハ其ノ公訴ヲ棄却スヘキモノナルコト刑事訴訟法第三百六十四條第五號ノ規定スル所ナレハ前示ノ如ク第一第二ノ詐欺ニ付告訴ノ取消アリタルニ拘ハラヌ原審カ原判示第三ノ詐欺ノ事實ト共ニ之ヲ受理シテ刑法第二百四十六條ノ詐欺罪ニ問擬シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ違法ニシテ論旨ハ此點ニ於テ理由アリ而シテ原判決ハ右第一及第二ノ詐欺ノ所爲ハ判示第三ノ詐欺ノ所爲ト連續ノ關係アルモノトシテ處斷シタルヲ以テ原判決ハ全部破毀スヘキモノトス但シ一個ノ連續犯トシテ數個ノ行爲ヲ起訴セラレタル場合ニ於テハ裁判所カ審理ノ結果其ノ起

訴事實中ノ一部カ告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ該當シ之ニ對シ告訴ノ取消アリタルコトヲ認メタルトキハ該部分ニ付テハ判文ニ於テ唯其ノ罪ヲ問ハサル旨ヲ判示スレハ足り特ニ主文ニ於テ公訴棄却ノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非サルヲ以テ(大正十三年(れ)第一六四九號、同年十月二十八日本院言渡判決參照)原判決第一第二詐欺ノ點ニ付公訴棄却ノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非ス

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス因テ原判決ノ確定シタル判示第三ノ詐欺ノ事實ヲ法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第二百四十六條第一項ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期範圍内ニ於テ被告みねヲ懲役六月ニ處シ數人ノ子女ヲ有スル家庭ノ事情其ノ他諸般ノ情狀ヲ斟酌シ被告人ニ對シテハ右刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ナリト認ムルヲ以テ同法第二十五條ニ則リ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク又太田はるカ被害者タル原判示第一及第二ノ詐欺事實ノ部分ニ付テハ被害者ニシテ親族タル太田はるノ告訴取消アリタルモ前ニ説示スルカ如ク一罪中ノ一部分ニ繋ルヲ以テ之ニ關シテ公訴棄却ノ言渡ヲ爲サス依テ主文ノ如ク判決ス

檢事宮城長五郎關與

○恐喝被告事件(昭和三年(れ)第六〇〇號 棄却)

(昭和三年(れ)六月二十八日第五刑事部判決)

【上告人】 被告人 鈴木章弘 辯護人 小林善作

外一名

【第一審】 松戸區裁判所 【第二審】 千葉地方裁判所

○判示事項

未決勾留ノ日數ヲ算入セサル刑ノ執行猶豫ノ言渡ト刑事訴訟法第四百三條

○判決要旨

第一審判決ノ未決勾留日數ヲ本刑ニ算入シタルニ第二審判決ニ於テ之ヲ算入セスシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲シタルハ刑事訴訟法第四百三條ニ違背シタルモノト謂フヲ得ス

【參照】 刑事訴訟法第四百三條 被告人控訴ヲ爲シタル事件及被告人ノ爲ニ控訴ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ廢ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

未決勾留ノ日數ヲ算入セサル刑ノ執行猶豫ノ言渡ト刑事訴訟法第四百三條

○ 事 實

第二審裁判所ハ左記ノ事實ヲ認定シ刑法第二百四十九條第一項第二百五十條第二十五條ニ依リ各被告人ヲ懲役五月ニ處シ三年間該懲役刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ言渡ヲ爲シタルモ第一審裁判所ニ於テハ同一認定事實ニ對シ各懲役五月ニ處シ未決勾留日數三十日ヲ本刑ニ算入スル旨宣言シタルニ止マリ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲ササリシモノナリ

被告人章弘ハ千葉縣東葛飾郡市川町一丁目二百二番地ニ於テ發行スル月刊葛飾新報社長兼記者被告人辰之助モ亦同シク千葉縣東葛飾郡市川町一丁目三千八百八番地ニ於テ發行スル總武新聞社長兼記者ナルトコロ被告人兩名ハ昭和二年十一月十二日頃被告人辰之助方ニ於テ洋服商川野正次カ婚姻問題ニ付折衝中ナリシカ同人ニハ嘗テ山本スエナル内縁ノ妻アリシモ同人ハ雇人ト醜關係ヲ生シタル爲メ離別シタルコトアルヲ知り之ヲ奇貨トシ右ニ關スル正次ノ惡評記事ヲ新聞紙ニ掲載スヘキコトヲ告知シテ因テ同人ヨリ金品ノ交付ヲ受ケンコトヲ共謀シ同月十六日居町川野正次方ニ到リ同人ニ對シ稀代ノ色魔川野洋服店主内縁ノ妻吉奴ヲ奪ハレ腹癩セニトシダ迷惑良家ノ子女ヲ誘拐シテ貞操ヲ奪フトノ見出ノ許ニ十數枚ニ互ル原稿ヲ示シ色ヲ附ケサレハ新聞紙ニ掲載スヘキ旨ヲ告ケタルモ金品ノ交附ヲ受ケサリシモノナリ

○ 理 由

各被告辯護人小林善作上告趣意書第三點本件第一審判決ハ其主文ニ於テ「被告人章弘辰之助ヲ各懲役五月ニ處ス但シ何レモ未決勾留日數三十日ヲ本刑ニ算入ス」ト記載シアリテ第一審判決ニ於テハ第一審ニ於ケル未決勾留日數三十日ヲ各本刑ニ算入シタルモノナリトス然ルニ原判決ニ於テ此第一審ニ於ケル被告等ノ未決勾留日數ヲ算入セサルハ違法ニシテ破毀スヘキモノト思料スト云フニ在リ○仍テ第一審及原審ニ於ケル各判決ノ主文ヲ對比スルニ二者孰レモ各被告人ヲ懲役五月ニ處シタルモ第一審判決ハ未決勾留日數三十日ヲ本刑ニ算入シタルニ反シ原判決ハ之ヲ算入セスシテ判決確定ノ日ヨリ三年間懲役刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ヲ宣告シタルコト洵ニ所論ノ如シト雖未決勾留日數ノ算入ハ其ノ算入シタル日數ノ程度ニ依リ本刑ノ全部又ハ一部ヲ執行シタルモノト看做サルルニ止ルニ反シ刑ノ執行猶豫ハ猶豫ノ期間内刑ノ執行ヲ爲ササルノミナラス其ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其ノ効力ヲ失フヘキモノナレハ原判決ハ第一審判決ニ比シ被告人ノ利益ニ歸シタルコト明ニシテ之ヲ以テ刑事訴訟法第四百三條ニ違背シタルモノト爲スヲ得ス論旨ハ理由ナシ

(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事宮城長五郎關與

○常習賭博被告事件 (昭和三年(九)第八二〇號 棄却)

(同年七月二日第五刑事部判決)

【上告人】 被告人 泥惣兵衛 辯護人 瀨瓦泰治

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京地方裁判所

○判示事項

賭博場開張幫助ノ起訴ト常習賭博ノ判決

○判決要旨

賭場開張ヲ幫助シタル旨ノ公訴事實ニ付審理ノ結果常習賭博罪ヲ構成スルモノト認定シ被告人ヲ處斷スルモ不法ニ非ス

【參照】 刑事訴訟法第二百九十一條 公訴ヲ提起スルニハ被告人ヲ指定シ犯罪事實及

罪名ヲ示スヘシ

被告人ノ指定ハ氏名ヲ以テシ氏名知レサルトキハ容貌體格其ノ他ノ徵表ヲ以テス

ヘシ

同法第四百十條 左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス

十八 審判ノ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サス又審判ノ請求ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シタルトキ

○事實

第二審判決ハ左記ノ事實ヲ認定シ刑法第八十六條第一項第五十六條第五十九條第五十七條第十九條ヲ適用シ被告人ヲ懲役六月ニ處シ押収ノ算盤一挺赤インク一瓶其ノ他ヲ沒收スル旨ノ宣言ヲ爲シタリ然レトモ檢事ノ公判請求書ニハ賭場開張幫助トシテ被告人カ山本清四郎ノ開張シタル「チーハー」賭博ノ犯行ヲ幫助シタル公訴事實ヲ掲記シタリ

被告人ハ大正十五年一月頃ヨリ昭和二年九月二十五日迄ノ間殆ント連日ニ互リ東京市日本橋區横山町二丁目十七番地被告人居宅ニ於テ自ラ胴親ト爲リ長谷川とみ羽住竹造及青柳茂等ヲ元運送トシテ使役シ俗ニ「チーハー」ト稱スル賭錢博奕ヲ常習トシテ爲シタルモノナリ

○理由

辯護人瀨良泰治上告趣意書第二點原判決ハ「被告人ハ大正十五年一月頃ヨリ昭和二年九月二十五日迄ノ間殆ント連日ニ互リ東京市日本橋區横山町二丁目十七番地被告人居宅ニ於テ自ラ胴親ト爲リ長谷川とみ羽住竹造及青柳茂等ヲ元運送トシテ使役シ俗ニ「チーハー」ト稱スル賭錢博奕ヲ常習トシテ爲シタルモノナリ」ト認定シ被告人ヲ常習賭博罪ニ間擬シタリ然ルニ本件起訴狀ヲ閱スルニ「公訴事實被告人

賭博場開張幫助ノ起訴ト常習賭博ノ判決

ハ大正十五年一月頃ヨリ昭和二年九月二十五日迄東京市日本橋區横山町二丁目十七番地ノ自宅ニ於テ山本清四郎カ開張シタルチーハート稱スル賭錢博奕ヲ爲スノ情ヲ知リテ同人ニ前記居宅ヲ供與シテ其ノ犯行ヲ幫助シタルモノナリ」(記録二八丁)ト記載シアルノミニシテ檢事ハ被告人ニ對シ賭博開張幫助罪ヲ起訴シタルモノニシテ常習賭博罪ヲ起訴シタルモノニアラサルコト明カナリトス然ルニ原判決ハ檢事ノ起訴シタル賭博開張幫助罪ニ對シ何等ノ裁判ヲ爲サス却テ起訴ナキ常習賭博罪ニ付キ裁判ヲ爲シタルハ請求ヲ受ケタル事項ニ對シ裁判ヲ爲サス請求ヲ受ケサル事項ニ付キ審判ヲ爲シタル違法アルモノニシテ刑事訴訟法第四百十條第十八號ニ依リ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ賭場開張罪ハ賭博ニ關シ利ヲ圖ル目的ヲ以テ賭博ヲ爲スヘキ場所ヲ開設スルコトニヨリ成立スル犯罪即チ賭博ニ關スル犯罪ナルカ故ニ賭場開張ヲ幫助シタル旨ノ公訴事實モ畢竟賭博ニ關スル犯罪ノ公訴事實ニ外ナラサルヲ以テ原裁判所カ所論ノ如ク賭場開張幫助罪トシテ公訴ヲ受ケタル事件ニ付審理ノ結果常習賭博罪ヲ構成スルモノト認定シ被告人ヲ處斷シタリトスルモ之ヲ目シテ公訴以外ノ事件ニ付審判ヲ爲シ公訴事件ニ付審判ヲ爲ササルモノト稱スヘキニ非ス從テ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事宮崎晋一關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和三年(九)第八六八號 同年七月四日第三刑事部判決 棄却)

〔上告人〕 被告人 大林高次郎 辯護人 江口 繁 繁本國武
 〔第一審〕 福岡區裁判所 〔第二審〕 福岡地方裁判所

○判示事項

衆議院議員選舉法第一百一條ニ所謂詐僞ノ方法

○判決要旨

選舉人名簿ノ作成ニ關シ當該吏員ノ取調ヲ受ケルニ當リ虛僞ノ申述ヲ爲シタル場合ニ於テ之ニ基キ自己カ選舉人名簿ニ登錄セラルルコトノ認識アリタル以上ハ其ノ申述ハ衆議院議員選舉法第一百十

一條ニ所謂詐偽ノ方法ニ該當ス

〔參照〕衆議院議員選舉法第百十一條 詐偽ノ方法ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレタル者又ハ第二十五條第二項ノ場合ニ於テ虛偽ノ宣言ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審判決ハ左記ノ事實ヲ認定シ衆議院議員選舉法第百十一條ヲ適用シ被告人ヲ罰金五十圓ニ處ストノ宣告ヲ爲シタリ

被告人ハ大正十五年十二月中旬頃福岡市ニ居住ノ目的ヲ以テ初テ兵庫縣下ヨリ福岡市海岸通運送業木村勘吉方ニ寄寓シ其ノ後同市下竊町取引所前某方ニ轉居シ更ニ昭和二年一、二月頃肩書住居(福岡市大濱町二丁目新町六十二番地田中方)ニ轉住シタルモノナルニ拘ラス同年十月初頃其ノ住居ニ於テ福岡市吏員木下龜太郎ヨリ特ニ選舉人名簿作成ノ爲必要ナリト告ケラレ福岡市來住年月日ノ調査ヲ受クルニ當リ故意ニ大正十五年三月十五日ヨリ同市ニ來リ居住スル旨申告シ以テ詐偽ノ方法ニ因リ同市選舉人名簿ニ登錄セラレタルモノナリ

○理由

辯護人江口繁繁本國武上告趣意書第二點假リニ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認ナシトスルモ原判決ハ法

律ノ適用ヲ誤レリ原判決理由ニ依レハ「福岡市吏員木下龜太郎ヨリ特ニ選舉人名簿作成ノ爲必要ナリト告ケラレ福岡市來住年月日ノ調査ヲ受クルニ當リ故意ニ大正十五年三月十五日ヨリ同市ニ來リ居住スル旨申告シタル事實」ニヨリ之レ詐偽ノ方法ニ因リテ同市選舉人名簿ニ登錄セシメタルモノナリト解シ衆議院議員選舉法第百十一條ニ該當スルモノトシテ處斷セリ然レトモ同法第百十一條詐偽ノ方法ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレタル者トハ選舉人タルノ資格ナキ者詐術ヲ用ヒテ市町村長ヲシテ選舉人ト誤信セシメ選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ヲ謂ヒ詐術ヲ用フトハ民法第二十條ニ「詐術ヲ用ヒ」トアルト同意義ニシテ單ニ書面又ハ口頭ヲ以テ適格者ナリト虛偽ノ陳述ヲ爲シ若クハ他人ノ誤信ヲ知リテ默秘シタル場合ト雖之ヲ信セシムル爲殊更積極的ニ詐偽手段ヲ用ヒサルニ於テハ詐術ヲ用ヒタリト解スヘカラス(御院民事大正六年九月二十六日同十二年三月十四日判決參照)本件ノ如キ吏員ノ調査應答ヲ以テ直ニ詐偽ノ方法ニヨリ名簿ニ登錄セシメタルモノト認定スルハ全ク法ノ解釋ヲ誤レリ殊ニ本件吏員ノ調査ハ戸別ニ來住年月日ヲ聞キ廻リタル事實ニ過キスシテ以テ直ニ名簿ニ登錄セシムル關係アリト謂フヘカラス寄留届戸籍簿其ノ他ノ材料ニ付調査ノ上初テ名簿登錄ノ適否ヲ決定スヘク被告人ノ一片ノ答ニヨリ被告人カ詐偽ノ方法ヲ以テ名簿ニ登錄セシメタリトハ到底論斷ヲ許サス又衆議院議員選舉法第二十五條第二項ノ虛偽ノ宣言ノ場合ト本件ノ場合ト對照セハ前者虛偽ノ宣言ハ直ニ選舉ノ公正ヲ侵スヘキ關係ニアリ後者本件ノ如キ詐偽ノ方法ニヨリ名簿ニ登錄セララルル場合モ亦選舉權

【要旨】

行使ノ適正ヲ誤ラシムヘク積極的詐術手段ヲ用ヒタル場合ナラサルヘカラス唯單ニ調査一片ノ答辯ヲ以テ直ニ右虛偽宣言ト同位ニ置クト解セント爲スコトノ失當ナルコト多辯ヲ須ヒスシテ明瞭ナルヘシト云フニ在レトモ○衆議院議員選舉法第百十一條ニ所謂詐僞ノ方法トハ積極的ノ策略ヲ弄スル場合即チ詐術ヲ用ウル場合ヲ包含スヘキハ勿論ナリト雖或ハ選舉資格ニ付當該吏員ノ取調ヲ受クルニ當リ口頭ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲スカ如キ特別ナル詐術ヲ用キサル場合ニ於テモ苟モ自己ノ申告ニ因リテ選舉人名簿ニ登録セララルコトノ認識アリテ虛偽ノ申告ヲ爲シタル以上ハ等シク詐僞ノ方法ヲ行ヒタルモノニ該當スルモノト云ハサルヘカラス原判決ノ認定シタル事實ハ其ノ判示スルカ如ク被告人ハ福岡市内ニハ大正十五年十二月中旬兵庫縣下ヨリ轉住シ來リタル者ナルニ拘ラス判示ノ如ク福岡市吏員木下龜太郎ヨリ特ニ選舉人名簿作成ノ爲必要ナリト告ケラレ福岡市來住年月日ノ調査ヲ受クルニ當リ故意ニ大正十五年三月十五日以降同市ニ來住セル旨虛偽ノ申告ヲ爲シ因テ同市選舉人名簿ニ登録セラレタルモノナリト云フニ在レハ其行爲ハ同法第百十一條ニ詐僞方法ヲ以テ選舉人名簿ニ登録セラレタル者トアルニ該當シ同罰條ヲ適用シテ處斷スヘキモノナルコト疑ヲ容レス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告理由及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事宮城長五郎關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和三年(れ)第九八四號 棄却)
(昭和三年七月十日第卅九號刑事部判決)

【上告人】 被告人 吉村吉三郎 辯護人 牧野充安 東海林民藏

【第一審】 奈良區裁判所 【第二審】 奈良地方裁判所

○判示事項

新聞紙記事ヲ利用スル選舉運動

○判決要旨

衆議院議員選舉ニ際シ法定ノ運動者ニ非スシテ新聞紙ノ記事ヲ利用シ選舉運動ヲ爲シタル場合ニ在テハ衆議院議員選舉法所定ノ罰條ニ照シテ處斷スヘク新聞紙ノ發行人編輯人若ハ印刷人ニ於テ當然其ノ責ニ任スヘキモノニ非ス

【參照】衆議院議員選舉法第九十六條 議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ此ノ限ニ在ラス

同法第二百二十九條 第九十六條若ハ第九十八條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審裁判所ハ左記事實ヲ認定シ被告人ノ行爲ハ衆議院議員選舉法第九十六條第二百二十九條ニ該當スルモノトシテ被告人ヲ罰金七十圓ニ處シ其ノ罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ三十五日間勞役場ニ留置スル旨宣告シタリ

被告人ハ奈良市小西町二十四番地大和毎日新聞社員ニシテ同新聞ノ編輯兼校正係ヲ擔當セル者ナル處昭和三年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ奈良縣ヨリ立候補シタル議員候補者森本千吉ノ法定ノ選舉運動者ニ非サルニ拘ラス同年二月十九日發行ノ同新聞紙第千五百六十一號第二面紙上ニ愈々最後ノ日ハ迫レリ森本氏ノ勇躍ト題シ森本千吉君ヲ選舉民諸君ニ推薦シテ憚ラス同君ノ識見ノ遠大抱負ノ着實ト眞情ノ豊ナル人格ヲ偏ニ社會ニ推稱シ當選ノ榮ヲ得シメント願フモノナリ確ニ君ヲ議政壇上ニ送リ國家ノ施設ニ力ヲ致サセ度キ一事ナリ其ノ意味ニ於テ黨派ノ如何ヲ論外ニシテ森本千吉君ヲ推スコトハ最モ有意義ナルコトニシテ覺醒セル選舉民諸君ハ貴重ナル一票ノ行使ヲ誤マラサルモノト信

スル旨千吉ノ爲メ投票ヲ勸誘スル記事ヲ掲載シ同月十八日十九日ノ兩日ニ互リ同新聞紙約三千五百部ヲ奈良縣下ニ配布シ演說又ハ推薦狀ニ依ラサル選舉運動ヲ爲シタルモノナリ

○理由

辯護人牧野充安東海林民藏上告趣意書第一點文書ニ因ル選舉運動ノ犯罪ハ「責任者ノ署名ヲ缺クコト」ヲ要件トス本件大和毎日新聞紙上ニハ發行人編輯人印刷人ノ署名アリテ其ノ責任者ヲ明示ス而カモ且其ノ責任者ハ「届出ラレタル選舉運動者岩本正吉ナリ然ラハ則チ文書ニ因ル選舉運動トシテ適正適法何等罪タルヘキ行爲ニアラス然ルニ被告ヲ捉ヘテ其ノ罪ヲ擬セントスルハ不當ナリト云ヒ」第二點原判決ハ其ノ理由トシテ「被告人ハ大和毎日新聞社員ニシテ同新聞ノ編輯兼校正係ヲ擔當セル者ナル處……同新聞紙第千五百六十二號第二面紙上ニ云々旨千吉ノ爲メ投票ヲ勸誘スル記事ヲ掲載シ同月十八日十九日ノ兩日ニ互リ同新聞紙約三千五百部ヲ奈良縣下ニ配布シ演說又ハ推薦狀ニ因ラサル選舉運動ヲ爲シタルモノナリ」ト說示セラレタレトモ第一其ノ冒頭ニ說示セル被告カ大和毎日新聞ノ社員ニシテ「編輯兼校正係」ヲ擔任セル職務ト後段「……ノ記事ヲ掲載シ同新聞ヲ配布シタル行爲」トハ直チニ以テ關鎖アリト論斷スルヲ得サルヘシ何トナレハ(1)「新聞社員」タルコトハ其ノ「新聞ノ記事及配付」ニ責任ナキコト極メテ明白ニシテ末々曾テ新聞社員タルカ故ニ其ノ新聞ノ記事配付ニ付責任アリトノ事實ヲ認メラレタルコトナク又責任アリトノ說論ヲ聞キタルコトナシ(2)新聞ノ校正係亦タ然

リ(3)編輯亦タ然リ抑モ新聞記事ニ付責任ヲ負フモノハ當然新聞ノ署名者ニシテ或ル場合ニハ法律ヲ以テ其ノ筆者ヲ處罰スルコトヲ規定セリ此以外ニ責任者ヲ認ムヘキ理由ハ之ヲ認メ難シ何故ニ「社員タル故ニ」「編輯ナル故ニ」「校正係ナル故ニ」其ノ「記事ノ掲載」「新聞ノ配付」ニ付テ刑法上ノ責ヲ負フヘキヤ法ノ明文何クニアリヤ法ノ推理如何之ヲ解スルニ苦シム第二大和毎日新聞ニハ其ノ發行編輯印刷ニ付法令ニ遵由シ「署名者」アリ新聞紙上之ヲ明記セリ其署名者岩本正吉ハ又タ事實上同新聞ノ經營者ニシテ被告吉村吉三郎ハ編輯兼校正ノ事務ヲ擔任セル一被雇人ニ過キス(記事ノ筆者ナリトハ原判決ノ說示セサル所ナリ)選舉運動行爲ト認メラルル「記事」ハ被告ノ起稿シタルモノニアラス又被告カ該記事ヲ編輯シタリトノコトモ原判決ノ說示セサル所ナリ單ニ「編輯兼校正」ノ一員ニ伍スルノ故ヲ以テ「新聞記事」ニ付テ責ニ任スヘキ謂レナシ第三既ニ新聞紙上ニ其ノ發行編輯印刷ニ付夫々署名者アリ新聞紙上ノ記事ニ因ル選舉運動行爲ニ付テハ責任者ノ署名アリ責任者ノ署名ニ依リテ爲サレタル文書ニ因ル選舉運動行爲ハ法律之ヲ罰セス然ルニ被告ニ本犯罪アリトスル理由ハ之ヲ解スルニ苦シム第一二點ノ孰レヨリ觀ルモ原判決ハ法律適用錯誤若クハ理由不備然ラスハ事實上顯著ナル錯誤(原判決摘示自體ニヨリ之ヲ知ル)アルモノト思料ス(該新聞記事ハ原判決認定ノ如ク選舉運動行爲ナルコトヲ肯定シテ立論セルモノナリト云フニ在リ)○案スルニ新聞紙法違反ノ行爲ニ付テハ發行人編輯人若ハ印刷人ヲ處罰スヘキモノナルコト新聞紙法ノ明定スル所ナリト雖衆議院議員選

【要旨】

舉ニ際シ偶々新聞紙ノ記事ヲ利用シテ爲シタル選舉運動カ衆議院議員選舉罰則ニ觸ルル場合ニ在テハ專ラ其ノ實質ニ顧ミ衆議院議員選舉法所定ノ罰條ヲ以テ臨ムヘク新聞紙ノ發行人編輯人若クハ印刷人ニ於テ當然其ノ責ニ任スヘキモノニ非ス然リ而シテ原判決ノ判示スル事實ニ依レハ被告ハ大和毎日新聞社員ニシテ同新聞ノ編輯兼校正係ヲ擔任セル者ナル處昭和三年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ奈良縣ヨリ立候補シタル議員候補者森本千吉ノ法定運動者ニ非サルニ拘ラス同年二月十九日發行ノ同新聞紙第五百六十二號第二面紙上ニ判示ノ如キ記事ヲ掲ケ同月十八日十九日ノ兩日ニ互リ同新聞紙約二千五百部ヲ奈良縣下ニ配布シ演說又ハ推薦狀ニ依ラサル選舉運動ヲ爲シタルモノナリト云フニ在レハ則チ被告ハ判示衆議院議員選舉ニ際シ法定運動者ニ非サルニ拘ラス當選ヲ得シムル目的ヲ以テ議員候補者森本千吉ノ爲判示新聞紙ノ記事ヲ利用シテ選舉運動ヲ爲シタルモノナルコト明ニシテ其ノ行爲ハ衆議院議員選舉法第九十六條本文ノ規定ニ違反シ同法第二百二十九條ニ依リ處罰スヘキモノニ該當スルヤ疑ヲ容レス尙記録ニ徵スルモ原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ノ認ムヘキモノナク且本件衆議院議員選舉法違反ノ罪ヲ判示スルニ付毫モ缺クル所アルコトナシ從テ判示事實ヲ判示法條ニ間擬シタル原判決ハ正當ニシテ論旨ハ孰レモ其ノ理由ナシ右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事瀧淵孝雄關與

○偽證被告事件

(昭和三年(九)第八二六號
同年六月二十九日第一刑事部判決)

棄却)

〔上告人〕

被告人

澤島榮吉

辯護人

秋山高三郎
高橋禎一

〔第一審〕

神戸區裁判所

〔第二審〕

神戸地方裁判所

○判示事項

公判廷外ノ申立ニ對スル決定ト訴訟關係人ノ陳述

○判決要旨

公判廷外ニ於テ書面ヲ以テスル申立アリタルトキ之ニ對シ決定ヲ爲スニハ必シモ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽クノ要ナク決定ノ告知力裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲ス場合タルト公判廷ニ於テ宣告ニ因リ之ヲ爲ス場合タルトニ因リ其ノ手續ニ差異アルモノニ非ス

公判廷外ノ申立ニ對スル決定ト訴訟關係人ノ陳述

【參照】刑事訴訟法第四十八條 判決ハ口頭辯論ニ基キテ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 決定ハ公判廷ニ於テ申立ニ因リ之ヲ爲ストキハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽クヘシ其ノ他ノ場合ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 命令ハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得
 決定又ハ命令ヲ爲スニ付必要アル場合ニ於テハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得
 受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ
 同法第五十條 裁判ノ告知ハ公判廷ニ於テハ宣告ニ依リ之ヲ爲シ其ノ他ノ場合ニ於テハ裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

○事實

第二審ニ於テ第一回公判後辯護人ヨリ證人木原喜代藏外五名ノ喚問申請ノ書面ヲ提出シタルニ裁判所ハ別ニ檢事ノ意見ヲ徵セス其ノ後第二回公判期日ニ至リ公判開廷中裁判長ヨリ右證人喚問ノ申請ヲ却下スル旨ノ決定ヲ宣告シタリ

○理由

辯護人秋山高三郎高橋禎一上告趣意書第一點原審裁判ニハ刑事訴訟法第四百十條第十四號ニ違反スル

ノ違法アリト思料ス本件記録ヲ査閲スルニ原審第一回公判後第二回公判前原審辯護人一同ヨリ證人木原喜代藏外五人ノ喚問申請ヲ書面ヲ以テ爲シタルコトヲ認メ得ヘシ而シテ其ノ第二回公判調書ヲ見ルニ審理更新ノ後安藤辯護人ヨリ在廷證人根岸明正ノ取調ヲ申請シタル旨ノ記載アリ其ノ後ノ記載ハ「檢事ハ右ハ必要ナル旨意見ヲ述ヘタリ裁判長ハ合議ノ上昭和三年一月二十二日附各辯護人ヨリ申請ノ證據申請ハ其ノ必要ナキモノト認メ之ヲ却下シ右根岸明正ハ之ヲ採用ストノ決定ヲ宣シ云々」トアリ即チ原審裁判所ハ前記辯護人ヨリ爲シタル證據申請ニ付之カ決定ヲ公判廷ニ於テ爲スニ當リ檢事ノ意見ヲ聽カスシテ爲シタルコト明白ナリトス決定ハ公判廷ニ於テ申立ニヨリ之ヲ爲ストキハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽クヘシトハ刑事訴訟法第四十八條第二項前段ノ明定スルコロニシテ其ノ法意ハ公判外ニ於テ申立ニヨリ決定ヲ爲ス場合公判外ニ於テ職權ヲ以テ決定ヲ爲ス場合及公判廷ニ於テ職權ヲ以テ爲ス場合ハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽ク必要ナキモ公判廷ニ於テ申立ニ因リ決定ヲ爲ス場合ニハ必ス訴訟關係人ノ陳述ヲ聽クヲ必要トスルモノトス刑事訴訟法第四十八條第二項ノ「公判廷ニ於テ申立ニ因リ」トアルハ申立カ公判廷ニ於テセラレタル場合ヲ指スニアラスシテ公判廷ニ於テハ公判外ニ對シ申立ニ因リハ職權ニ因リニ對スル文字ニシテ即チ本件ノ如ク決定カ職權ニ基クニアラスシテ申立ニ因ル場合ニ於テハ其ノ申立ハ公判廷ニ於テ爲サレタルト公判期日外ニ於テ爲サレタルトヲ問ハス苟モ之カ決定ヲ公判廷ニ於テ爲スニ當リテハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カサルヘカラス原審裁判ハ此ノ原則ヲ無視

公判廷外ノ申立ニ對スル決定ト訴訟關係人ノ陳述

シテ檢事ノ陳述ヲ聽クコトナク前記證據申請却下ノ決定ヲ爲シタルモノナルカ故ニ其ノ決定ハ違法無效ニシテ結局之ナキニ等シク前記各辯護人ノ證人申請ニ對シ決定ヲ爲ササルニ等シク刑事訴訟法第四百條第十四號ニ違反スルニ至レルモノナリト思料ス(平沼博士新刑事訴訟法要義二一頁)ト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第四十八條第二項ニ「決定ハ公判廷ニ於テ申立ニ因リ決定ヲ爲ストキハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽クヘシ」トアルハ公判廷ニ於テ申立ニ因リ決定ヲ爲ストキハ單ニ申立ヲ聽クニ止メス併セテ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽クヘキコトヲ規定セルニ過キス同條項ニハ又「其ノ他ノ場合ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得」トアルヲ以テ公判廷外ニ於テ書面ヲ以テスル申立アリタルトキ之レカ決定ヲ爲スニハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽クヲ要セサルハ勿論ニシテ其ノ決定ノ告知ハ宣告ニ依リ之ヲ爲ス場合タルト裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲ス場合タルト問ハス均シク訴訟關係人ノ陳述ヲ聽クノ要ナキモノトス故ニ原審ニ於テ第一回公判後第二回公判前ニ於テ原審辯護人ノ書面ヲ以テ爲シタル所論證人喚問申請ニ付第二回公判廷ニ於テ却下ノ決定ヲ宣告シナカラ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カサリシコトハ洵ニ所論ノ如シト雖其ノ執リタル訴訟手續ハ毫モ違法ニ非ス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省畧ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事三橋市太郎關與

【要旨】

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和三年(九)第一〇〇一號 同年七月十三日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 中 平 助 辯護人 中 猪之助
 【第一審】 上野區裁判所 【第二審】 安濃津地方裁判所

○判示事項

投票ヲ爲ス意思アル選舉人ニ對スル依頼又ハ勸誘ト選舉運動——
 戸別訪問ト訪問ノ場所

○判決要旨

一 議員候補者選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サル者力選舉人ニ對シ特定ノ議員候補者ニ投票センコトヲ依頼又ハ勸誘スル行爲ハ一ノ選舉運動ニシテ其ノ選舉人ニ同候補者ニ投票スル

投票ヲ爲ス意思アル選舉人ニ對スル依頼又ハ勸誘ト選舉運動 戸別訪問ト訪問ノ場所

決意アリタルト否トハ衆議院議員選舉法第九十六條違反ノ罪ノ成立ニ消長ナシ【要旨第一】

二衆議院議員選舉法第九十八條ノ戸別訪問ニ於ケル訪問ニハ選舉人ノ居宅ニ就テ之ヲ訪フ場合ノミニ限ラス汎ク選舉人何某方ト解セラルヘキ場所ニ就テ之ヲ訪フ場合ヲ包含スルモノトス【要旨第二】

【参照】衆議院議員選舉法第九十六條 議員候補者選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ演説又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ此ノ限ニ在ラス

同法第九十八條 何人ト雖投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲スコトヲ得ス
何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個々ノ選舉人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

同第九十九條 第九十六條若ハ第九十八條ノ規定ニ違反シタルモノ又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金四拾圓ニ處シ罰金ヲ完納スルコト能ハ

サルトキハ二十日間勞役場ニ留置シ訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和三年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ法定ノ選舉運動者タル資格ヲ有セサルニ拘ハラス三重縣第一區ヨリ立候補セル川崎克ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ犯意ヲ繼續シテ

第一同月十五日居宅ノ道路ニ於テ選舉人中覺次郎ニ對シ同人等ノ組織セル富士講ノ講員ニ對シ川崎候補ノ爲ニ投票センコトノ勸誘方ヲ依頼シ

第二同月十六七日頃居村選舉人辻元次郎方ヲ訪問シ同人ニ對シ前記候補者ニ投票センコトヲ請託シ

第三同月十八日居村選舉人藤田楢松方ヲ訪問シ同人ニ對シ前記候補者ニ對シ投票セラレ度旨申込ミ以テ戸別訪問及選舉運動ヲ爲シタリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲中法定ノ選舉運動者タル資格ナクシテ選舉運動ヲ爲シタル點ハ衆議院議員選舉法第九十六條第二百二十九條刑法第五十五條ニ戸別訪問ノ點ハ右選舉法第九十八條第一項第二百二十九條刑法第五十五條ニ各該當スル處右ハ一行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ犯情重キ戸別訪問罪ニ付定メタル刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金四拾圓ニ處スヘク右罰金不完納ノ場合ニ於ケル勞役場ノ留置期間ハ刑法第十八條ニ則リテ主文ノ如ク之ヲ定メ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

投票ヲ爲ス意思アル選舉人ニ對スル依頼又ハ勸誘ト選舉運動 戸別訪問ト訪問ノ場所

辯護人中猪之助上告趣意書第二點原判決ハ「第二同月十六七日頃居村選舉人辻元次郎方ヲ訪問シ同人ニ對シ前記候補者ニ投票センコトヲ請託シ」以テ被告カ選舉運動ヲ爲シタル事實ヲ認定セラレタルモ之不能ノ事實ヲ認メタルニ非サレハ探證ノ法則ニ違背シ且審理不盡法則違背ノ不法アリト信ス(イ)原審カ探ツテ以テ證據トナセル檢察廷ニ於ケル被告辻元次郎ノ供述ヲ見ルニ被告ハ「君ハ今度誰ニ投票スルカト尋ネタトコロ元次郎ハ川崎氏ニ入レヨウト思ツテイルト申シマシタカラ私ハ元次郎ニ向ヒ自分モ今度川崎氏ヲ推薦シテオル故君モ川崎氏ニ同情シテ應援シテ吳レト申シマシタ」云々トアリ辻元次郎ハ「君ハ今度誰ニ投票スル積リカト尋ネマシタカラ私ハ川崎サンニ入レル心積リタト申シマスト平助ハ云々君モ川崎氏ニ投票シテ吳レト申シマシタノテ私ハ承諾シマシタ」云々ト供述シ居レリ今兩者ノ供述ヲ綜合考覈スルトキハ被告ニ於テ假令選舉運動ノ意思ヲ以テ辻元次郎ヲ訪問シ且之ニ投票依頼ヲ爲シタリトスルモ後者カ被告ノ依頼ヲ受ケサルニ先チ既ニ川崎候補ニ投票スヘク決意シ居リタルモノト謂フヘキヲ以テ之ニ對シ投票依頼若ハ勸誘ノ如キハ事實アリ得ヘカラサルモノニシテ所謂不能ノ行爲ナリト謂フヘキモノナリ何トナレハ投票依頼或ハ勸誘ト謂フハ或者ニ對シ投票意思ナキ者或ハ何人ニ投票スルヤ未タ決定ヲ見サル者ニ對シ之ニ能動的ニ所爲シテ其ノ者ニ對スル投票心ヲ増大セシメ或ハ決意セシムル場合ヲ指稱スルモノト謂フヘク本件ノ場合ノ如ク被勸誘者カ既ニ勸誘者ノ推

サントスル者ト同一人ニ投票スヘク決意シオル場合ハ之ヲ含マサルモノト謂フヘケレハナリ(ロ)假リニ前述ノ行爲ヲ目シテ不能ノ犯罪事實ト爲ストルモ原判決ハ探證ノ法則ニ違背セル不法アリト信ス即チ第一審公判廷ニ於ケル證人トシテ辻元次郎ハ「平助ハ證人ニ對シ川崎氏ニ投票ヲ依頼シタノテハナイカ」トノ判事ノ訊問ニ對シ「平助カラ左様ナ事ヲ頼マレタノテハアリマセヌ」ト陳述シ居レリ之ニ依レハ被告ハ辻元次郎ニ對シ投票依頼ヲ爲シタルニ非サル有力ナル證據ハ存在セリト謂フヘク且該證言ハ被告ニ取リテ有利ナル唯一ノ證據ナルヲ以テ其ノ之ヲ採ツテ證據トセラルルヲ要シ原審カ之ニ對シ何等ノ判斷ヲモ與ヘラレサリシハ探證ノ法則ニ違背セルモノト謂ハサルヲ得ス(ハ)更ニ原判決ニハ不法ニ法律ヲ適用セル違法アルカ又ハ審理不盡ノ違法アリ即チ原判決ハ被告ハ辻元次郎方ヲ訪問セリトノ判斷ヲ爲シタレトモ元來辻元次郎ハ瓦製造業ヲ營ミ其ノ瓦燒ノ「カマ」ヲ自宅(住家)ト離レ住宅トハ村道ヲ隔テテ村道ノ路傍ニ築キアルハ第一審公判廷ニ於ケル辯護人ノ問ニ對スル被告ノ供述ニ依リ知り得ル處ニシテ被告カ山仕事ノ行道ニ於テ其ノ路傍ニ築カレタル「カマ」ノ近側ヲ通リスカリ立話ヲ爲シタルコト明ナリ然ラハ被告ノ行爲ハ辻元次郎宅ヲ訪問セルモノトハ謂ヒ難キモノナリ凡ソ訪問トハ必スシモ被訪問者ノ居宅ニ就テ之ヲ訪フヲ要セス或ハ居宅以外ノ作業場アルトキハ其ノ作業場ニ至リテ之ニ面接スルモ之又訪問ナリト解スルヲ得ヘキモ路傍通リスカリニ際シ立話スルカ如キハ訪問ト解セントシテ得サルナリ故ニ被告カ辻元次郎ヲ訪問セリトノ事實ヲ認定センニハ更ニ

投票ヲ爲ス意思アル選舉人ニ對スル依頼人又ハ勸誘ト選舉運動、戶別訪問ト訪問ノ場所

右瓦焼「カマ」設置所ハ作業場等ノ體裁ヲ備ヘタリヤ否ヤ又被告カ其ノ作業場ヲ爲セル場所ニ立入り面接セシヤ否ヤ等ノ事實ヲ檢シタル後ニ非サレハ之ヲ爲シ得サルニ拘ラス此ノ點ニ關シ何等說示スル處ナクシテ容易ク訪問ノ事實ヲ認メタル原判決ハ審理不盡ノ違法アリト謂フヘシト云フニ在レトモ○衆議院議員選舉法カ議員候補者選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サル者ニ對シ選舉運動ヲ爲スコトヲ禁シ之ヲ犯ス者ヲ處罰セル所以ノモノハ一ニ選舉ノ自由公正ヲ保護セントスルニ在リ而シテ投票ヲ依頼シ又ハ勸誘スルカ如キ選舉運動ニ在リテハ苟モ投票ノ依頼又ハ勸誘ノ意思ヲ以テ一定ノ行爲ニ出ツルトキハ其ノ行爲ノミヲ以テ直ニ犯罪成立シ敢テ之ニ因リテ選舉ノ自由公正ニ對スル實害ノ發生シタルコトヲ要セサルハ勿論之カ具體的危險ノ發生ヲモ必要トセサルナリ然ラハ本件ニ於テ被告人カ川崎候補者ニ投票セムコトヲ依頼シタル辻元次郎ニ於テ業已ニ候補者ニ投票セムコトヲ決意シ居タリトスルモ犯罪ノ成否ニ何等ノ影響ナキモノト謂ハサルヘカラス而シテ(ロ)證據ノ取捨判斷ハ原審ノ職權ニ屬スル所ナルノミナラス第一審公判廷ニ於ケル證人辻元次郎ノ供述ハ原判決ノ採用セサル所ナルヲ以テ所論攻撃ハ當ラス次ニ(ハ)衆議院議員選舉法ニ所謂戶別訪問タルニハ必シモ被訪問者何某ノ居室ニ就キ之ヲ訪フ場合ニ限ラサルヲ以テ苟モ社會通念上其ノ往問シタル場所ニシテ被訪問者ノ何某方ナリト解セラルルニ於テハ其ノ居室ナルト否トヲ問ハス之ヲ訪問ト解シテ何等妨オキモノト謂フヘシ而シテ原判決ノ引用セル被告人ニ對スル檢事ノ聽取書ニ依レハ被告人ニ於テ辻元次郎ヲ其ノ居

【要旨第二】

【要旨第一】

宅ヨリ離レタル同人ノ瓦燒竈ノ設置場所ニ訪問シタルコト明瞭ナレハ其ノ設備カ如何ニ拘ラス原判決カ之ヲ戶別訪問ト認定シタルハ洵ニ相當ニシテ毫モ所論ノ如キ審理不盡又ハ理由不備ノ違法存在セス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告理由並判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事三橋市太郎關與

○背任被告事件(昭和三年(九)第七三三號 棄却)

【上告人】 被告人 池川 忠次 外一名辯護人

五端榮治 秋高三郎 高橋重一 木田忠次 草場實次郎

【第一審】 京都地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

刑事訴訟法第六十一條第二項ト公判調書ノ整理

刑事訴訟法第六十一條第二項ト公判調書ノ整理

○判決要旨

刑事訴訟法第六十一條第二項ノ規定アルノ故ヲ以テ公判調書ヲ公判廷ニ於テ即時整理スルコトヲ要スルモノト謂フヲ得ス

【参照】 刑事訴訟法第六十一條第二項 供述者ノ請求アルトキハ裁判所書記ヲシテ其

ノ供述ニ關スル部分ヲ讀聞カサシメ増減變更ノ申立アリタルトキハ其ノ供述ヲ記載セシムヘシ

同法第六十條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ニ付テハ公判調書ヲ作ルヘシ

公判調書ニハ左ノ事項其ノ他一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘシ

七 第五十六條第二項ニ掲ケル事項

同法第六十二條 公判調書ハ公判開廷ノ日ヨリ五日內ニ之ヲ整理スヘシ

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ事實ヲ認定シ刑法第二百四十七條第六十五條第一項ヲ適用シ被告兩名ヲ各懲役一年六月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人忠次ハ大正十二年十二月以降京都市下京區四條通東洞院東入所在株式會社神田銀行京都支店ノ支店長トシテ同支店ニ於ケル貸付其ノ他營業上一切ノ事務ヲ處理シ居タルモノナル處大正十三年二月頃同市同區錦小路通堺町東入中魚屋町ニ於テ魚問屋ヲ營メル被告人千萬吉トノ間ニ當座取引ヲ開始シ

同年三月中金額八千圓同年四月中金額二千圓ヲ各限度トスル當座貸越契約ヲ締結シ爾來同人ト取引ヲ繼續シ來リシカ同銀行ニハ貸付ニ關スル内規アリテ本店ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ支店長ト雖モ無擔保貸付又ハ貸越契約ニ因ル貸越限度額以上ノ無擔保貸付ヲ禁セラレ居ル爲メ被告人忠次ハ誠實ニ之ヲ履行シテ以テ同銀行ノ財産上ノ利益ヲ保護スヘキ責務アルニ拘ラス同銀行ニ損害ヲ加フルモノナルコトヲ認識シ且千萬吉ニ充分ノ資力ナキコトヲ知悉シナカラ被告人千萬吉及同人ノ使用人タル原審相被告人島田庄吉ト共謀ノ上其ノ頃ヨリ大正十五年三月中旬頃迄ノ間同銀行其ノ他ニ於テ濫リニ被告人千萬吉ノ利益ヲ圖リ右支店長タル任務ニ背キテ同人ニ對シ約參拾萬圓ノ放漫ナル無擔保貸出ヲ爲シ次イテ同年五月頃ヨリ翌六月頃迄ノ間數回ニ互リ被告人千萬吉カ形式上無限責任社員ト爲リ居タル河仙合資會社ノ爲メニ其ノ利益ヲ圖リ前同様同被告人等ト共謀ノ上同會社ニ對シ行金合計一萬六千餘圓ノ無擔保貸出ヲ爲シ因テ同銀行ヲシテ右不當貸付金大部分ニ對シ回收不能ニ因ル多額ノ損害ヲ蒙ラシメ被告人千萬吉ハ株式會社神田銀行ト前示貸越契約ヲ締結シタル以來被告人忠次カ前記ノ如ク其ノ任務ニ背キテ自己又ハ前示河仙合資會社ノ爲メニ夫々放漫ナル貸出ヲ爲スモノナルコトヲ認識シナカラ同被告人等ト共謀ノ上前記ノ如ク不當ナル貸出ヲ受ケ以テ被告人忠次ノ背任行爲ニ加功シタルモノナリ第二審第一回公判調書ニハ冒頭ニ昭和三年三月十四日開廷ノ旨並其ノ末尾ニ於ケル裁判所書記ノ署名ノ前ニ同年同月十六日ノ日附ノ記載アリ

○理由

被告忠次辯護人遺藤忠次草場實治上告趣意書第一點背任罪ノ成立ニハ背任行爲ノ結果本人ニ現實ノ損害ヲ加ヘタル事實アルコトヲ要スルハ論ヲ俟タス故ニ銀行ノ業務執行者カ其ノ任務ニ背キテ第三者ノ利ヲ圖リ之ニ無擔保貸付ヲ爲シタル場合ニ於テモ其ノ貸付ノ即時ニ背任罪成立スルモノニ非ス後日其ノ貸付ヲ受ケタルモノカ任意ヲ辨濟ヲ爲シタルトキハ勿論又假令其ノ者カ辨濟期日ニ任意ノ辨濟ヲ爲サザリシトスルモ強制執行ヲ受ケタル結果辨濟ヲ爲シ得タリトセハ尙背任罪ヲ構成スルコトナシ原判決ハ被告池川忠次ハ神田銀行京都支店長トシテ同銀行内規ニ背キ相被告河村千萬吉ノ利益ヲ圖リ同人ニ對シ約參十萬圓ノ放漫ナル無擔保貸出シテ爲シ次テ河仙合資會社ノ爲ニ其ノ利益ヲ圖リ同會社ニ對シ壹萬六千餘圓ノ無擔保貸出ヲ爲シ因テ同銀行ヲシテ右不當貸付金ノ大部分ニ對シ回收不能ニ因ル多額ノ損害ヲ蒙ラシメト判示セルモ記録ヲ查閱スルニ判示貸金ニ對シ相被告河村千萬吉カ任意ノ辨濟ヲ爲サザリシコトハ明白ナルモ債權者タル神田銀行ニ於テ未タ債權ノ執行手續ヲ了セサルコト亦明白ナレハ未タ果シテ右貸出ノ結果現實ニ幾何ノ損害ヲ同銀行ニ生シタルヤハ分明ナラヌ況ンヤ相被告河村千萬吉ハ數萬ノ有體財產ヲ所有シ現ニ原審公判中之ヲ九萬圓ノ價格アル株券ト共ニ同銀行ニ提供シ同銀行ヲシテ略ホ満足ヲ得セシメタル事實ハ同人辯護人カ原審ニ提供シテ記録ニ添付セラレアル同銀行ノ上申書ニ依リテ明カナルニ於テオヤ然ラハ即チ原審判決カ早計ニモ右貸付金ノ大部分ニ對シ回收不能ニ因ル損害ヲ同銀行ニ蒙ラシメタリト認定セルハ重大ナル事實ノ誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト謂ハサル可カラスト言フニ在レトモ○苟モ他人ノ爲ニ其ノ事務ヲ處理スル者其ノ任務ニ背キ第三者ノ利益ヲ圖リ本人ニ損害ヲ加フヘキコトヲ認識シナカラ其ノ任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ其ノ認識ニ係ル損害ヲ本人ニ生セシメタル以上ハ任務違背ノ行爲終了ト同時ニ其ノ損害額ニ付背任罪ヲ構成スルコト勿論ニシテ其ノ後ニ於テ第三者カ其ノ幾部ノ損害ヲ填補シ若クハ本人タル被害者カ未タ債權ノ執行手續ヲ了セサル事實アリトスルモ右背任罪ノ成否ニ影響ヲ及ホスモノニ非サルノミナラス現實ノ損害額不明ナリト謂フコトヲ得ス而シテ原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ被告忠次ハ神田銀行京都支店長トシテ本店ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ無擔保貸付又ハ貸越契約ニ因ル貸越限度額以上ノ無擔保貸付ヲ爲スコト能ハサルノ内規アルニ拘ラス同銀行ニ損害ヲ與フルモノナルコトヲ認識シ且相被告人千萬吉ニ充分ナル辨濟資力ナキコトヲ知悉シナカラ右内規ニ背

キ千萬吉ノ利益ヲ圖ルカ爲メ同人ニ對シ約三十萬圓ノ放漫ナル無擔保貸出ヲ爲シ次テ河仙合資會社ノ爲ニ其ノ利益ヲ圖リ同會社ニ對シ金一萬六千餘圓ノ無擔保貸出ヲ爲シ因テ同銀行ヲシテ右不當貸付金ノ大部分ニ對シ回收不能ニ因ル多額ノ損害ヲ蒙ラシメタルモノト判示シアリテ右被告忠次ノ所爲カ背任罪ヲ構成スルヤ論ヲ俟タサルノミナラス其ノ損害額モ亦明カナリト謂ハサルヘカラス然リ而シテ右認定事實ハ其ノ舉示スル各證據ヲ綜合シ優ニ之ヲ認メ得ヘク論旨ハ畢竟原審ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨判斷ヲ非難シ延テ事實ノ認定ヲ攻撃スルニ歸ス記録ヲ查スルモ原審判決ノ認定事實ニ其ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ル顯著ナル事由ナク論旨理由ナシ同第二點原判示約三十萬圓ノ無擔保貸付ハ一時ニ爲サレタルモノニ非スシテ被告池川忠次カ相被告河村千萬吉ノ懇請ヲ受ケ少額宛知ラス識ラスノ間數十回又ハ數百回ニ互リ大部分手形ノ支拂ニ依リテ爲シタルモノナルコト記録上明白ニシテ而モ最初ノ四五萬圓ニ付テハ被告池川ニ於テ素ヨリ銀行ニ損害ヲ加フルノ認識ナカリシコトヲ主張シタル所ナレハ果シテ背任罪成立スルモノトセハ必スヤ其ノ連續犯ヲ爲スモノナリヤ將又併合罪ヲ成スモノナルヤノ事實ヲ認定スルハ勿論ナルニ原判決ハ其ノ點ニ付何等判示スル所ナク宛カモ被告池川カ一時ニ右巨額ノ無擔保貸出ヲ爲シタルモノノ如ク判定シタルハ刑ノ量定ニ影響ヲ及ホスヘキ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘク然ラサレハ妙クトモ理由不備ノ不法アリト謂ハサル可カラスト言フニ在レトモ○原判示事實ニ依レハ被告忠次カ一時ニ判示ノ如キ巨額ノ無擔保貸出ヲ爲シタルモノト判定シタルモノニ非スシテ大正十三年三月頃以後大正十五年三月中旬頃迄貸越ヲ繼續シ被告千萬吉ノ利益ヲ圖リ判示銀行京都支店長タル任務ニ背キ同人ニ對シ約三十萬圓ノ放漫ナル無擔保貸出ヲ爲シ因テ同銀行ヲシテ右不當貸付金ノ大部分ニ對シ回收不能ニ因ル多額ノ損害ヲ蒙ラシメタルモノト判定シアリテ其ノ背任罪成立ノ時期ハ大正十五年三月中旬頃ナリト謂ハサルヘカラス從テ原判決ハ背任ノ一罪ヲ判示シタルモノト認ムルヲ相當トスルヲ以テ特ニ連續犯若クハ併合罪ノ判定ヲ爲ササルモ所論ノ如ク理由不備ノ不法アルモノニ非ス然リ而シテ右原判示事實ハ其ノ舉示スル各證據ニ依リ優ニ之ヲ認メ得ヘク記録ヲ精査スルモ原判決ノ此ノ點ニ關スル認定ニハ其ノ誤認ナルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナク論旨理由ナシ

被告千萬吉辯護人秋山高三郎高橋禎一上告趣意書第一點原審第一回公判調書ハ法律上無効ニシテ之ヲ

基本トシテ爲シタル原審判決ハ失當ナリト思料ス原審第一回公判ハ判決ノ基本タル公判ニシテ該公判調書ヲ査閲スルニ其ノ冒頭ニ昭和三年三月十四日開廷セラレタル旨ノ記載(一一六二丁)アリテ其ノ末尾ニハ同月十六日該調書作成セラレタル旨ノ記載(一二〇四丁)アリ之ニ依テ見レハ該調書ハ公判期日外ノ日ニ於テ公判外ニ作成セラレタルモノナルコト明ナリ元來公判調書ハ公判開廷ノ都度公判廷ニ於テ作成スヘキモノニシテ刑事訴訟法第六十一條第二項ノ規定ニ依レハ供述者ノ請求アルトキハ公判調書ヲ讀聞カサシメサルヘカラス又増減變更ノ申立アルトキハ其ノ供述ヲ公判調書ニ記載セシメサルヘカラス之等ノ規定ハ公判ノ進行中既ニ調書ノ作成セラレツツアルコトヲ豫想セル規定ニシテ「讀聞カサシメ」トアルハ公判調書ヲ讀聞カサシメノ意味ニシテ「其ノ供述ヲ記載セシムヘシ」トアルハ公判調書ニ記載セシムヘシトノ意味ナルコト文理解釋上疑ヲ挾ムノ餘地存セス只同法第六十二條ニ五日ニ之ヲ整理スヘシトノ規定存スルヲ以テ調書作成後ニ於テ五日以内ニ訂正シ法規ニ從テ署名捺印ヲ爲シ之ヲ記録ニ添付スル等ノ手續ヲ爲スノ餘地存スヘシト雖モ這ハ公判調書ノ整理ニシテ公判調書ノ作成ニアラス同條カ特ニ整理ナル文字ヲ用ヒタル法意ニ照ラシテ決シテ其ノ作成ニ五日ノ餘裕ヲ與ヘタルモノニアラサルコト明ニシテ必スヤ公判開廷ノ日公判廷ニ於テ作成スヘキモノナリト思料ス從テ原審公判調書カ同月十六日ニ至リ公判外ニ於テ書記ノ記憶ニ基キ新ニ作成セラレタルモノナルコト明ナル以上ハ該調書ハ法律上其ノ效力ナク其ノ結果原審ニ於テハ事實ノ審理ヲ爲シタリヤ否ヤ不明ニ

【要旨】

歸スルノミナラス原審判決カ證據トシテ援用セル原審公廷ニ於ケル被告人ノ供述ノ如キハ其ノ有無不明ナルニ歸シ原審判決ハ到底破毀ヲ免レサルモノナリト思料スト言フニ在リ○按スルニ刑事訴訟法第六十二條ニ依レハ公判調書ハ公判開廷ノ日ヨリ五日以内ニ之ヲ整理スヘシトアルヲ以テ該期間内ニ之ヲ整理スレハ足り必スシモ公判開廷ノ都度公判廷ニ於テ作成スルコトヲ要セサルモノト解スルヲ相當トス(大正十三年(レ)第九一二號同年七月四日本院言渡判決參照)但シ同法第六十一條第二項ニハ供述者ノ請求アルトキハ裁判所書記ヲシテ其ノ供述ニ關スル部分ヲ讀聞カサシメ増減變更ノ申立アルトキハ其ノ供述ヲ記載セシムヘキ旨規定セリト雖モ這ハ前條第二項第七號中ノ供述ノミニ關スルモノニシテ公判調書ノ内容ノ一部ニ過キサレハ此ノ規定アルノ故ヲ以テ公判調書ハ全部即時ニ公判廷ニ於テ完成セラレサルヘカラストスル理由トナラス而シテ所論原審第一回公判調書ハ公判開廷ノ翌翌日即チ法廷ノ整理期間内ナル昭和三年三月十六日ニ於テ完成セラレタルモノナレハ該公判調書ハ無効ニ非ス從テ同公判廷ニ於ケル被告人ノ供述ヲ取テ證據ニ供スルヲ妨ケス論旨理由ナシ

同第三點原審判決ニハ理由ノ不備存ス原審判決ハ責任罪ヲ以テ被告ニ臨ムニ當リ被告人ハ銀行ノ貸付ニ關スル内規ニ違反シタル貸付ヲ爲シタリトセルモ責任罪ハ其ノ任務ニ背クニヨツテ直チニ成立スヘキニアラス原審判決ハ更ニ同銀行ニ損害ヲ加フルモノナルコトヲ認識シト判示セルモ責任罪ハ他ノ犯罪ト異リ其ノ犯意ハ認識ノミヲ以テ足ルモノニアラス犯意ノ内容ニ本人ニ損害ヲ加フル目的存スルヲ要スルコトハ明文上明ナルトコロニシテ認識論ヲ採リ不確定犯意ヲ以テ論シ得ヘキモノニアラス故意ノ態様ニ於テ特ニ目的ヲ必要トセルモノナルニ拘ハラズ單ニ認識シト判示セルニ過キササルハ全ク責任罪ノ認定ニ關シ理由ヲ具備セサルモノナリト思料ス尙又

原審判決ノ被告人ニ對スル事實ノ判示中ニハ損害ヲ加ヘタル旨ノ判示ナシ即チ「云々不當ナル貸出ヲ受ケ被告人忠次ノ背任行爲ニ加工シタルノモナリ」ト判示セルニ過キス如何ニ不當ナル貸出ヲ受クルト雖モ之カ爲損害ヲ蒙ラシムルコトナキニ於テハ背任罪成立セサルコト明ナルヲ以テ此ノ點ニ於テ原審判決ニハ更ニ理由ノ不備存スト思料スト云フニ在レトモ○原裁判所ハ其ノ判文ニ明示スルカ如ク被告人忠次ハ相被告人千萬吉又ハ同人ノ代表スル河仙合資會社ノ利益ヲ圖ルカ爲メニ判示放漫ナル貸出ヲ爲シ依テ神田銀行ヲシテ損害ヲ被ラシメタル事實ヲ認定シタルモノニシテ所論ノ如ク單ニ同銀行ニ損害ヲ與フルモノナルコトヲ認識シタルノ故ヲ以テ背任罪ニ問擬シタルモノニ非ス又被告人千萬吉ニ對スル原判示事實中ニハ直接ニ不當ナル貸出ヲ受ケ之カ爲損害ヲ蒙ラシメタル事實ノ明示ナシト雖之ヲ被告人忠次ニ對スル判示事實ト對照セハ被告千萬吉ニ對シテモ該事實ヲ判示シタル趣旨ナルコトヲ推知スルニ難カラサルヲ以テ被告千萬吉ノ判示所爲カ背任罪ヲ構成スルヤ論ヲ俟タス從テ原判決ニハ所論ノ如キ理由不備存スルモノニ非ス論旨理由ナシ

被告千萬吉辯護人五端榮治郎上告趣意書第二點原判決ハ「被告人忠次ハ……次イテ同年五月頃ヨリ翌六月頃迄ノ間數回ニ互リ被告人千萬吉ノ形式上無限責任社員ト爲リ居リタル河仙合資會社ノ爲メニ其ノ利益ヲ圖リ前同業同被告人等ト共謀ノ上同會社ニ對シ行金合計壹萬六千餘圓ノ無擔保貸出ヲ爲シ因テ同銀行ヲシテ不當貸付金ノ大部分ニ對シ回收不能ニ因ル多額ノ損害ヲ蒙ラシメ被告千萬吉ハ株式會社神田銀行ト判示貸越契約ヲ締結シタル以來被告人忠次カ前記ノ如ク其ノ任務ニ背キテ自己又ハ前示河仙合資會社ノ爲メニ夫々放漫ナル貸出ヲ爲スモノナルコトヲ認識シナカラ同被告人等ト共謀ノ上前示ノ如ク不當ナル貸出ヲ受ケ以テ被告人忠次ノ背任行爲ニ加工シタルモノナリ」ト認定シ之ヲ背任罪ニ問擬シタル然レトモ同罪ハ他人ノ爲メニ其ノ事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リタルモノニアラス又ハ本人ニ損害ヲ加フルノ目的ナク專ラ本人ノ利益ヲ爲ナルニ於テハ其ノ結果ノ如何ヲ問ハズ背任罪ノ構成要件ヲ缺如シ同罪ヲ構成スヘキモノニアラサルナリ然レニ本件記録ニ就キ之ヲ觀ルニ被告人等カ河仙合資會社ヲ設立シタルハ被告人忠次ニ於テ被告人千萬吉ニ貸出シタル三十萬圓餘ハ回收不能ニ歸シタル爲斯クテハ判示銀行ニ損害ヲ加フルヲ慮リ之カ回收策トシテ判示會社ヲ設立シ同會社ニ資金ヲ貸付ケ其ノ得タル利益ヲ以テ被告人千萬吉ニ貸付ケタル貸金ヲ回收セントノ目的ナリシコトハ

被告忠次千萬吉及各關係人ノ一致供述スル所ニシテ且第二十二號證河仙合資會社定款ノ明示スル所ナリ即チ被告等ハ判示合資會社又ハ被告千萬吉ノ利益ヲ圖リタルモノニアラスシテ專ラ本人タル判示銀行ノ爲メニ損害ヲ補填セントノ目的ニ出テタルモノナルヲ以テ犯意ヲ缺如シ背任罪ヲ構成スルニ至ラサルモノトス仍テ原判決ニ於テハ此ノ部分ニ對シ無罪ヲ言渡スヘキヲ相當トスルモノナルニ此ノ點ヲ看過シ該行爲ヲ背任罪ニ問擬シタルハ重大ナル事實ノ誤認アルモノニシテ破毀セラルヘキモノト信スト言フニ在リ○按スルニ背任罪ハ他人ノ爲メニ其ノ事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フルノ目的ヲ以テ其ノ任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加フルニ因リテ成立スルモノナルヲ以テ縱令他人ノ爲メニ其ノ事務ヲ處理スル者カ其ノ任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ損害ヲ加ヘタル場合ト雖自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リタルニアラス又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的アリタルニモアラス專ラ本人ノ利益ヲ圖ル目的ニ出テタル場合ニ於テハ背任罪ヲ構成セサルヤ所論ノ如シト雖原判示事實ニ依レハ被告千萬吉ハ被告忠次カ判示銀行ニ損害ヲ加フルモノナルコトヲ認識シ乍ラ河仙合資會社ノ利益ヲ圖ルカ爲判示ノ如ク放漫ナル貸出ヲ爲スモノナルコトヲ了知シ之ニ加工シタルモノナリト言フニ在ルヲ以テ被告千萬吉ノ所爲ハ背任罪ヲ構成スルヤ論ヲ俟タス然リ而シテ右判示事實ハ其ノ舉示アル各證據ヲ綜合シ優ニ認メ得ヘク所論ハ畢竟原審ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨判斷ヲ非難シ延テ事實ノ認定ヲ攻撃スルニ隨着スルモノニシテ記錄ヲ精査スルモ原判決ノ認定事實ニハ其ノ誤認ナルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナク論旨理由ナシ

同第四點以上第三點ニ記述セシ如ク原院判決ハ其ノ理由ノ第一段ニ於テ被告人忠次カ被告人河村千萬吉ニ金三十三萬餘圓ヲ及河仙合資會社ニ金壹萬六千餘圓ヲ貸シタリト認定シ其ノ第二段ニ於テ被告人千萬吉カ被告人忠次等ト共謀ノ上被告人千萬吉ノミカ不當ナル貸出ヲ受ケ以テ忠次ノ背任行爲ニ加工シタルモノナリト認定シタルハ前後矛盾ノ嫌アルノミナラス其ノ第二段ノ被告人千萬吉ノミカ貸出ヲ受ケタリト爲シタルハ唯々金三十三萬餘圓ニ付テハ證據ヲ認メ得ルモ其ノ餘ハ何等ノ證據無キモノナリトハ一切ノ調查證據ニ何等ノ壹萬六千餘圓ノ貸出ヲ受ケタルハ認メ得キモ此ノ一萬六千餘圓ヲ被告人千萬吉カ借入レタルモノナリトハ一切ノ調查證據ニ何等ノ根據無キ所ナリ即チ證據ニ依ラスシテ犯罪ヲ認メタル違法アリト言フニ在レトモ○原判決事實理由中「被告人千萬吉カ形式上無限責任社員ト爲リ居タル河仙合資會社ノ爲メニ其ノ利益ヲ圖リ」云々トアルハ形式上河仙合資會社ノ名義ヲ以テ其ノ實被告人千萬吉ノ利益ヲ圖リタル趣旨ナルコトハ前論旨ニ對シ說明シタル如クニシテ原判決ハ毫毛前後矛盾スル所ナク而シテ敘上ノ事實ハ原判決中此ノ

點ニ關スル證據ニ依リ認メ得ヘキヲ以テ原判決ハ證據ニ依ラスシテ犯罪ヲ認メタル違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ
 同第六點原判決ハ被告人千萬吉ノ當公廷ニ於ケル……尙河仙合資會社ノ資産融通ノ爲ニ相被告人忠次ヨリ判示ノ如ク行金壹萬六千餘
 圓ノ無擔保貸出ヲ受ケタルコトモ相違ナク同會社ハ自分外一名カ無限責任社員島田庄吉外一名カ有限責任社員ト爲リ居リタルモ誰モ
 出資スルモノナク豫メ神田銀行京都支店ヨリ資金ヲ融通シ貫フコトニ話合ヲ爲シテ設立チ爲シタルモノナル旨ノ供述ト「說明シ之ヲ
 斷罪ノ資料ニ供シタリ然ルニ原院公判調書中被告人千萬吉供述ノ部ヲ閱スルニ「問其ノ會社ノ目的ハ如何答先程ノ三十三萬餘圓ノ損
 害ヲ銀行ニ蒙ラセテ居リマスノテ其ノ損害ヲ補填スル目的テ右會社ヲ設立シタノテアリマス問右會社ノ設立ノ相談ヲ爲シタル當時其
 ノ資金ハ右京都支店ヨリ融通シテ貫フ事ト爲シタルヤ答其ノ會社ノ無限責任社員ハ私外一名テ有限責任社員ハ島田庄吉ト外一名テア
 リマシタカ誰モ金ヲ出スモノカアリマセヌノテ御訊ネノ様ニ銀行カラ出シテ貫フ事ニ豫メ話カアリ其ノ通り出シテ貫ヒマシタノテア
 リマス」(一一九五丁)ト供述シテ判示會社ノ資金ハ判示銀行ヨリ出シ貫ヒタルモ判示會社ヲ設立シテ被告人千萬吉カ判示
 銀行ヨリ借出シタル判示銀行ノ損害ヲ補填センカ爲メナリシ故ナリト言フニ歸シ原判決摘示ト其ノ意味ヲ異ニス然ラハ原判決ハ此ノ
 點ニ於テ被告供述ノ趣旨ヲ分割變更シテ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アルモノト信スト言フニ在レトモ○原判決ニ採用シタル被告千萬
 吉ノ原審公判廷ニ於ケル供述ノ部分ハ獨立シテ一定ノ意義ヲ有シ之ヲ他ノ部分ト分割シテ採用スルモ供述ノ趣旨ヲ變更シタルモノト
 謂フコトヲ得ス故ニ原判決ノ探證ニハ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ

同第七點原判決ハ「被告人池川忠次ニ對スル豫審第二回訊問調書中自分ハ相被告人千萬吉ヨリ限度以上ノ借越ニ付何等ノ擔保ヲ提供
 セシメス無擔保ニテ貸越ヲ繼續シタル爲多額ノ貸越金額ト爲リタルカ右千萬吉又ハ庄吉ノ依頼ニ依リ千萬吉ノ便宜ヲ圖リタル旨ナ
 ル旨ノ供述記載」ト説示シ之ヲ本件斷罪ノ資料ニ供シタリ然ルニ同豫審調書ヲ閱スルニ「私トシテハ限度以上ノ貸越ヲ爲スニ至ツタ
 當初ニ於テハ一日二日ノ事ト思フテ貸出シタノテアリマス夫レカ次第ニ額カ増シ不渡ヲ喰ハシテ取引ヲ解除スレハ回收スル事ハ到底
 出来ヌカラ先方ノ依頼ニ應ジ貸越ヲ爲シテ回收シヨウト思ヒ段々ト貸越ヲ行ツタモノテアリマス(五一三丁)ト供述記載アリテ其ノ趣
 旨タルヤ萬一限度超過ノ爲不渡ト爲スニ於テハ夫レ迄貸付タル貸金ノ回收不能ニ陥ル故銀行ノ爲夫レ迄ノ貸金ヲ回收センカ爲貸越ヲ
 繼續シタルモノナリト言フニ在リテ結局判示銀行ノ利益ノ爲貸越ヲ繼續シタリト言フニ歸シ原判決摘示ト全然其ノ趣旨ヲニス然ラ

ハ原判決ハ右調書記載ノ趣旨ヲ變更シテ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アルモノト言フニ在レトモ○被告忠次ニ對スル豫審第二回訊問調
 書中第六及第八問答ニハ原判決カ證據ニ採用シタルト全然同趣旨ノ供述記載アリテ論旨所掲ノ供述ハ原判決ノ採用セザリシ所ナレハ
 原判決ハ右調書記載ノ趣旨ヲ變更シテ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ

同第八點原判決ハ被告千萬吉ヲ背任罪ニ問擬シタリ然ルニ原院公判調書ヲ閱スルニ被告人千萬吉ノ辯護人ハ被告千萬吉ハ池川支店長
 ノ職務權限ヲ知ル管ナク又銀行ノ内規ヲ知ル理由ナク從テ被告忠次ノ行爲ハ其ノ任務ニ背クモノナルコトノ情ヲ知ラサルモノナルヲ
 以テ背任罪ヲ構成スヘキモノニアラスト主張シタル旨記載アリ而シテ此ノ主張タルヤ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂犯罪ノ成
 立ヲ阻却スヘキ原由タル事實上ノ主張ニ屬スルモノナルヲ以テ原判決ニ於テハ右法條ノ規定ニ遵ヒ辯護人ヨリ此ノ主張アリタルコト
 ナ判文ニ揭示シ此ノ主張ニ對シ相當ノ判斷ヲ示ササルヘカラサル筋合ナリトス然ルニ此ノ主張ニ對シ何等ノ判斷ヲ示ササル原判決ハ
 判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタルモノニシテ刑事訴訟法第四百十條第二十號ニ依リ破毀ヲ免レサルモノト信スト言ヒ「同第九點第一
 回公判調書中裁判長ト被告人忠次ノ問答中「問右三十三萬八千二百四十九錢ヲ被告人ヨリ相被告人河村ニ對シ不當ニ貸越シ夫レ方回收
 不能トナリ同人ニ對スル貸出ヲ停止シタル結果相被告人河村カ資金缺乏シ其ノ營業ヲ繼續スルコト困難トナリ從テ銀行ニ對スル損害
 ナ補填スルコト出来サル状態トナリタル爲其ノ損害補填ノ方法トシテ被告人等ト相談ノ上相被告人河村ノ營業ヲ會社組織トシ大正十
 五年五月中ニ資本金五萬圓ノ河仙合資會社ヲ設立シタリトコトナルカ如何答御訊ネノ通りノ會社ヲ設立スル相談ヲ河村カラ受ケマ
 シタ右據ニシテ同人ノ營業ヲ繼續シテ其ノ利益ヲ右銀行ニ對スル損害ヲ補填スルコトニシタノテアリマス」(一一八〇丁)及ヒ同公判
 調書中裁判長ト被告人千萬吉ノ問答中「問其ノ後モ被告人ハ右京都支店ト取引ヲ繼續シ居タルカ結局右三十三萬餘圓ノ貸越シトナリ
 貸出停止セラレタル結果被告人ハ資金缺乏シ營業ヲ繼續スルコト困難トナリタルニ依リ被告人ハ相被告人池川會谷忍吉原審相被告人
 島田庄吉等ト相談ノ上被告人ノ營業ヲ會社組織ニ改メ右京都支店ヨリ資金ノ融通ヲ受ケ被告人ノ營業ヲ繼續スルコトトナシ大正十五
 年五月中資本金五萬圓ノ河仙合資會社ヲ設立シタリトコトナルカ如何答御訊ネノ通りテアリマス問其ノ會社ノ目的ハ如何答先程ノ
 三十三萬餘圓ノ損害ヲ銀行ニ蒙ラセテ居リマスノテ其ノ損害ヲ補填スル目的テ右會社ヲ設立シタノテアリマス(一一九五丁)及ヒ同調
 書末段ニ「裁判長ハ被告人兩人ニ對シ一、豫審判事ノ被告人兩人ニ對スル各訊問調書一同原審相被告人島田庄吉並ニ各證人ニ對スル各

訊問調書一各始末書一原書公判調書ヲ讀ミ聞ケ押收品ハ全部之ヲ示シ各證據ノ取調ヘテ終ル毎ニ意見辯解ノ有無ヲ問ヒ且ツ利益ノ證據アラハ提出シ得ル旨告ケタルニ各被告人ハ自己ノ供述ニ反スル點ハ否認シタリ(一九九丁)故ニ第二十二號河仙合資會社定款ヲ照合セハ原院ニ於テ被告人カ河仙合資會社ハ株式會社神田銀行ノ損害填補ノ目的ヲ以テ設立セラレタルモノニシテ即チ同銀行ノ利益ノ爲ニ設立セラレタルモノニシテ從テ同會社ノ經營ハ同銀行ノ利益ヲ目的トスルモノナリ故ニ同會社ニ資金ヲ貸出同會社ヲ經營セシメ以テ其ノ目的タル同銀行ノ利益ヲ計ルハ一ニ同銀行ノ利益ヲ目的トスル旨ノ事實上ノ主張ヲ爲シ居レリ即チ此ノ事實上ノ主張ハ將ニ背任罪ノ成立要素タル目的の犯意ヲ阻却スル原由タルヘキ事實上ノ主張タリ然ルニ原審ハ此ノ點ニ關シ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ違反シテ之ニ對スル判斷ヲ示サス即チ同法第四百十條第二十號ニ該當スル違法ノ判決ナリト言フニ在レトモ○原審ニ於ケル所論被告千萬吉及同被告辯護人ノ各主張ハ本件背任ニ付テノ單純ナル事實上ノ否認ニ外ナラサレハ之ヲ日シテ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由タル事實上ノ主張ト謂フコトヲ得ス從テ原判決カ該主張ヲ判文ニ掲出シ之ニ對シ相當ノ判斷ヲ爲ササリシトスルモ所論ノ如キ違法アルコトヲ論旨理由ナシ

同第十點原院判決ハ其ノ理由由中第一段ニ於テ被告人忠次ハ……被告人千萬吉及同人使用人タル原審相被告人島田庄吉ト共謀ノ上其ノ頃ヨリ大正十五年五月中旬頃迄ノ間同銀行其ノ他ニ於テ濫リニ被告人千萬吉ノ利益ヲ圖リ右支店長タル任務ニ背キテ同人ニ對シ約三十三萬圓ノ放漫ナル無擔保貸出ヲ爲シ次テ云々ト記述セリ即チ犯行ノ場所トシテ神田銀行其ノ他ニ於テ貸出ヲ爲シタル旨認定シタリ然レトモ記錄並ニ一切ノ證據ヲ閱スルモ神田銀行以外ニ於テ貸出シノ爲サレタル何等ノ證據無シ之レ即チ犯行ノ場所ニ付明確ヲ缺クハ勿論證據ナクシテ事實ヲ認定シタルモノニシテ且ツ理由不備ノ判決ナリト言フニ在レトモ○犯罪ノ場所ハ罪ト爲ルヘキ事實ニ非サレハ之ニ對スル證據ノ說示ヲ爲スコトヲ要セサルノミナラス既ニ犯罪ノ場所トシテ神田銀行ニ於テ爲サレタルコトニ付證據ヲ舉ケテ認定シアル以上ハ偶々其ノ場所ニ付證據ノ說示ヲ缺クモ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ

同第十一點第一審公判調書ハ原院公判ニ於テ顯出サレタリシノミナラス原院判決中ニ引用サレ證據トシテ斷罪ノ資料ニ供サレアリ而シテ本件記錄ヲ閱スルニ第一審ハ同一ノ判事ヲ以テ終始セリ而シテ第一審第三回公判調書ニハ辯護人鞍岡香ナルモ、出頭立會シ辯護ヲ爲シタル旨記載アリ然レトモ同人ハ出頭立會セシ事無ク辯論ハ之レヲ爲シタル事實更ニ無シ而シテ辯護届モ亦記錄ニ無之ハ明瞭ナ

ル次第ニシテ反ツテ記錄ニ辯護届ノ發見シ得ル辯護人山内輝雄ハ第一審第二審ノ各審ヲ通シテ各公判ニ出頭立會シ第一審第三回公判ニ於テモ辯論ヲ爲シタルニ拘ラス之カ記載無シ然レトモ公判事項ハ同調書ニ依リテノミ確認シ得ルモノトスルモ記錄ニ辯護届出ヲ認ム可カラサル辯護人ニ出頭立會セシメ辯論セシメタルカ如キ裁判所ノ公判調書ハ被告人カ刑事訴訟上ニ於ケル重要ナル辯護權ノ行使ヲ輕キニ取扱ヒタル嫌疑充分ニシテ一切ノ調書ニ付此ノ疑ヒヲ容ルルノ餘地アルモノタリ斯ノ如キ裁判所ノ公判調書ヲ以テ斷罪ノ資ニ供シタル原院判決ハ重大ナル事實ノ誤認アル事ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト言フヘシト言フニ在リテ○所論第一審第三回公判調書ニハ記錄中辯護人ノ選任届ナキ辯護人鞍岡香ナルモノ出頭立會シ辯論ヲ爲シタル旨ノ記載アリト雖該記載アル爲該公判調書ハ所論ノ如ク辯護權ノ行使ヲ輕キニ取扱ヒタル嫌疑十分ニシテ一切ノ調書ニ付疑ヲ容ルルノ餘地アリト斷シ難キノミナラス該公判調書ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供シタリトテ原判決ノ事實認定ニ付重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト認メ難シ論旨ハ畢竟原審ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨判斷ヲ非難シ延テ事實認定ヲ攻撃スルニ歸ス記錄ヲ査スルニ原判決ニハ事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナキヲ以テ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上説明スルカ如ク本件上告ハ其ノ理由ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事柴碩文關與

○私文書偽造行使信用毀損被告事件 (昭和三年(れ)第七八八號 同年七月十四日第三刑事部判決 破毀自判)

【上告人】 被告人 原田 鶴一 辯護人 龜 山 要

【第一審】 船木區裁判所 【第二審】 山口地方裁判所

○判示事項

私文書偽造罪ノ成立ト作成名義人ノ特定

○判決要旨

他人ノ名義ヲ詐ハリテ私文書ヲ作成スル場合ニ於テ其ノ他人ノ何人ナルヤヲ判別シ能ハサルトキハ私文書偽造罪ハ成立セサルモノトス

【参照】 刑法第五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ
前二項ノ外權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

同法第二百三十三條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審判決ハ左記ノ事實ヲ認定シ刑法第五十九條第一項第六十一條第一項第二百三十三條第五十四條第一項ヲ適用シ被告人ヲ懲役四月ニ處シタルモ上告審ハ下記判決ノ理由ニ依リ原判決ヲ破毀シ刑法第二百三十三條ヲ適用シ被告人ヲ罰金八拾圓ニ處ス但シ罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スル旨ノ宣告ヲ爲シタリ

被告ハ豫テ省線厚狹驛ニ於テ鐵道省ノ指定ニヨリ厚狹驛構内ノ列車乗客ニ對スル飲食物ノ立賣營業ヲ爲ス鬼笑亭清水廣助ト民事繁爭訴訟事件アリ互ニ反目シテ感情ヲ阻隔シ不和ノ間柄ト爲リ居タル結果其ノ筋ニ對シ廣助ノ營業ニ關スル批難ヲ申告シテ其ノ信用並營業ヲ妨害セムコトヲ企テ行使ノ目的ヲ以テ昭和二年十二月中旬頃福岡縣鞍手郡木屋瀨町ニ於テ郵便葉書(證第九號)ニ擅ニ小屋瀨町會議員代表ト冒署シ門司鐵道局下關運輸事務所旅客課長ニ宛テ厚狹驛構内ノ立賣辨當ハ不潔ニシテ非衛生的ナル蠅卵附着セル旨虛偽ノ事實ヲ記載シタル木屋瀨町會議員代表名義事實證明ニ關スル文書一通ヲ偽造シ其ノ頃之ヲ投函シテ前記旅客課長ニ到達セシメテ之ヲ行使シ以テ偽計ヲ用キ當局其ノ他ヲシテ右廣助ノ營業ニ疑念ヲ抱カシメ同人ノ信用ヲ毀損シ且其ノ業務ヲ妨害シタルモノナリ

私文書偽造罪ノ成立ト作成名義人ノ特定

辯護人亀山要上告趣意書第一點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルノミナラス事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキ法令ノ違反アルモノト信ス原判決事實理由ニ依レハ被告ハ昭和二年十二月中旬頃福岡縣鞍手郡木屋瀨町ニ於テ郵便端書(證第九號)ニ擅ニ小屋瀨町會議員代表ト冒書シ門司鐵道局下關運輸事務所旅客課長ニ宛テ厚狹驛構内ノ立賣辨當ハ不潔ニシテ非衛生的ナル蠅卵付着セル旨虚偽ノ事實ヲ記載シタル木屋瀨町會議員代表名義事實證明ニ關スル文書一通ヲ偽造シ其ノ頃之ヲ投函シテ前記旅客課長ニ到達セシメテ之ヲ行使シ以テ偽計ヲ用ヒ當局其ノ他ヲシテ右廣助ノ營業ニ疑念ヲ抱カシメ同人ノ信用ヲ毀損シ且其ノ業務ヲ妨害シタルモノナル旨判示セリ然レトモ一、證第九號ノ端書ニハ小屋瀨町會議員代表ト記載シアリテ木屋瀨町會議員代表ト冒書シアラサルニ依リ證第九號ノ端書ヲ以テ直ニ木屋瀨町會議員ヲ指示シタルモノト解釋スルハ失當ニシテ而シテ福岡縣鞍手郡ニ小屋瀨町ナルモノナキヲ以テ結局本件端書ハ絕對無効ナリト謂ハサルヲ得ス左レハ此ノ無効ノ端書ニ依リ木屋瀨町會議員代表名義事實證明ニ關スル文書ヲ偽造シタリトノ認定ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト信ス二、假リニ小屋瀨町ハ當然木屋瀨町ト解釋シ得ルモノトスルモ單ニ「木屋瀨町會議員代表」トノ記載ハ木屋瀨町會議員ヲ代表スヘキ文書トシテハ絕對ニ無効ナリ何トナレハ代表的文書タル以上ハ代表者ト被代表者トカ文書自體ニ於テ

明認シ得ヘキモノナラサル可ラス然ルニ本文書ノ如ク被代表者ノミヲ記載シ代表者ノ氏名ヲ記載セサルニ於テハ之ヲ以テ代表的文書ト認ムルヲ得ス抑事實證明ニ關スル文書ハ文書自體ニ證明者ノ資格ヲ具備セサル可ラス然ルニ當該文書ニハ此ノ證明者ノ資格ノ記載ナク唯單ニ小屋瀨町會議員代表者ト記載アルノミニシテ何人カ其ノ代表者ナルヤ絕對ニ記載ナシ左レハ該文書ハ事實ノ證明文書トシテハ洵ニ無意味ニシテ法律上絕對ニ無効ナリト謂ハサルヲ得ス加之被代表者方面ニ付テ之ヲ觀ルモ只漠然ト小屋瀨町會議員代表トノミノ記載ニテハ該町會議員ヲ代表シタリト認ム可ラサルノミナラス該町會議員全部ノ代表ナルヤ將タ其ノ一部ノ代表ナルヤ要スルニ不明ニシテ是レ亦無効ナリト謂ハサルヲ得ス左レハ原判決カ木屋瀨町會議員代表ト冒書シタリトノ認定ハ全然失常ナルノミナラス此ノ無効ノ文書ヲ以テ木屋瀨町會議員代表名義事實證明ニ關スル文書ヲ偽造行使シ因テ以テ廣助ノ信用ヲ毀損シ且業務ヲ妨害シタリトノ事實認定ハ結局法律ヲ誤解セル結果不當ニ事實ヲ確定シタル違法アリト信スト言フニ在リ○按スルニ文書ノ偽造トハ特定セル他人ノ作成名義ヲ詐ハリテ文書ヲ成作スルヲ謂フモノニシテ其ノ文書カ何人ノ作成名義ニ係ルヤハ該文書自體ニ於テ之ヲ判別シ得ルヲ要スルモノナリトス而シテ他人ノ代表資格ヲ詐ハリテ作成シタル文書ト雖其ノ被代表者タル他人カ何人ナルヤ文書自體ニ於テ判別シ能ハサルトキハ文書偽造罪ヲ構成セサルモノトス原判決ノ確定シタル事實ニ從ヘハ被告人ハ清水廣助ト不和ノ間柄ト爲リ居タル結果其ノ筋ニ對シ廣助ノ營業ニ關スル批難ヲ申告シテ其ノ信用

竝ニ營業ヲ妨害セムコトヲ企テ行使ノ目的ヲ以テ昭和二年十二月中旬頃福岡縣鞍手郡木屋瀨町ニ於テ郵便葉書(證第九號)ニ擅ニ小屋瀨町會議員代表ト冒書シ門司鐵道局下關運輸事務所旅客課長ニ宛テ厚狹驛構内ノ立賣辨當ハ不潔ニシテ非衛生的ナル蠅卵付着セル旨虚偽ノ事實ヲ記載シタル文書一通ヲ偽造シ其ノ頃之ヲ投函シテ前記旅客課長ニ到達セシメテ之ヲ行使シ以テ偽計ヲ用ヒ當局其ノ他ヲシテ右廣助ノ營業ニ疑念ヲ抱カシメ同人ノ信用ヲ毀損シ且ツ其ノ業務ヲ妨害シタルモノナリト言フニ在リテ其ノ郵便葉書ニ表示セラレタル該文書ノ作成名義ヲ觀ルニ小屋瀨町會議員代表トアルノミニシテ其ノ小屋瀨トハ木屋瀨ト解シ得ラレサルニ非サルモ被代表名義ト認ムヘキ木屋瀨町會議員トアルハ其ノ町會議員全部ノ意ナリヤ一部ノ意ナルヤ單ニ集合名詞ノ記載アルニ過キスシテ其ノ名義人ヲ特定スルニ由ナキヲ以テ斯カル文書ヲ作成シタリトスルモ文書ヲ偽造シタルモノト謂フヲ得サルモノトス果シテ然ラハ原判決ハ被告人カ前叙ノ如キ葉書ヲ作成シタル行爲ヲ以テ木屋瀨町會議員代表名義ノ事實證明ニ關スル文書ヲ偽造シタルモノト解シ刑法第五十九條第一項第六十一條第一項ニ問擬シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ論旨ハ理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レス

同第二點原判決ハ第一點同様重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト信ス開ハ信用毀損竝ニ業務妨害ノ手段トシテ使用シタル文書ハ木屋瀨町會議員代表文書トシテ無効ナルコトハ既ニ第一點所論ノ通りナリ果シテ然ラハ殘ル問題ハ厚狹驛構内ノ立賣辨當ハ不潔ニシテ非衛生的ナル蠅卵付着セル旨無名ノ投書ヲ爲シタルニ過キサレハ假リニ原判決判示ノ如ク信用毀損竝ニ業務妨害ノ事實アリトスルモ右手段ハ未タ以テ偽計ト稱スル程度ニ達セサルモノト認ムルヲ相當ト信ス況ヤ掛官ハ三ヶ年來日

毎ニ該辨當ヲ検査シ何等ノ異狀ナキコトヲ認メテ之ヲ承認シ居リタル事實ハ清水廣助ニ對スル竹内檢事ノ聽取書竝ニ厚狹驛長ヨリ竹内檢事宛回答書ニ徴シテ明ナレハ掛官ノ信用ヲ害セサルコト亦明ニシテ從ツテ廣助力信用ヲ毀損シ實害ヲ被リタリトノ陳述ハ容易ニ措信スルニ足ラス左レハ是レ亦重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノトスト言フニ在レトモ○荷毛原判示ノ如キ不實ノ事項ヲ記載シタル郵便葉書ヲ作成シ之ヲ當局者タル旅客課長ニ郵送シタル事實アル以上其ノ行爲ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ且其ノ業務ヲ妨害シタルモノニシテ刑法第二百三十三條ニ該當スヘキハ勿論ナリ而テ記錄ニ徵スルモ其ノ誤認ナルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノニ非ス論旨理由ナシ

同第三點原判決ハ理由不備且虚偽ノ證據ニ依リテ事實ヲ判斷シタル違法アリ原判決ハ證據理由ノ部ニ於テ「判示行爲ヲ爲スニ際シ被告カ廣助ノ信用ヲ毀損シ其ノ業務ヲ妨害スルノ意思アリタルコトハ被告ニ對スル檢事ノ聽取書中其ノ旨ノ陳述記載アルニヨリテ之ヲ認メ得ヘク云々」ト判示セリ然レトモ被告ニ右犯意アリタルコトハ被告ニ對スル檢事ノ聽取書中ニ其ノ旨ノ陳述記載アルニヨリテ之ヲ認メ得ヘクト説示シ該聽取書ノ内容ヲ具體的ニ明示セサルハ即チ理由不備ノ違法アルノミナラス該聽取書ヲ閱スレハ(一)被告ハ判示事實ノ如キ記載ヲ爲シタルモ營業ヲ差止メラルル様ナコトハ豫想セズ洵ニ淺慮ナ考ヘヨリ出テタルモノテアリマス(二)昔テ厚狹驛テ辨當ヲ買入レタトキ辨當ハ不潔テハナカツタカ冷飯ヲ蒸返シタモノテアリマシタ(三)清水廣助ヲ迷惑サセテ遺口ト考ヘ付多少針小棒大ニ右ノ如キ端書ヲ町會議員等ノ承諾ヲ得ス旅客課長宛ニ發信シタカ其ノ當時ハ信用ヲ毀損シ營業ヲ妨害スルノ意思ナク又實害ヲ發生スルモノトハ氣付カナカツタカ今ヨリ考フレハ惡ルカツタト後悔シテ居リマス(四)清水カ營業ヲ取消サル様ナ事ハアルマイト思ヒマシタカ商賣ニハ邪覺ニハナツテ少シハ困ルタロウ位ノ淺慮ニ考ヘテ居リマシタ(五)他人ノ商賣ノ邪魔ニナル様ナ事ヲ致シタ點ハ恐縮テアリマス(六)別ニ利益ヲ證據ハアリマセヌ申譯ハアリマセヌトノ趣旨ノ記載アリテ端書發送當時ニ犯意即チ廣助ノ信用ヲ毀損シ營業ヲ妨害セントスルノ意思ハ毫モ無カリシ旨供述セリ左レハ該聽取書ニ信用毀損竝ニ營業妨害ノ旨ヲ被告カ陳述セルモノト見做シ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ結局理由不備且虚偽ノ證據ニ依リテ事實ヲ斷定シタル違法アリト言フニ在レトモ○原判決ノ證據說明ヲ閱スルニ判示行爲ヲ爲スニ際シ被告人ニ廣助ノ信用ヲ毀損シ其ノ業務ヲ妨害スルノ意思アリタルコトハ被告人ニ對スル檢事ノ聽取書中其ノ旨ノ陳述記載アルニヨリテ之ヲ認メ得ヘシトアルカ故ニ聽取書ノ内容ヲ具體的ニ羅列セザリシニ過キスシテ判文

私文書偽造罪ノ成立ト作成名義人ノ特定

上其ノ供述ノ内容ハ之ヲ推知シ得ヘク毫モ理由ニ不備アルモノト言フヲ得ス又該聽取書ヲ査スルニ前顯被告人ノ犯意ヲ認メ得ヘキ供述記載存スルカ故ニ是亦所論ノ如ク虛無ノ證據ニ依リテ事實ヲ斷定シタル不法アルモノニアラス論旨理由ナシ

同第四點原判決ハ理由不備ノ判決ナリ原判決ハ被告カ厚狹驛構内ノ立賣辨當ハ不潔ニシテ非衛生的ナル蠅卵付着セル旨虛偽ノ事實ヲ記載シタル……文書一通ヲ偽造行使シ廣助ノ信用ヲ毀損シ且其ノ業務ヲ妨害シタルモノナリト判示セリ然レトモ當時被告ノ發送シタル文書ハ單ニ厚狹驛構内ノ立賣辨當トノ記載シ勿論清水廣助名義ハ記載セザリシニ依リ該文書ヲ以テ本件犯罪ノ手段ト爲シ因テ廣助ノ信用ヲ毀損シ並ニ業務ヲ妨害シタリト認定スルニハ其ノ當時厚狹驛構内ノ立賣營業者ハ單ニ廣助一人ノミナルコトヲ判示セサルヘカラス然ルニ原判決ノ事實認定並ニ證據說明ヲ閱スルニ此ノ事實ヲ斷スヘキモノ無シ左レハ原判決ハ理由不備ノ判決ナリト言フニ在レトモ○原判決ノ事實理由ニハ被告人ハ豫テ省線厚狹驛構ニ於テ鐵道省ノ指定ニヨリ厚狹驛構内ノ列車乗客ニ對スル飲食物ノ立賣營業ヲ爲ス鬼笑亭清水廣助ト民事繫争訴訟事件アリ互ニ反目シテ感情ヲ阻隔シ不和ノ間柄ト爲リ居リタル結果其ノ筋ニ對シ廣助ノ營業ニ關スル批難ヲ申告シテ其信用並ニ營業ヲ妨害セムコトヲ企テト判示シテ同驛ノ立賣營業者ノ信用並ニ營業ヲ妨害スヘキ虛偽ノ事項ヲ記載シタル郵便業書ヲ作成シ之ヲ其ノ營業ヲ監督スヘキ當局者ニ郵送シ因テ廣助ノ信用並ニ營業ヲ妨害シタル旨判示シアルカ故ニ信用及業務妨害罪ノ判示トシテ理由ニ不備アルモノト言フヘカラス若シ夫レ厚狹驛構内ノ立賣營業者カ廣助一人ノミニ止マラス他ニ數名ノ同業者アリシ事實アリトスルモ被告人ノ罪實ニ消長アルヘキノ理ナシ論旨ハ理由ナシ

同第五點原判決事實理由ノ後段ニ付テモ亦重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト信ス原判決ハ第三點所論ノ如ク被告ニハ該文書發送當時廣助ノ信用ヲ毀損シ業務ヲ妨害スルノ意思ナク即チ率直ニ評セハ被告ハ單ニ一時的淺慮ナル考ヘヲ以テ廣助ノ業務ニ對シ警察犯處罰令第二條第五號ノ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタルニ過キスコレ被告カ終始一貫辯明セル所ニシテ且原審公判調書ニ依レハ被告ハ昭和二年十二月十四日伊佐町ニ赴ク際同日朝厚狹驛ニテ汽車辨當ヲ買ヒタル所冷飯ヲ蒸返シタルモノナリシノミナラス該辨當ハ不潔ナリトノ風評モ聞キタルヨリ自分ハ新聞記者タル爲下ノ關運輸事務所旅客係ヨリ注意シ賈ハント欲シ申告シタル次第ニテ清水ノ信用ヲ毀損シ營業ヲ妨害セント爲シタルニアラサル旨辯解セルニ見ルモ原判決認定ノ如キ惡意ナキコトヲ違觀スヘシ故ニ本件ハ警察犯處罰令ニ該當スヘキ犯罪ナリト信スト言フニ在レトモ○警察犯處罰令第二條第五號ハ刑法所定ノ犯罪ニ該當

セサル場合ヲ律スヘキモノニシテ原判決認定ノ如ク偽造行使ヒテ廣助ノ信用及業務ヲ妨害シタル場合ニ於テハ刑法第二百三十三條ニ問擬スヘキヤ辯ヲ疎タス記録ヲ査スルニ原判決ニハ所論ノ如キ事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト認メ難ク論旨理由ナシ

叙上說明ノ如クニシテ本件上告ハ前示第一點ニ於テ理由アルヲ以テ論旨第六點ニ對スル說明ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ依リ原判決ヲ破毀シ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス原判決ノ確定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告人ノ行爲ハ刑法第二百三十三條ニ該當ヘルヲ以テ同法條ヲ適用シ罰金刑ヲ選擇シ其ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金八十圓ニ處シ罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ依リ罰金二圓ノ一日ニ換算シタル期間之ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス公訴事實中郵便業書一通ヲ偽造行使シタリトノ點ハ法律上罪ト爲ラサルモ該行爲ハ前記信用及業務妨害罪ノ手段ニシテ率直ニ罪ヲ構成スヘキモノトシテ起訴サレタルモノト解スルノ以テ主文ニ於テ特ニ無罪ノ言渡ヲ爲サス

仍テ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彦三郎關與

○業務上過失致死被告事件(昭和三年(れ)第八四三號 棄却)

(同年七月十四日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 淺 間 實 辯護人 棗 田 愛

【第一審】 堺區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

鐵道驛手ノ安全信號ヲ爲シタル場合ノ注意義務

○判決要旨

鐵道驛手ハ驛構内渡線路ニ於テ通過列車ニ對シ安全信號ヲ爲シタル場合ニ於テ尙該線路ヲ通過セントスル者アルヤヲ注意警戒シ之カ危険ヲ防止スル義務アルモノトス

【參照】 刑法第二百一十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ

三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

地方鐵道掛員職制(大正八年閣令第十三號)第一條 地方鐵道ノ係員職制ハ本令ノ定ムル所ニ依ルヘシ但シ鐵道ノ狀況ニ依リ本令ニ依リ難キ場合ニ於テハ別ニ職制ヲ定メ監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ

同第二條 地方鐵道ニ左ノ運輸掛員ヲ置ク

運輸長
驛長

- 助役
- 出札掛
- 改札掛
- 貨物掛
- 小荷物掛
- 採車掛
- 轉轍手
- 驛夫
- 車掌
- 機關庫主任
- 機關手
- 機關助手
- 檢車手
- 機關夫
- 炭水夫

前項ノ掛員ハ職務ノ狀況ニ依リ二以上ノ係員ノ職務ヲ兼メルコトヲ得

○事實

第二審判決ハ左記事實ヲ認定シ刑法第二百一十一條ヲ適用シ被告人ヲ罰金八十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ四十日間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ宣告ヲ爲シタリ

鐵道驛手ノ安全信號ヲ爲シタル場合ノ注意義務

被告人ハ南海鐵道株式會社ニ雇ハレ七道驛手トシテ同驛ノ改札集札及通過列車ニ對シ信號ヲ爲スヘキ業務ニ従事スルモノナルトコロ昭和二年八月十七日午後九時五十一分同驛通過ノ和歌山驛發難波驛行第三十號急行列車ニ對シ同驛構内渡線路ニ於テ信號ヲ爲スニ該リ右渡線路ハ線路ヲ橫斷スル者ノ通路ナルヲ以テ宜シク乗客ノ行動ニ注意シ危險ナシト認メタル場合ニ於テ安全信號ヲ爲シ其ノ信號中ト雖モ絶エス其ノ動靜ニ留意シ若シ列車ノ進路ヲ橫斷セントスルカ如キモノアル場合ニ於テハ直ニ之ヲ阻止シ危險ヲ未然ニ防クカ爲該渡線路ノ北端ニ位シ之ヲ渡ル乗客ヲシテ總テ自己ノ前面ヲ通過セシムル等適宜ノ方法ヲ講スヘキ業務上ノ注意義務アルニ拘ラス之ヲ懈リ不注意ニモ該渡線路ノ略中央ニ位シ乗客ノ動靜ニ留意セス漫然前記通過列車ニ對シ安全信號ヲ爲シ居リタル爲大阪市住吉區濱口町二十八番地村澤清直妻マス(當時四十年)カ下リブラツトホームヨリ右渡線路内ニ入りタルニ氣付カス同女カ自己ノ背後ヲ通過シテ右列車ノ進路ヲ橫斷セントスルニ及ヒテ始メテ之ヲ制止セントシタルモ時既ニ及ハス同女ヲシテ該列車ニ衝突セシメ因テ同人ヲシテ右下腿部ノ切斷頭部ノ裂創其ノ他數ヶ所ニ重傷ヲ蒙ラシメ即死スルニ至ラシメタルモノナリ

○ 理 由

被告人辯護人棗田愛上告趣意書第一點原判決ハ罪ト爲ラサル事實ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲シタル失當アルモノト思考ス即チ原判決ニ依レハ「被告人ハ南海鐵道株式會社ニ雇ハレ七道驛手トシテ同驛ノ改札集

札及通過列車ニ對シ信號ヲ爲スヘキ業務ニ従事スルモノナルトコロ昭和二年八月十七日午後九時五十一分同驛通過ノ和歌山驛發難波驛行第三十號急行列車ニ對シ同驛構内渡線路ニ於テ信號ヲ爲スニ該リ右渡線路ハ線路ヲ橫斷スル者ノ通路ナルヲ以テ宜シク乗客ノ行動ニ注意シ危險ナシト認メタル場合ニ於テ安全信號ヲ爲シ其ノ信號中ト雖モ絶エス其ノ動靜ニ留意シ若シ列車ノ進路ヲ橫斷セントスルカ如キモノアル場合ニ於テハ直ニ之ヲ阻止シ危險ヲ未然ニ防クカ爲該渡線路ノ北端ニ位シ之ヲ渡ル乗客ヲシテ總テ自己ノ前面ヲ通過セシムル等適宜ノ方法ヲ講スヘキ業務上ノ注意義務アルニ拘ラス之ヲ懈リ不注意ニモ渡線路ノ略中央ニ位シ乗客ノ動靜ニ留意セス漫然前記通過列車ニ對シ安全信號ヲ爲シ居リタル爲メ云々」トアリテ其ノ前段ニ於テハ被告人ノ業務ハ改札集札及通過列車ニ對シ信號ヲ爲スヘキモノト認定シ乍ラ後段ニ於テハ危險ノ防止ヲモ被告人ノ業務ナルカ如ク認定シタルハ失當ナリ抑々被告人ノ従事スル業務ハ驛手ニシテ改札集札及通過列車ニ對スル信號構内ノ掃除ヲナスニアリ通過列車ニ對スル信號ハ列車ニ對シテ構内ノ安全ヲ信號スルモノニシテ渡線路ノ通行人ニ對スル信號ニ非ラス即チ構内ニ於テ危險ノ(乗客ノミニヨル危險ニアラスシテ列車ノ通過ノ障害ヲ及ホス凡テノ危險)ナキ場合ハ列車ニ對シテ安全信號ヲナシ構内ニ危險存スル場合ハ列車ニ對シテ危險信號ヲナスモノナリ而シテ列車ニ對シテ安全信號ヲナシ居ル間ニモ構内ニ危險ノ發生スル場合ハ直チニ安全信號ヲ危險信號ニ變更スレハ被告人トシテノ任務ハ足ルナリ然レトモ若シ此ノ場合ニ於テ電車ノ運轉手カ急停車

ノ處置ヲ採ルモ尙ホ危險發生ノ虞アル場合ハ危險信號ヲナスモ其ノ甲斐ナキヲ以テ被告人ハ其ノ業務上ノ義務ニハ非ラサルモ出來得ル限り危險ヲ防止スル様努ムルモノナルニ過キス若シ危險ヲ防止スルコトヲ以テ被告人ノ業務上ノ義務ナリトセハ被告人ハ列車ニ對シテ構内全部ノ安危ノ信號ヲ爲スモノニシテ單ニ渡線路上ノミノ安危ヲ信號スルモノニ非サルカ故ニ廣キ構内ニ起ル危險ハ凡テ之ヲ防止セサルヘカラサルコトトナリ斯ノ如キハ實ニ人力ノ到底及ハサル所ニシテ全ク被告人ニ不能ヲ強ヒルモノト云フニ在レトモ○鐵道係員ハ列車ノ運轉ニ關シテ危險ノ發生ヲ防止スルニ付法律上慣習上若ハ條理上必要ナル注意義務ヲ負フモノナルコトハ本院判例ノ示ス所(大正十三年第二二七〇號同十四年二月二十五日判決參照)ニシテ驛手カ信號ヲ爲スニ當リテモ單ニ危險ノ有無ヲ報スルヲ以テ足ルモノニ非ス之ト同時ニ危險ノ發生ヲ防止スルニ付必要ナル注意ヲ爲スヘキ業務上ノ義務アルモノトス原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ被告ハ南海鐵道株式會社七道驛驛手トシテ改札集札及通過列車ニ對スル信號ヲ爲スヘキ業務ニ從事中昭和二年八月十七日午後九時五十一分同驛通過ノ和歌山驛發難波驛行第三十號急行列車ニ對シ同驛構内渡線路ニ於テ信號ヲ爲スニ當リ右渡線路ハ線路ヲ橫斷スル者ノ通路ナルヲ以テ乗客ノ行動ニ注意シ危險ナシト認メタル場合ニ於テ安全信號ヲ爲シ其ノ信號中ト雖絶ニス其ノ動靜ニ留意シ若シ列車ノ進路ヲ橫斷セントスルカ如キ者アル場合ニ於テハ直チニ之ヲ阻止シ危險ヲ未然

【要旨】

ニ防クカ爲該渡線路ノ北端ニ位シ之ヲ渡ル乗客ヲシテ總テ自己ノ前面ヲ通過セシムル等適宜ノ方法ヲ講スヘキ業務上ノ注意義務アルニ拘ハラズ之ヲ懈リ不注意ニモ該渡線路ノ略中央ニ位シ乗客ノ動靜ニ留意セス漫然前記通過列車ニ對シ安全信號ヲ爲シ居リタル爲村澤清直妻マス(當四十年)カ下リブラツトホームヨリ右渡線路内ニ入りタルニ氣カ付カス同女カ自己ノ背後ヲ通過シテ右列車ノ進路ヲ橫斷セントスルニ及ンテ始メテ之ヲ制止セントシタルモ時既ニ及ハス同女ヲシテ該列車ニ衝突セシメ因テ同人ヲシテ數ヶ所ノ創傷ヲ被リ即死スルニ至ラシメタリト云フニ在リテ被告人カ判示渡線路ニ於テ驛手トシテ危險防止ノ爲乗客ノ動靜ニ注意警戒シ若シ同所ヲ通過セントスル者アルトキハ之ヲ阻止シ得ヘキ方法ヲ講スヘキ業務上ノ義務ヲ懈リ因テ人ヲ死ニ致シタルコト明白ナレハ其ノ行爲カ業務上過失致死罪ニ該當スルコト論ヲ俟タサル所ニシテ論旨ニ謂フカ如ク被告人ニ於テ廣ク七道驛構内ニ於ケル一切ノ危險ヲ防止スルノ義務アリト爲スニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事宮城長五郎關與

○強盜強姦致死被告事件 (昭和三年(れ)第九一二號 棄却)

(同年七月十六日第五刑事部判決)

【被告人】 被告人 鹽田 秀雄 辯護人 足立進三郎

【第一審】 神戸地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院 宮野廣正

○判示事項

被告人ノ利益ナル事實ヲ陳述スル機會ト訊問調書ノ記載

○判決要旨

被告人ニ對シ其ノ利益ト爲ルヘキ事實ヲ陳述スル機會ヲ與ヘタル
ヤ否ハ之ヲ訊問調書ニ掲載シテ明確ニスルコトヲ要セス

【參照】 刑事訴訟法第三百三十五條 被告人ニ對シテハ丁寧探切ヲ旨トシ其ノ利益ト爲
ルヘキ事實ヲ陳述スル機會ヲ與フヘシ

同法第三百三十九條 本章ノ規定ハ被疑者ヲ訊問スル場合ニ之ヲ準用ス但シ司法警
察官訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ司法警察吏ヲシテ立會ハシムヘシ

同法第五十六條 被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ
作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問及供述
 - 二 證人、鑑定人通事又ハ翻譯人宣誓ヲ爲ササルトキハ其ノ事由
調書ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閱覽
セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ
- 供述者増減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ
調書ニハ供述者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ事實ヲ認定シ被告人ヲ死刑ニ處シ押收ニ係ル證第十二號ノ赤皮トランク一個ヲ
被害者花川弘ニ還付ストノ判決ヲ爲シタリ

被告人秀雄ハ大正十三年明治大學商科專門部ヲ卒業シ昭和二年六月大阪市北區西堀川町神田印刷所ニ
雇ハレ月給五十五圓ヲ給與セラレ居リタルモ藝妓戎子君子ヲ落籍シテ大阪府中河内郡高井田村森河内
ニ同棲シ而モ他ニ何等收入ノ途ナカリシヨリ其ノ生活困難ニシテ所持品ノ入質或ハ友人ヨリノ金借等
ニ依リ一時ヲ彌縫シ來リシ處同年十月初旬豫テ右在學中同郷同窓ノ緣故ヲ以テ顔見知ト爲リ居リタル
花川弘カ大阪市西區江戶堀四丁目南洲商會ニ勤務シ居ルコトヲ聞知シ爾來數回同人ヲ該商會ニ訪問シ
借財スルニ至リタルカ其ノ間同人カ最近結婚ヲ爲シ當時兵庫縣武庫郡今津町大字山中ニ居住シ居レル
コトヲ聞知シタルヨリ同年十一月一日正午前頃右弘ノ妻ヲ一瞥セントノ好奇心ヨリ前記同人方ニ立越

被告人ノ利益ナル事實ヲ陳述スル機會ト訊問調書ノ記載

シ其ノ内縁ノ妻木原千里(當時二十二歳)ニ對シ弘ノ友人塩田ナリト名乗リテ同家奥六疊ノ座敷ニ通サレ折柄同家台所ニ於テ髪洗中ナリシ千里ト暫時雜談ヲ交ヘ居リシ中同女獨リ留守居セルヲ確メ茲ニ同女ヲ姦淫シ且財物ヲ強奪セムコトヲ欲シ而モ既ニ自己ノ氏名ヲ告知セル以上寧ロ同女ヲ殺害シテ犯跡ヲ晦マスニ如カスト決意シ同女カ六疊座敷ノ隣室四疊半ノ間ニ於テ着衣ヲ着替ヘ居リシ際突如立上リテ其ノ背後ヨリ片手ヲ廻シテ鼻口ヲ壓シ他ノ手ヲ以テ咽喉ヲ扼壓シ因テ同女ヲ其ノ場ニ昏倒セシメ更ニ附近ニ落チ居リシ腰紐ヲ以テ其ノ頸部ヲ絞搾シタル上同女ニ乘リ掛リテ強ヒテ淫事ヲ遂ケ次テ該腰紐ヲ繼キ足シテ一端ヲ壁間ノ衣類掛ケニ結付ケ之ヲ緊張シテ頸部絞搾ノ度ヲ高メ因テ同女ヲシテ姦淫後間モナク頸部扼壓及絞搾ニ基ク急性窒息死ニ至ラシメ且箆筒押入等ヲ搜索シテ花川弘及木原千里ノ所有ニ屬スル現金二十餘圓背廣洋服二點男女衣類七點仙台平袴三越商品十圓券女持金側腕卷時計金女持羽織紐各一點及金指環二點帶締金具三點竝ニ赤皮トランク一點(證第十二號)價格金合計五百四十九圓相當ノモノヲ奪取シタルモノナリ

○理由

辯護人足立進三郎宮野廣正上告趣意書第三點被告人訊問ニ對スル刑事訴訟法第三百三十五條ノ被告人ニ對シテハ其ノ利益トナルヘキ事實ヲ陳述スル機會ヲ與フヘキコトノ規定ハ同法第三百三十九條ニ依リテ之レヲ被疑者ノ訊問ニモ準用セラルルトコロナルヲ以テ檢事ノ被疑者ニ對スル訊問ニ際シテモ或機會

ニ於テハ被疑者ニ對シ其ノ利益ト爲ルヘキ事實ニ付テノ陳述アリヤ否ヲ確カメ少クトモ其ノ機會ヲ附與シタル點ニ付テハ之ヲ調書上窺フニ足ル記載無カルヘカラス若シ夫レ然リトセハ被告人ニ對スル檢事川又甚一郎ノ作成セル被疑者訊問調書ヲ觀ルニ其ノ訊問ノ趣旨ヲ通觀シテ被疑者ノ利益事實ノ陳述ヲ爲スヘキニ付其ノ機會ヲ與ヘタルノ事跡ヲ窺知スルヲ得ス將シテ然ラハ原判決ハ此ノ違法ノ訊問調書ヲ罪證ニ供シタル違法アリト謂ハサルヲ得ス從テ原判決ハ破毀ヲ免カレサルモノト思料スト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第三百三十五條ノ規定ハ被疑者ノ訊問ニモ準用セラルコトハ復論ヲ俟タスト雖該規定ハ被告人訊問ニ付テノ注意ヲ示シタルニ止マリ而シテ所謂其ノ利益ト爲ルヘキ事實ヲ陳述スル機會ヲ與フヘシトアルハ訊問調書ニ掲載シテ明確ニスルコトヲ命シタルモノニアラサルヲ以テ苟モ反對ヲ認ムヘキ事跡存セサル以上ハ前叙同一ノ機會ヲ與ヘタルモノト推定スヘク其ノ記載ナキ一事ヲ以テ訊問調書ヲ違法ナリト謂フヲ得サルノミナラス所論訊問調書ヲ閱スルニ同上陳述ノ機會ヲ與ヘサリシ事迹ヲ認メサルカ故ニ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事宮崎晋一關與

○明治三十一年內務省令第六號違反被告事件(昭和三年九月五〇號
同年七月十九日第五刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 西村秀雄 辯護人 角岡知真

【第一審】 京都區裁判所 【第二審】 京都地方裁判所

○判示事項

判決書ト署名捺印不能ノ附記事由

○判決要旨

判決書ニ裁判ヲ爲シタル判事ノ署名捺印スルコト能ハサルトキ附記スヘキ事由ニハ絶對的ニ之ヲ爲スコト能ハサル場合ノミニ非アシテ一時的ノ故障ニ因リ署名捺印スルコト能ハサル場合ヲモ包含スルモノトス

【參照】 刑事訴訟法第六十七條 裁判書ハ判事之ヲ作ルヘシ

同法第六十八條 裁判書ニハ裁判ヲ爲シタル判事署名捺印スヘシ裁判長署名捺印

スルコト能ハサルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印シ他ノ判事署名捺印スルコト能ハサルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

○事實

第二審判決ハ左記ノ事實ヲ認定シ明治三十一年七月內務省令第六號寺院及佛堂參拜觀覽料並寄附金募集ニ關スル取締方第四條第三條同第八條刑法施行法第十九條第二條第二十條ヲ適用シ被告人ヲ罰金十圓ニ處シタリ

被告人ハ僧侶ニシテ其ノ住居京都府綴喜郡八幡町大字八幡庄小字馬場二十八番地ノ善法律寺内ニ律宗派ノ宣布ヲ目的トスル團體トシテ設立セラレタル律宗八幡教會ノ管領ナルトコロ例年ノ如ク昭和二年九月十五日同寺ニ於テ右教會ノ事業ニシテ其ノ儀式ナル魚鳥放生供養會ヲ執行セントシ後段掲記ノ者等ヨリ右教會ノ爲ニ放生供養料名義ノ下ニ其ノ費用ニ當ツヘキ金員ノ寄附ヲ受ケンコトヲ企テ同年八月放生會ノ由來ヲ説明シ放生供養料ヲ一人ニ付普通二十五錢特別五十錢ト定メタル八幡魚鳥放生供養會ト題スル帳簿約三萬部ヲ印刷作成シ當該官廳ノ許可ヲ受ケスシテ同月二十日頃ヨリ同年九月一日頃迄ノ間ニ該帳簿ヲ大阪市北區天滿橋筋二丁目徳田政十郎外東京京都大阪兵庫岡山等各府縣ニ於ケル前示教會員律宗派ノ信者其ノ緣故者又ハ生物營業者等約三萬人ニ配付シ以テ同人等ニ對シ右供養料ノ出捐ヲ求ムルト共ニ他ノ希望者ニ對シテモ右出捐ヲ勸誘サレタキ旨依頼シテ同人等ヲシテ右勸誘ヲ爲サ

判決書ト署名捺印不能ノ附記事由

シメ因テ寄附金ノ募集ヲ爲シ其ノ頃同人等竝其勸誘ニ應シタル者等ヨリ右供養料合計約二千四百圓ヲ徵集シタルモノナリ

○理由

辯護人角岡知良上告趣意書第二點原判決ハ刑事訴訟法第六十八條及第四百十條第二十一號ニ違背セル不法アリ破毀ヲ免レスト信ス即チ原審判決書ニハ該裁判ヲナシタル判事署名捺印スヘキモノナルニ拘ハラス判事遠藤剛一ハ缺勤ノ爲署名捺印スルコト能ハサル旨ノ附記アリテ裁判長橋川喜三次ノ署名捺印アリ然レ共同法第六十八條ニ所謂「他ノ判事署名捺印スルコト能ハサルトキ」トアルハ死亡ノ如キ絶對的不能ノ場合ハ勿論轉任ノ如キ相對的不能ノ場合ヲモ包含スルコトハ明カナレトモ單純ノ缺勤又ハ一時的旅行ノ如ク容易ニ恢復シ得可キ故障ハ未タ以テ不能ナリト云フヲ得サル可シ果シテ然ラハ原判決書ハ署名不能ノ狀況ナキニ拘ハラス判事ノ一人ノ署名捺印ヲ缺如シタルモノナルヲ以テ右判決ハ同法第四百十條第二十一號ニヨリ破毀セラル可キモノナリト思料スト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第六十八條ニ「他ノ判事署名捺印スルコト能ハサルトキ」トアルハ判事カ絶對的ニ署名捺印ヲ爲スコト能ハサル場合ノミヲ指示シタルモノニ非ス一時的ノ故障ニ依リ判事カ署名捺印スルコト能ハサル場合ヲモ之ニ包含スルモノト解スルヲ相當トス蓋シ判決書ハ裁判ヲ爲シタル判事之ヲ作成スヘク其ノ作成ハ當該判事カ判決書ニ署名捺印ヲ爲スニ依リ完了スルモノナレハ一時的ノ故障ニテモ之ニ依リ判事カ

【要旨】

右ノ署名捺印ヲ爲スコト能ハサルトキハ爲ニ判決書ノ完成遲延スルコトアルヘキヲ以テ法律ハ斯ル事情ノ發生ヲ慮リ便宜前記ノ條規ニ依リ同判事ノ署名捺印ナキモ他ノ判事事由ヲ附記シ署名捺印スルヲ以テ足ルコトトナシタルモノナレハナリ原判決ハ其ノ末尾ニ判事遠藤剛一ハ缺勤ノ爲署名捺印スルコト能ハサル旨ヲ附記シ裁判長判事橋川喜三次之ニ署名捺印セルヲ以テ此點ニ於テ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事宮崎晋一關與

○公文書偽造行使公務所記號不正使用詐欺被告事件

(昭和三年(九)第七〇四號
同年六月二十六日第四刑事部判決) 破毀目判)

【上告人】

被告人

星

榮藏

辯護人

伊藤 繁猪 中猪 森猪
藤田 保三 喜保 洪一
股岡 正清 操

【第一審】 仙臺地方裁判所古川支部 【第二審】 宮城控訴院

○判示事項

物ノ形狀ノ判示方——大正十四年宮城縣令第三十一號穀物検査規則
第十八條ニ依リ票箋ニ貼付スヘキ等級證紙ト公務所ノ記號

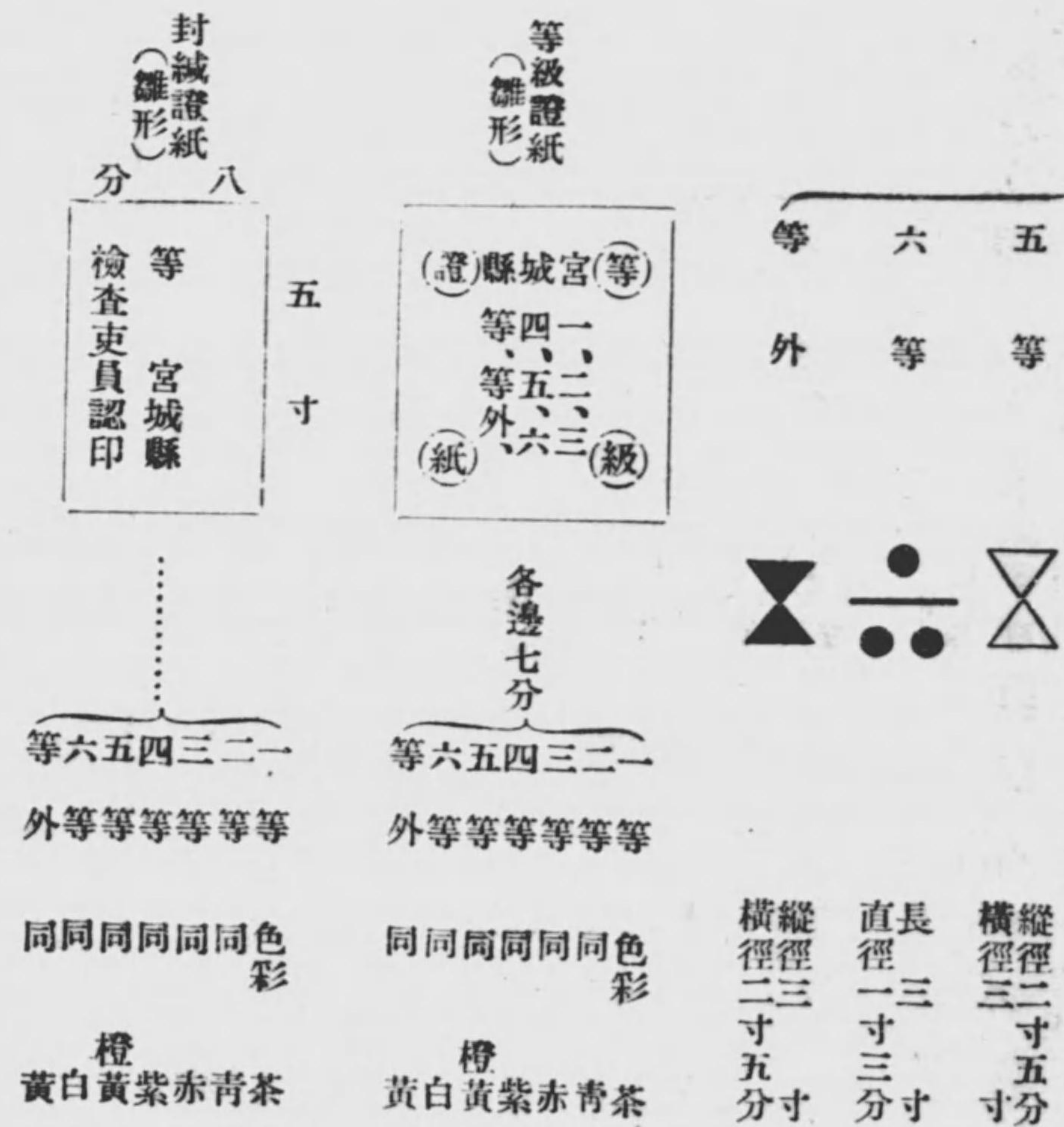
○判決要旨

一物ノ形體ヲ判示スルニハ必スシモ文字ヲ以テスルヲ要セス其ノ

物ノ形狀ノ判示方 大正十四年宮城縣令第三十一號穀物検査規則第十八條ニ依リ
票箋ニ貼付スヘキ等級證紙ト公務所ノ記號

第二審ハ左記ノ理由ニ依リ被告人ヲ懲役六月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
 被告人榮藏ハ其肩書住居ニ於テ米穀商ヲ營メル父星榮吉ノ從業者ニシテ主トシテ米穀ノ宮城縣外移出
 販賣ヲ取扱ヒ居リタルモノナルトコロ同縣外ニ移出スル米穀ハ縣令ノ定ムルトコロニ從ヒ検査ヲ受ク

○事實



五一六 (五)

ヘキモノナルヨリ榮吉方ニ於テモ縣外ノ取引先ニ送ルヘキ米穀ニ付テハ既ニ其ノ検査ヲ經タル買入米
 ノ外ハ同縣穀物検査所古川支部中新田派出所ノ検査ヲ受ケタル上鐵道省陸羽東線中新田驛前ノ丸通加
 藤運送店其ノ他ニ運搬シテ寄託シ置キ取引先ノ注文ニ應シ運送店ニ指圖シテ發送セシメ居リタルカ被
 告人ハ大正十五年三月頃ヨリ昭和二年一月マテノ間其弟ニシテ同シク榮吉方ノ從業者ナル原審相被告
 人星榮吾及平素同人方ニ雇ハレ米穀ノ運搬ニ從事シ居リタル同原審相被告人佐々木久一郎ト共謀ノ上
 公文書ヲ偽造行使シ又ハ公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シテ縣外移出検査米ノ等級ヲ恣ニ昇格シ或ハ不合
 格米(戻米又ハ撤回米ト稱シ規程ニ適合セサル爲検査中止トナリタルモノ)及未検査米ヲ合格米ナル
 カ如ク裝ヒ他ニ移出販賣シテ其ノ代金ノ差額ヲ騙取セムコトヲ企テ其ノ犯意ヲ繼續シテ數十回ニ互リ
 榮吉方ニ於テ前記検査所勤務農林手村井滿治等カ検査ヲ了シ五等移出米トシテ規程ニ從ヒ受檢者ノ住
 所氏名産米年度重容量及日附ヲ記入シタル上其ノ認印ヲ押捺シ且宮城縣等級證紙五等ト表ハセル證紙
 ヲ貼付シテ俵ニ結付タル票箋ヨリ右五等ノ證紙ヲ剝取り又ハ検査ノ際豫メ不合格米ノ俵ニ結付ケ検査
 ノ結果不合格米タルコトニ決シタル爲除去スヘキヲ取除カサル前記受檢者ノ住所氏名等ノ記入及検査
 員ノ認印ノミアリテ證紙ノ貼付ナキ票箋ヲ使用シ之ニ検査員ヨリ誤リテ餘分ニ交付セラレ若ハ縣内受
 渡米ノ生産検査ニ使用セシ宮城縣等級四等ト表シタル證紙即チ同縣ニ於テ米穀検査合格ノ證トシテ貼
 用スル收入印紙様ノ形式ニ作成セラレタル記號ヲ恣ニ貼付シ以テ検査員カ法定ノ手續ヲ履踐シテ検査

物ノ形状ノ列示方 大正十四年宮城縣令第三十一號穀物検査規則第十八條ニ依リ
 票箋ニ貼付スヘキ等級證紙ト公務所ノ記號

五一七

(六)

ニ四等移出米ト確定シタル旨ヲ表示シテ其ノ印章捺アル票箋即チ公文書ノ偽造ヲ完成シ之ヲ五等移出米不合格米及未検査米ノ俵ニ結付ケ尙其ノ俵ノ表面ニ検査ノ際検査員カ忘レ行キタル宮城縣等級四等證印ナル方三寸^{〇〇}形ノ記號ヲ不正ニ使用シテ之ヲ押捺シ又ハ此等ノ五等検査移出米不合格米及未検査米ニ右四等證印ノ記號ノミヲ恣ニ捺捺シテ恰モ検査ニ合格シタル四等移出米ノ如ク其ノ外形ヲ裝ヒ合計約八百三十餘俵ヲ正當ノ合格米ト共ニ前記加藤運送店其ノ他ノ運送店ニ運搬交付シテ前記各偽造公文書ヲ行使シ而シテ右運送店ニ指圖シテ之ヲ其ノ取引先ナル東京市神田區佐久間町古満金商事株式會社其ノ他ニ運送セシメ之ヲシテ外觀ノ等級ニ從ヒ五等検査移出米ヲ検査濟ノ四等移出米ナリト誤信シテ取引セシメ同會社其ノ他ヨリ合計約五百三十餘俵(四斗入)ニ付五等米ト四等米トノ差額一俵金四十八錢宛(一石金一圓二十錢ノ割)合計約金二百五十餘圓餘分ニ其ノ代金ヲ支拂ハシメテ之ヲ騙取シタルモノナリ

○ 理 由

辯護人猪股洪清中澤喜一森岡操猪股正清上告趣意書第二點原判決ハ理由不備ノ違法アリ即チ原判決ハ其ノ事實認定ニ於テ「宮城縣等級四等證印ナル方三寸^{〇〇}形ノ記號ヲ不正ニ使用シテ之ヲ押捺シ」タリト判示スルモ抑モ判決書ハ文字ヲ以テ思想ヲ表示スル文書タルコトヲ要シ記號ヲ以テ表示スル如キハ判決書タルノ體ヲ成ササルモノト謂ハサルヘカラス然ルニ原判決カ其ノ理由中事實認定ノ部ニ^{〇〇}ナ

【要旨第一】

ル文字ニ非サル記號ヲ使用シタルハ違法ニシテ結局斯ル記號ハ判決理由タル思想ヲ表ハスニ足ラサルモノト謂ハサルヘカラス然ルニ原判決書中此ノ^{〇〇}ナル記號ヲ除外センカ此ノ點ニ關スル思想ノ聯絡ヲ缺キ其ノ意味ヲ解スル能ハス然ラハ之レ理由不備ニシテ刑事訴訟法第四百十條第十九號ニ該當スルモノト謂ハサルヘカラスト云フニ在レトモ^〇判決書ニ物ノ形狀ヲ判示スルニハ必ス文辭ヲ以テセサルヘカラストノ法意存スルコトナキノミナラス其ノ形狀ノ如何ニ依リテハ到底文辭ニ依リ之ヲ表示シ能ハサル場合アルヘキカ故ニ物ノ形狀カ事實ノ認定上重要ナル事項タルニ於テハ如實ニ之ヲ判文中ニ現出スルヲ以テ寧ロ機宜ニ適スル措置ト云ハサルヘカラス然レハ原判決カ所論宮城縣令等級四等證印ノ形狀ヲ判文中ニ現出シ事實ヲ認定シタルハ不法ニアラス論旨理由ナシ

辯護人伊藤三秋上告趣意書第一點原判決ハ擬律錯誤ノ違法アリト信ス蓋シ原判決ハ其ノ擬律ノ部ニ於テ「判示所爲中宮城縣等級四等ノ證紙タル記號ヲ不正ニ使用シタル點ハ刑法第六十六條第二項第一項第五十五條ニ云々」ト爲シ其ノ後段ニ於テ「尙公務所ノ記號タル同縣四等證印ヲ恣ニ捺捺シタル點ハ同第六十六條第二項第一項第五十五條ニ該當スル所云々」ト爲シ以テ公務所ノ記號タル證紙及證印ノ不正使用ニ付證紙ト證印トヲ各別ニ觀察シ恰モ公務所ノ記號不正使用ノ所爲アルカ如ク擬律シタルハ事實ノ認定ニ添ハサルカ又ハ法規ノ解釋ヲ誤リタル違法アリト言ハサルヘカラス蓋シ(イ)原判決ノ事實摘示ニ依レハ被告人ハ合格検査米ニ相當官吏カ貼付スヘキ收入印紙様ノ形式ヨリ成ル證紙及

物ノ形狀ノ判示方 大正十四年宮城縣令第三十一號殺物検査規則第十八條ニ依リ
票箋ニ貼付スヘキ等級證紙ト公務所ノ記號

方三寸ノ^②形ノ記號ヲ不正ニ使用シ以テ正規ノ檢査ヲ了シタル移出米ノ如ク仕做シタリト云フニ在リテ敍上證紙及證印ノ不正使用ハ包括シタル一個ノ記號不正使用ノ犯罪ト認定シタルモノト云ハサルヘカラス然レハ則チ此ノ所爲ニ對シ刑法第六十六條第二項ヲ二重ニ擬律シタルハ認定セル事實ニ對シ法ヲ適用シタル違法アリト云フヘク(ロ)若シ右ノ事實ヲ以テ二個ノ不正使用アリトノ意ナランカ之レ包括一罪トシテ觀察スヘキモノヲ各別ノ犯罪ト解シタルモノニシテ之亦法規ノ誤解ト云ハサルヘカラスト云ヒ辯護人繁田保吉上告趣意書第三點原判決ノ法律適用ヲ見ルニ宮城縣等級四等ノ證紙タル記號ヲ不正ニ使用シタル點ヲ刑法第六十六條第二項第一項第五十五條ニ該當スルモノト爲シナカラ更ニ右記號ヲ貼付シテ公文書タル票箋ヲ偽造シタル點ハ同第五十五條第一項第五十五條ニ該當スルモノト爲セリ然レトモ右記號ヲ貼付スルコトカ票箋偽造ノ構成手段ト見ルナラハ偽造ヲ外ニシテ別ニ記號ノ不正使用ヲ問擬サルヘキ筈ナク唯其ノ行爲カ一面記號ノ不正使用ト爲リ他面偽造行爲ノ一部ヲ成ストスルニ在ラハ第一審判決ノ如ク同第五十四條第一項前段ヲ適用スルハ格別之ヲ二個ノ行爲トシテ不正使用ト偽造トヲ各別ニ處斷スルコトヲ許サス即チ原判決ハ擬律錯誤ノ違法アルモノト謂ハサルヘカラスト云フニ在リ○按スルニ大正十四年宮城縣令第三十一號穀物檢査規則第十六條ハ縣外ニ移出セントスル穀物ノ包裝ニハ第二號樣式ノ票箋ヲ附スヘキコトヲ命シ第二號樣式タル票箋ニハ受檢者ノ住所氏名穀物ノ產出年度正味重量皆掛重量及容量檢査ノ年月日ヲ記載シ檢査吏員捺印スヘキコトヲ定

【要旨第二】

メ又同規則第十八條ニハ檢査吏員檢査ヲ行ヒタルトキハ等級證紙ヲ票箋ニ貼付スヘキ旨ヲ規定シタリ而シテ等級證紙トシテ同規則ノ示ス雛形ニ依レハ四等證紙ハ各邊七分紫色ノ紙片ニ宮城縣等級證紙四等ト云ヘル文字ヲ現出セルモノニシテ其ノ用法ハ同規則ニ依レハ其ノ第十八條ニ從ヒ票箋ニ貼付スル以外穀物ノ包裝ニ貼付シテ其ノ品質等級ヲ表示スルモノニ非ルコト明白ナレハ證紙ハ之ヲ記號ト解スヘキニ非ス唯右證紙ハ之ヲ移出穀物トシテ其ノ檢査ニ合格シタル旨ヲ證明スル公文書即チ票箋ニ貼付スルトキハ其ノ穀物ノ品質四等ナルコトヲ表示シ恰モ四等ナル文字ヲ票箋ニ現出シタルト同一ノ效用ヲ爲シ公文書ノ一部ヲ成スモノト認ムヘキノミ然レハ原判決カ被告人等ニ於テ判示證紙ヲ票箋ニ貼付シタル行爲ヲ刑法第六十六條第二項第一項ニ問擬シタルハ其ノ擬律ニ不法アルモノニシテ論旨ハ各其ノ理由アリ原判決ハ刑事訴訟法第四百四十七條ニ依リ此ノ點ニ於テ之ヲ破毀シ爾餘ノ上告論旨ニ對シテハ説明ヲ須ヒス刑事訴訟法第四百四十八條ニ從ヒ當院ニ於テ更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス原判決ノ確定シタル事實ニ基キ法ノ適用ヲ按スルニ

被告人ノ判示行爲中證紙ヲ貼付シテ公文書タル票箋ヲ偽造シタル點ハ刑法第五十五條第一項第五十五條偽造ノ票箋ヲ行使シタル點ハ同法第五十八條第一項第五十五條第一項第五十五條宮城縣四等證印ヲ不正ニ使用シタル點ハ同法第六十六條第二項第一項第五十五條詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第五十五條ニ該當スルモ右公文書ノ偽造ト其ノ文書ノ行使ハ順次ニ詐欺ニ對シ又證印ノ不正

物ノ形狀ノ判示方 大正十四年宮城縣令第三十一號穀物檢査規則第十八條ニ依リ
票箋ニ貼付スヘキ等級證紙ト公務所ノ記號

使用モ詐欺トノ關係ニ於テ互ニ手段結果タルノ行爲トシテ牽聯スルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ重キ偽造公文書行使罪ニ付定メタル刑ニ從ヒ所犯憫諒スヘキモノアルカ故ニ同法第六十六條第六十八條第三項ニ依リ其ノ刑ヲ減輕シタル範圍内ニ於テ處斷シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ從ヒ被告人ヲシテ第一審ノ共同被告人ト共ニ連帶負擔セシトムキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
檢事柴碩文關與

○衆議院議員選舉罰則違反被告事件(昭和三年(九)第八七九號
同年七月十日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 齊藤國平 一名 辯護人 富田數雄

【第一審】 新潟區裁判所 【第二審】 新潟地方裁判所

○判示事項

演說ニ依ル選舉運動ト演說會開催ノ準備並開催費用ノ支拂

○判決要旨

衆議院議員選舉ニ際シ政見發表演說會開催ノ爲寺院借入ノ紹介ヲ爲シ或ハ會場ニ電燈ノ取付其ノ他ノ諸準備ヲ爲シ或ハ會場ノ借賃及電燈料ノ支拂ヲ爲スカ如キハ衆議院議員選舉法第九十六條ニ所謂演說ニ依ル選舉運動中ニ包含セララルモノトス

【參照】 衆議院議員選舉法第九十六條 議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ此ノ限ニ在ラス

同法第二百二十九條 第九十六條若ハ第九十八條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ理由ニ依リ被告人國平ヲ罰金六十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ一圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
第二、被告人齊藤國平ハ右衆議院議員選舉ニ際シ前記候補者須貝快天ノ法定選舉運動員ニ非サルニ拘ラス同候補ノ當選ヲ期スル目的ヲ以テ(一)昭和三年一月二十五日右衆議院議員選舉有權者ナル居町大字大安寺昆喜一郎方ヲ訪問シ同人ニ對シ農民黨ヨリ須貝快天カ立候補シタル場合ハ大字飯柳ノ方ハ自分カ事務員トナリ大字大安寺ノ方ハ君カ事務員トナツテ我黨ノ候補者ヲシテ多ク投票ヲ得シムル様

演說ニ依ル選舉運動ト演說會開催ノ準備並開催費用ノ支拂

盡力セラレ度キ旨申込ミ(二)同年同月同日右喜一郎ト共ニ同選舉有權者ナル同郡同町同大字淺見國三郎方ヲ訪問シ同人ニ對シ新津町ニ日本農民黨候補者ノ事務所ヲ置ク事ニナリ自分カ事務員トナリタル際ハ名刺ヲ三日カ四日毎ニ配リ運動セラレタキ旨申込ミ(三)同年二月二日前示候補者ノ選舉事務員高山末松ノ依頼ニ依リ同人カ前示候補者ノ爲政見發表演說會會場ヲ借入ルルニ際シ同人ヲ中蒲原郡新津町大字飯柳所在淨明寺ニ案内シ同寺住職ヲ紹介シ更ニ翌三日同寺ニ於テ右演說會開催ニ付會場ノ電燈ノ取付其ノ他一切ノ諸準備ヲ爲シ且ツ同候補者選舉事務員高山市太郎ヨリ該演說會ノ費用トシテ金拾五圓ヲ受取リ淨明寺竝ニ電氣會社ニ會場ノ借貸及ヒ電燈料ノ支拂ヲ爲シ以テ違法ノ選舉運動ヲ爲シタルモノナリ

○理由

各被告辯護人富田數雄上告趣意書第二點上告人齊藤國平ニ對スル原審判決ハ上告人齊藤國平カ法定ノ選舉運動員ニアラスシテ選舉運動ヲ爲シタルモノトシテ衆議院議員選舉法第九十六條及第二百二十九條ヲ適用シタルモ其ノ判示事實ニ付觀察スルニ(イ)上告人齊藤國平カ(一)昭和三年一月二十五日昆喜一郎ヲ訪問シ農民黨ヨリ須具快天カ立候補シタル場合ハ大字飯柳ノ方ハ自分カ事務員トナリ大字大安寺ノ方ハ君カ事務員トナツテ我黨ノ候補者ヲシテ多く投票ヲ得セシムル様盡力セラレタキ旨ヲ申込タル點及(二)同日右喜一郎ト共ニ淺見國三郎方ヲ訪問シ同人ニ對シ新津町ニ日本農民黨候補者ノ事

務所ヲ置クコトトナリ自分カ事務員トナリタル際ハ右名刺ヲ三日カ四日毎ニ配リ運動セラレタキ旨ヲ申込タル點ニ付テハ前者「立候補シタル場合ハ云々ト言ヒ後者ハ事務員トナリタル際ハ云々ト云ヘル點ニ付本趣意書第一ノ(ロ)ト同一ノ理由ニヨリ理由不備ノ判決ナリ(ロ)ノ(一)二月三日上告人カ前示候補者ノ選舉事務員高山末松ノ依頼ニヨリ同人カ前示候補者ノ爲政見發表演說會會場ヲ借り入ルルニ際シ同人ヲ中蒲原郡新津町大字飯柳ニ案内シ同寺住職ニ紹介シ(ロ)ノ(二)更ニ翌三日同寺ニ於テ演說會開催ニ付會場電燈ノ取付其ノ他一切ノ諸準備ヲ爲シ(ロ)ノ(三)且同候補者選舉事務員高山市太郎ヨリ演說會場ノ會費トシテ金拾五圓ヲ受取リ淨明寺竝ニ電燈會社ニ會場ノ借貸及電燈料ノ支拂ヲ爲シ以テ違法ノ選舉運動ヲ爲シタルトノ點ニ付(ロ)ノ(一)會場借入ニ際シ上告人齊藤國平カ選舉運動員高山末松ヲ案内シ之ヲ淨明寺住職ニ紹介シタル點カ選舉運動ニアラサルヤ論ナシ(ロ)ノ(二)會場電燈ノ取付竝ニ(イ)ノ(三)會場費及電燈料ノ支拂ノ點カ選舉運動ナリヤ否ヤニ付原判決ハ當ニ上告人齊藤國平カ斯ル行爲ヲ爲シタル事實ノミヲ摘示シタルノミニシテ何カ故ニ之等ノ行爲カ選舉運動ナリヤ否ヤヲ示サス然レトモ苟モ選舉運動タルニハ候補者ヲシテ當選ヲ得又ハ得セシムル目的アル行爲ナラサルヘカラス茲ニ於テカ初メテ選舉運動行爲ト然ラサル行爲ノ區別ヲ認メ得ヘキモノニシテ唯其ノ行爲ノ結果カ選舉行爲ニ連絡ヲ有スルノ故ヲ以テ凡テノ關聯アル行爲ヲ其ノ性質ヲモ變シテ選舉運動行爲ト爲スモノニアラサルコト多言ヲ要セサルヘシ即チ本件(ロ)ノ(二)及(ロ)

演說ニ依ル選舉運動ト演說會開催ノ準備並開催費用ノ支拂

ノ(三)ノ事實ハ其ノ行爲ノ性質上當選ヲ得又ハ得セシムル爲ノ行爲ニ非スシテ上告人カ單ニ此ノ行爲ヲ爲シタルハトテ之レノミヲ以テ直ニ之ヲ選舉運動行爲ヲ爲シタルモノナリト認定スルハ選舉運動行爲ノ性質ヲ誤解シ苟モ之ニ關聯アル以上凡テノ行爲ヲ選舉運動行爲ナリトナサントスルモノニ外ナラス依テ上告人カ(ロ)ノ(二)(ロ)ノ(三)ノ行爲ヲ爲シタルコトノミヲ捕ヘ以テ直ニ選舉運動行爲ヲ爲シタルモノト即斷シタル原審判決ハ理由不備ノ判決ナリト云ハサルヘカラスト云フニ在リテ○論旨前段ノ理由ナキコトハ前點ニ對スル說明ノ趣旨ニ就テ了解スヘク又後段ノ論旨ニ就キ按スルニ所論判示第二ノ(三)ノ事實ハ何レモ議員候補者ノ政見發表演說會開催ノ準備若ハ其ノ演說會ニ要シタル費用ノ支拂ニ關スル行爲ニ屬シ此ノ如キハ衆議院議員選舉法第九十六條ニ所謂演說ニ依ル選舉運動中ニ包含セラレ何人カ之ヲ爲スモ罪トナラサルモノト解スヘキヲ以テ原審カ其ノ事實ヲ有罪トシテ判示シタルハ不法ナリト雖此ノ不法ハ原判決ノ認定セル一罪ノ一部ニ關スルモノニシテ判決ニ影響ヲ及ホスモノニ非サルコト明白ナレハ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省畧ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス
 檢事柴碩文關與

○衆議院議員選舉罰則違反被告事件(昭和三年(九)第一〇二八號 同年七月十四日第三刑事部判決) 破毀自判

【上告人】 被告人 福井庄三郎 辯護人 鬼丸義齋 和田本寄太郎

【第一審】 名古屋區裁判所 【第二審】 名古屋地方裁判所

○判示事項

衆議院議員選舉法第九十六條ニ所謂演說ニ依ル選舉運動

○判決要旨

衆議院議員選舉法第九十六條但書ニ所謂演說ニ依ル選舉運動中ニハ單ニ演說ヲ爲スノ行爲夫レ自體ノミニ止マラス其ノ演說ヲ爲スニ付必要ナル演說會場ノ借入其ノ他ノ準備行爲ヲモ包含スルモノトス

【參照】 衆議院議員選舉法第九十六條 議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ此衆議院議員選舉法第九十六條ニ所謂演說ニ依ル選舉運動

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ事實ヲ認定シ衆議院議員選舉法第九十六條第二百二十九條ヲ適用シ罰金二十圓ニ處シタルモ上告審ハ下記判決理由ニ依リ原判決ヲ破毀シ被告人ニ對シ無罪ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和三年二月二十日ニ舉行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ法定ノ選舉運動員タル資格ナキニ拘ラス愛知縣第一區議員候補者鬼丸義齋ヲ當選セシムル目的ヲ以テ同年同月十二、三日頃名古屋市中區西日置町字若狹東光寺ノ總代ナル同市同區廣井町三丁目九十三番地伊藤竹次郎方ニ到リ同人ニ對シ東光寺ヲ同月十四日開催スヘキ候補者ノ演說會場トシテ借受ケ度キ旨ノ交渉ヲ爲シテ右竹次郎ノ承諾ヲ得次テ右演說會場同月十六日ニ變更セララルヤ更ニ同月十五日頃右竹次郎方ニ赴キ同人ニ對シ同月十六日開催スヘキ候補者ノ演說會場トシテ同寺ヲ借受ケ度キ旨ノ交渉ヲ爲シテ右竹次郎ノ承諾ヲ得仍テ候補者ノ爲メニ選舉運動ヲ爲シタルモノナリ

○理由

辯護人鬼丸義齋和田本寄太郎上告趣意書第一點本件ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノトス事實ニ付本件判決竝公判調書ヲ閱スルニ判決理由ノ第一被告カ法定ノ選舉運動ノ資格ナキコト第二被告供述檢事ノ第二回聽取書中東光寺ヲ演說會場トシテ借用方ノ交渉ヲ爲シ

タルハ人夫トシテ之ヲ爲シタルニアラス候補者ヲ當選サセテヤリタヒトノ心中ヨリ交渉シタルモノナリトノ點理由第三ハ原審第二回公判調書中證人伊藤竹次郎ノ供述中被告カ二月十四、二月十六日東光寺ヲ鬼丸義齋ノ演說會場ニ致度交渉ニ來リ證人ハ之ヲ貸スコトニ話カ定マリタルモノナル旨ノ證言以上ノ三點ヲ以テ本件犯罪ヲ認ムルコト充分ナリトノ認定ナリ然レトモ報酬ノ有無竝ニ候補者ヲ當選セシメ度キ意思ノ有無等ハ何等犯罪ノ成否ニ關スルモノニアラス何トナレハ凡ソ人間トシテ或人ノ手助ケヲ爲シタル場合ニハ其ノ人ノ成功ヲ祈ルハ人情ノ常ナリ殊ニ選舉ニ於テハ何人モ自己ノ信任スル候補者ノ當選ヲ希フハ當然ノコトナリ又報酬ノ有無ニ依テ或ハ選舉運動トナリ或ハ又之ヲ否定スルコトトナルヘキ理由ノ存スルコトナシ次ニ證人伊藤竹次郎ノ原審第二回公判調書ヲ閱スルニ其ノ前提ニ於テハツキリシタル記憶ハ存セスト自供シ二月十四日ハ東光寺ハ他ニ約束ナキタメ使用方ヲ承諾シ席料二十圓以下テハ貸セスコトニナツテキル二十圓トヨケレハ使ツテ吳レト云フタ處被告ハ之ヲ承知サレタモノテアリト云フニ過キス然ルニ被告ニ利益ノ證人トシテハ記録中數人アリ殊ニ第一審公判調書百四十四頁ニ記載セル法定運動員タル選舉當時ノ演說會場係リ山中忠七ノ證言ニ依レハ名古屋西日置町方面ニ於テ演說會場ヲ設ケタヒト思フカアノ方面トシテハ東光寺カ適當ナルモ誰カ使シテクレル人ハナイカト申シマシタ處其ノ場ニ福井カ居合セ自分カ行ツテ來ルト申シテ吳レタノテ私ハ夫レテハ一度東光寺ニ二十四日ノ一日間東光寺ヲ借り受ケルコトカ出來ルカ否カヲ當ツテ見テ吳レト頼ミマシ

タ云々トアリ是ニ因テ之ヲ觀レハ被告ノ行爲ハ山中ノ依頼ニ應シテ只單ニ機械的勞務ニ服シタルモノニ外ナラス如斯單純ナル意思ノ傳達機關ニ過キサル行爲ヲ選舉運動ノ違反ナリトセンカ現行法ノ如キ短日時ニ大ナル選戰ヲ爲ス選舉ニ於テ到底定員ノ運動員ノミニテハ選舉運動ヲ爲スニ由ナク假ニ例ヲ吾人カ住居タル一戸ノ家ヲ借り入ルルニ當リテスラ數人ニ聞キ合セ或時ハ家主ト懇意ナル人ニ頼ミ借リ得ルハ吾人ノ常ニ取リツツアル所ナリ況ヤ一夜ニ十箇所以上ノ演說會場ノ借リ入レニ當リ其ノ地方地方ノ事情ニ通スル者ヲシテ斡旋セシムルニアラサレハ何人モ到底之ヲ爲シ能ハサルヘシ要スルニ本件ノ記録一切ヲ閱スルモ被告ノ行爲ハ昭和三年二月二十日舉行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ法定ノ選舉運動員タル山中忠七ノ依頼ニ因リ東光寺ト稱スル寺院ヲ演說會場ニ借リ入ル可ク單純ナル意思ノ傳達機關トシテ機械的勞務ニ從事シタルモノニ過キサルモノナリト云ヒ同第二點法令ノ解釋適用ノ違反前述ノ如キ被告ノ行爲タル事實ニ對シ第二審裁判所ハ現行選舉法第九十六條ヲ適用セルモ既ニ愛知縣ニ於テハ過般ノ衆議院議員ノ選舉ニ際シ各候補者ノ選舉事務長ヲ所轄警察署ニ召喚シポスター貼リ立看板等ノ如キ單純ナル勞務ニ從事スル行爲ハ知人或ハ人夫等ニ因リ之ヲ爲サシメタリ之ト何等選フ所ナキ本件被告福井庄三郎ノ爲シタル會場借リ入レノ使トシテノ單純ナル勞務ニ從事シタル行爲ニ對シ普通選舉法第九十六條ヲ適用スルハ法ノ精神的解釋ノ誤認ヨリ來リタル違反ナリト信スト云フニ在リ○按スルニ衆議院議員選舉法第九十六條ニ所謂選舉運動トハ特定ノ議員選舉ニ於テ特定ノ議員

【要旨】

候補者ヲ當選セシムル爲投票ヲ得若ハ得シムルニ付直接又ハ間接ニ必要且ツ有利ナル周旋勸誘若ハ誘導其ノ他諸般ノ行爲ヲ爲スヲ汎稱スルモノナルコト既ニ本院判例ノ示ス所ノ如シ故ニ法定ノ選舉運動者ニ非サル者カ投票ヲ得若ハ得シムル目的ヲ以テ或議員候補者ノ爲ニ演說會場借入ノ申込ヲ爲ス行爲ノ如キモ亦同法條ニ所謂選舉運動ニ該當スヘキヤ勿論ナリト然レトモ演說ニ依ル選舉運動ハ議員候補者選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サル者ト雖其ノ之ヲ爲シ得ヘキモノナルコト同法條但書ノ明規スル所ニシテ同條但書ニ所謂演說ニ依ル選舉運動トハ單ニ演說ヲ爲スノ行爲夫レ自體ノミヲ謂フモノニ非スシテ其ノ演說ヲ爲スニ付必要ナル演說會場ノ借入其ノ他ノ準備ヲ爲スカ如キ行爲ハ是等等シク演說ニ依ル選舉運動中ニ包含スルモノトシ法ノ禁スル所ニ非スト解スルヲ正當トス蓋シ演說ノ方法ニ依リテ選舉運動ヲ爲サントスルニ際シテハ通常演說會場ヲ選定シ其ノ借入レ其ノ他ノ準備ヲ要スヘキハ當然ニシテ其ノ必要ナル準備行爲ヲ不法ナリト論スルハ法ノ精神ニ非サレハナリ原判決カ證據ニ依リテ確定シタル事實ハ被告人ハ昭和三年二月二十日ニ舉行セラレタル衆議院議員ノ選舉ニ際シ法定ノ選舉運動員タル資格ナキニ不拘愛知縣第一區議員候補者鬼丸義齋ヲ當選セシムル目的ヲ以テ同月十二三日頃名古屋市中區西日置町字若狹東光寺ノ總代ナル同市同區廣井町三丁目九十三番地伊藤竹次郎方ニ到リ同人ニ對シ東光寺ヲ同月十四日開催スヘキ同候補者ノ演說會場トシテ借受ケ度キ旨ノ交渉ヲ爲シテ其ノ承諾ヲ得次イテ右演說會場同月十六日ニ變更セラルルヤ更ニ同月十五日頃右竹次郎方

ニ赴キ同人ニ對シ同月十六日開催スヘキ同候補者ノ演說會場トシテ同寺ヲ借受ケ度キ旨ノ交渉ヲ爲シテ其ノ承諾ヲ得仍テ同候補者ノ爲ニ選舉運動ヲ爲シタルモノナリト云フニ在リテ被告ノ行爲ハ法定ノ選舉運動者ニ非サル者ノ爲シタル選舉運動ナルコト勿論ナリト雖其ノ行爲ハ衆議院議員選舉法第九十六條但書ニ所謂演說ニ依ル選舉運動中ニ包含スルモノト解スヘク從テ被告人ノ爲シタル選舉運動ハ法ノ禁スル所ニ非ス衆議院議員選舉法第二百二十九條ヲ適用處罰スルヲ得サルモノニシテ其ノ行爲ハ法律上罪ト爲ラサルモノトス然ルニ原判決力之ヲ有罪ト認メ衆議院議員選舉法第九十六條第二百二十九條ニ問擬シテ被告人ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ論旨ハ理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レス此ノ點ニ於テ原判決ヲ破毀スヘキモノト爲ス以上爾餘ノ論旨ニ付キ逐一説明ヲ爲スノ要ナク刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ原判決ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ判決ヲ爲スヘキモノトス而シテ原判決ノ確定シタル事實ハ罪ト爲ラサルニヨリ刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十二條ニ則リ被告人ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトシ主文ノ如ク判決ス

檢事宮崎晋一關與

○恐喝暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反被告事件

(昭和三年(九)第四五一號
同年八月三日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 中山榮松 外三名 辯護人 山本文吾
横山柱一

【第一審】 七尾區裁判所 【第二審】 金澤地方裁判所

○判示事項

絶交ノ通告ニ依ル脅迫ノ罪ト絶交ニ關スル特約

○判決要旨

或集團カ相結束シテ正當ナリト認ムヘキ理由ナキニ拘ラス些少ノ事由ヲ口實トシテ集團中ノ特定人ニ對シ將來一切ノ交際ヲ絶ツヘキコトヲ通告スルトキハ縱令被通告者ト通告者トノ間ノ契約ニ於テ其ノ契約ノ違反者ニ對シ如上ノ絶交ノ處分ヲ爲スヘキヲ定メタル場合ト雖苟モ相手方ノ意思ニ反シ之レカ通告ヲ爲スニ於テハ其ノ行爲ハ脅迫罪ヲ構成ス

【參照】 暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條 團體若ハ多衆ノ威力ヲ示シ、團體若ハ多

絶交ノ通告ニ依ル脅迫ノ罪ト絶交ニ關スル特約

衆ヲ假裝シテ威力ヲ示シ又ハ兇器ヲ示シ若ハ數人共同シテ刑法第二百八條第一項
 第二百二十二條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百
 圓以下ノ罰金ニ處ス
 常習トシテ前項ニ掲クル刑法各條ノ罪ヲ犯シタル者ノ罰亦前項ニ同シ
 刑法第二百二十二條 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人
 ナ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル
 者亦同シ

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ事實認定及證據説明ヲ爲シ之ニ左記ノ法律ヲ適用シテ被告人榮松政吉幸林ヲ各
 懲役三月ニ被告人松太郎ヲ懲役二月ニ處シ各二年間刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
 被告人等ハ孰レモ居村石川縣羽昨郡鉈打村字河内ノ壯年團員ニシテ被告人榮松ハ其ノ團長ナルトコロ
 該團ハ嘗テ數年前居村弘灰久三郎カ不徳ノ行爲ヲ爲シ戸主連トノ間ニ紛擾ヲ醸シタルコトアルニ基キ
 同人ヲ除名シタルコトアリ而シテ右戸主連トノ紛擾ハ其ノ後和解セラレ從テ壯年團ニ於テモ除名繼續
 ノ理由ナキニ至レルニ拘ラス團員等ハ依然トシテ右久三郎ヲ除外シ團員等ノ之ト交通スルヲ禁シ居リ
 シカ偶々昭和二年九月二十九日同壯年團員坂本五右衛門丸本萬四郎笹彌久松ノ三名カ前記久三郎ニ雇
 ハレ同人ノ爲藥草採取ニ從事シタルコトアルヤ團長タル被告人榮松ハ右五右衛門外二名ニ對シ相當ノ

處置ヲ爲スノ要アリト爲シ同年十月九日被告人政吉幸林松太郎等六十餘名ノ團員ヲ同字ナル河内壯年
 俱樂部ニ集合セシメ

第一 被告人榮松政吉幸林松太郎ノ四名ハ共謀ノ上右席上ニ於テ前記三名ヲ團長被告人榮松ノ面前ニ
 引出シ午後六時頃ヨリ其ノ翌十日午前二時迄ノ間同人等ヲ庭敷上ニ正坐セシメ交々前記三名カ久三
 郎ノ爲雇ハレ以テ同人ト交際シタルヲ難詰シ同人等ヲ前記壯年團員ヨリ除名シ且ツ團員トノ一切ノ
 交際ヲ斷ツヘキ旨脅シ付ケタル後團則ニ違背シタリトシテ前記笹彌久松坂本五右衛門ニ對シ各金五
 圓丸本萬四郎ニ對シ金二圓ヲ同壯年團ニ出捐スヘキコトヲ承諾セシメ之カ爲同人等ヲシテ同月二十
 日右金員ヲ被告人榮松ニ交付セシメ以テ同人等ヲ恐喝シ

第二 被告人榮松政吉幸林松太郎ノ四名ハ共謀ノ上同月十日午前三時頃前記壯年團員集合ノ席上ニ於
 テ同團員前田長五郎ヲ正坐セシメ同人カ久三郎ノ許ニ藥草ヲ搬入セル事實竝ニ同日集會ニ出席セサ
 リシ事實ヲ難詰シ長五郎ヲシテ壯年團員ヨリ除名ノ上他ノ團員トノ交際ヲ一切斷ツヘキ旨申告ケ以
 テ同人ヲ脅迫シタルモノナリ

證據ヲ按スルニ判示冒頭ノ被告人等カ孰レモ居村石川縣羽昨郡鉈打村字河内ノ壯年團員且被告人榮松
 ハ其ノ團長ナルコトヨリ同人ハ團員中坂本五右衛門笹彌久松丸本萬四郎ノ三名カ右壯年團除名者タル
 弘灰久三郎ノ爲藥草採取ニ從事シタルコトニ付相當ノ處置ヲ爲スノ要アリトシ被告人等始メ六十餘名

絶交ノ通告ニ依ル脅迫ノ罪ト絶交ニ關スル特約

ノ壯年團員ヲ河内壯年俱樂部ニ集メタルコトハ被告人榮松ノ當公廷ニ於ケル同趣旨ノ供述ニ依リ認め得ヘク判示第一事實ニ付テハ同シク當公廷ニ於ケル被告人榮松ノ前記壯年團員集合ノ結果判示笹彌久松坂本五右衛門ヨリ金五圓宛丸本萬四郎ヨリ金二圓ヲ判示日時ニ受取リタル旨ノ供述原審公判調書中ノ被告人榮松政吉ノ昭和二年十月九日夜壯年團員集合ノ席上ニ於テ團員笹彌久松外二名カ團則ニ違背シタルニヨリ久松五右衛門ヨリ各金五圓萬四郎ヨリ金二圓ヲ同月二十日迄ニ團長中山榮松ノ許ニ交付セシムルコトナリタル旨ノ供述記載笹彌久松ニ對スル檢事ノ聽取書中ノ自分ハ昭和二年十月二十九日坂本五右衛門丸本萬四郎ト共ニ弘灰久三郎ノ許ニ雇ハレ藥草ヲ採取シタルニ同年十月九日朝壯年團組長カ午後六時ヨリ部落内圖書館ニ於テ壯年團臨時總會カアル故出頭セヨトノコトナリシニヨリ同刻ニ會場ニ參リ一同ノ後方ニ坐リ居リシニ小林政吉來リ自分及坂本丸本ノ三名ニ此處ニ出テ來ヒト申シ一同ノ真中ニテ團長中山榮松ノ前ニ引出サレ團長ハ自分等三名ヲ薙ノ上ニ正坐サセ貴様等ハ何故久三郎ノ爲ニ藥草ヲ取リニ行キタルヤト申シ政吉幸林松太郎ノ三名モ自分ノ直ク後ニ居リ交々貴様等ハ何故弘灰ノ爲ニ藥草ヲ取リニ行キシヤ馬鹿ニシテ居ルト大聲ニテ怒鳴リ榮松モ右三名ニ加ハリ同様ニ怒鳴リ付ケ堪忍出來ナイト申シ怒リ出シ恐ロシイ劍幕ナリシ故恐シクナリ惡カリセハ勸忍シテ吳レト申シタルニ幸林ハ只勸忍シテ吳レテハ濟マヌ罰金十圓宛出セト申セシニ榮松ハ夫レハ當リ前々皆左様決メヤウシヤナイカト申シ政吉ハソレハ當リ前々ト申シ松太郎ハ一體今日ノ會合ハ貴様等ノ爲タ十圓位

出スハ當リ前々ト之ニ和シタリ自分ハ金ヲ出サレヌト申シタルニ榮松ハ一同ニ計リ居リシカ幸林政吉ハ十圓出サヌト言フナラハ除名ニスルト言ヒ出シタリ若シ除名ニセラルトキハ火事ヤ死人アルモ人カ來テ吳レス小作人ハ田畑ヲ捨テテ荒シ自分等ノ子供カ學校ニ行クトキ誘テ吳レサル故村民トシテ一番苦痛ナリ自分等三名ハ罰金ヲ命セラレ之ヲ出サヌト申シタル處壯年團ヨリ抛リ出サレルト脅カサレ困リ居リシニ幸林カ然ラハ罰金ハ五圓ニ敗ケテヤルト申シ結局榮松カ自分等三名ニ貴様等ハ五圓宛出セ然シ丸本ハ二圓ニテ堪忍シテヤルト申シ渡セリ自分ハ此ノ際何申スモ致方ナキノミナラス既ニ六時ヨリ翌日ノ午前二時頃迄薙ノ上ニ正坐サセラレ罪人扱ニナリ苦シク困リタル故自分ハ二十日榮松ニ金五圓ヲ渡シタル旨ノ供述記載坂本五右衛門丸本萬四郎ニ對スル檢事ノ各聽取書中ノ同様趣旨ノ供述記載ニ徴シ認ムルニ足リ判示第二事實ニ付テハ當公廷ニ於ケル被告人四名ノ判示九日ノ壯年團員ノ集會ニ團員前田長五郎ハ故ナク出頭セサリシ故右集會ノ席上ニ同人ヲ連レ來ラシメ其ノ不都合ヲ詰リシカ同人ハ兎角團員ノ命ニ從ハサリシニヨリ長五郎ヲ團員ヨリ除名シタル旨ノ各供述前田長五郎ニ對スル檢事ノ聽取書中自分ハ昭和二年十月九日叔父大橋熊次郎ヨリ託サレタル藥草ヲ弘灰久三郎ノ許ニ届ケタルカ同壯年團ノ臨時總會アリシモ足痛ノ爲行カサリシカ翌一日午前三時頃中田久太郎等カ來リ花相撲ノ相談カアルトノコトニテ俱樂部ニ赴キタルニ團長ノ前ニ引出サレ板ノ間ニ正坐サセラレ團長榮松ハ自分ニ向ヒ總會アルニ拘ハラス何故來ラサリシヤト叱リ付ケ本日ハ貴様カ弘灰久三郎ノ家ニ藥草ヲ

持ツテ來タノヲ現認セシカ不都合ナ奴ナリ只テハ承知出來ヌト叱リ付ケ罰金ヲ出スカ間者付キニスルカ始末書ヲ出スカ怎ウスルト申シ其ノ際小林政吉ハ此ノ様ナ馬鹿ナ奴ハ始末書ナト書ケヌ故下書ヲ書キヤルカ宜敷イト申シ榮吉ハ下書ヲ認メ自分ノ前ニ出シタルカ自分一人ニテ始末書ヲ出ス譯ニモ行カス親類ヤ家ノモノニ相談シタル上返事スル故暇ヲ吳レト申シタルトコロ政吉ハ火ノヨウニナリテ怒リ私ノ近クノ床板ヲ人カ驚イテ逃ケシ位酷ク踏鳴ラシ其ノ様ナ暇ハヤレヌ其ノ様ナ奴ハ除名シテヤルト言ヒ中山ニ對シ除名シテハ如何ト申シタルトコロ中山ハ其レテハ除名スル除名スル除名シタル上ハ何人モ交際スルナ物モ賣ルナ絶對ニ近寄ルナ交際シタ者モ除名スルト一同ニ申渡シ小林ハ其ノ上此ノ儘ニハ許サヌ飽ク迄モ苦シメテヤルト怒鳴リ居リタリ其ノ際幸林ハ政吉等ト耳打ヲ爲シ大變元氣ヲ入レテ居リ松太郎ハ自分ニ向ヒ弘灰ニ藥草ヲ持ツテ行ツテ惡イ奴タト申シ叱リ付ケタリ云々ノ供述記載ニ徴シ認ムルニ足ル

而シテ被告人及辯護人等ハ判示事實ニ付判示壯年團ノ規約ニ依レハ團則ニ違背シタル團員ニ對シテ之ヲ除名シ又ハ罰酒料ヲ交付セシムルコトノ規定アルヲ以テ是等ノ點ニ關シ被告人等ノ不法行爲ヲ生スヘキモノニ非サル旨ノ如キ辯疏ヲ爲スニ付接スルニ凡ソ多衆人相集マリ共同ノ福利増進ノ目的ノ下ニ團體ヲ組織シ更ニ該團體ノ綱紀維持ノ必要ノ爲團則ニ違背シタルモノニ對シ爾後團體ノ事業ニ關與セシメサル趣旨ノ除名ヲ爲スコトハ所謂團體ノ自衛權トシテ敢ヘテ咎ムヘキモノナキコト勿論ナレトモ

右除名ノ内容ニシテ前記ノ如キ自衛權ノ範圍ヲ超エ徒ラニ他人ニ苦痛ヲ加フルモノトセンカ其ノ不當ナルコト言フ俟タス然ルニ今前記認定ノ本件被告人等ノ判示各被害者ニ加ヘ又ハ加ヘントシタル除名ノ内容タルヤ原審公判調書中ノ被告人榮松ノ其ノ旨ノ供述記載ニ依リテモ明カナルカ如ク團員總テノモノヲシテ除名者トノ一切ノ交際ヲ斷タシムルモノニシテ除名者ノ人格ヲ蔑視シ其ノ名譽ヲ毀損スルコト甚シキモノト謂フヘク而カモ其ノ理由タルヤ單ニ被害者等カ團員除名者ノ爲雇ハレ其ノ勞務ニ服シタルコト又ハ他人ノ委託ニ依リ除名者方ニ物品ヲ搬入シタルコト等ノ些々タルコトニシテ彼ノ重大ナル背德行爲アリテ除名シ除名者ヲシテ前記ノ如キ苦痛ヲ蒙ラシムルモ其ハ自ラ招ケルモノトシテ甘受スヘキカ至當ナリトノ判斷ヲ許スヘキ程ノモノニ比スヘクモナシ然ラハ被告人等ノ前示本件所爲ノ除名ナルモノハ所謂不法ノ害惡ノ通知タルコト勿論ニシテ尙罰酒料ノ如キニ至リテハ斯カル規約ヲ設ケタル場合之ニ基キ任意其ノ提供授受ヲ遂クルハ敢テ法ノ關涉セサルニ止マリ毫モ民事上ノ權利義務ヲ生セシムルモノニ非サルコト明カニシテ斯ノ如キ出捐ヲ前記ノ如キ不法ノ害惡ノ通知ニヨリ爲サシムルコトハ恐喝罪ヲ成立スルコト明ナリ然ラハ前記被告人等其ノ他ノ辯疏ハ排斥スルニ足ルヲ以テ判示犯罪事實ノ證明十分ナリ

法律ニ照スニ被告人四名ノ判示所爲中第一ノ恐喝ノ點ハ刑法第二百四十九條第一項第六十條ニ第二ノ脅迫ノ點ハ大正十五年法律第六十號暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項刑法第六十條ニ各該當

スルトコロ右暴力行為ノ罪ニ付テハ懲役刑ヲ選擇シ以上併合罪ナルヲ以テ同法第四十五條第四十七條第十條ニ依リ重キ恐喝罪ニ付定メタル刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人榮松政吉幸林ノ三名ヲ各懲役三月ニ被告人松太郎ヲ懲役二月ニ處斷シ尙右被告人四名ニ對シ其ノ刑ノ執行猶豫ヲ與フヘキ情狀アリト認メ同法第二十五條ニ依リ各二年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス

○理由

各被告辯護人山本文吾上告趣意書第一點第一審七尾區裁判所並ニ第二審金澤地方裁判所判決理由ニ依レハ本件恐喝行為ノ存在シタル事實ニ付其ノ探證ノ方法トシテ反對側タル被害者トモ見ラルヘキ者ノ證言即チ笹彌久松等(丸本萬四郎坂本五右衛門ヲ含ム)ノ檢事聽取書中ノ供述記載前田長五郎ノ檢事聽取書中ノ供述記載ヲ選ヒタルモノニシテ此等ハ被告人ニ對シ常ニ反目態度ヲ示シタル者ナレハ被告人ニ不利ナル供述ヲ爲スハ當然ノ條理ニシテ第三者ノ證言ヲ採用セシテ判決アリタルハ本件犯罪事實ヲ認定スル理由ノ不備ナリト信スト言フニ在レトモ○證據ノ眞否ハ判事ノ自由ナル判斷ニ任スヘキモノナレハ被害者ノ供述ト雖眞實ト認ムルトキハ之ヲ採リテ以テ罪證ニ供シ得ヘク必スシモ第三者ノ證言ヲ俟ツコトヲ要セス原判決ハ所論被害者ノ供述ヲ採リ他ニ第三者ノ證言ヲ採用セサリシトテ理由ニ不備アリト爲スヲ得サレハ論旨ハ理由ナシ

同第二點前示ノ如ク恐喝行為ノ存在ヲ前提トシテ自衛權ノ不當行使ナリト判斷セラレタル第二審判決亦審理不盡理由ノ不備ナリト信スト言フニ在レトモ○原判決ハ被告人等ハ判事河内壯年團ノ役員又ハ團員ニシテ團則ノ違反ニ藉口シ團員坂本五右衛門丸本萬四郎笹彌久松ニ對シテハ判事ノ恐喝ヲ爲シテ各判事ノ財物ヲ交付セシメ又團員前田長五郎ニ對シテハ判事ノ脅迫ヲ爲シタリトノ事實ヲ證據ニ依リテ認定シタルモノナレハ其ノ證據說明ノ末段ニ於テ被告人等ノ判事行為ハ團體自衛ノ範圍ヲ超越シタル違法ノ行為ニシテ當然犯罪ヲ構成スヘキ旨ヲ說示セルハ畢竟被告人及辯護人等ノ辯疏ヲ排斥シ判事犯罪ヲ認メタル理由ヲ明示セルモノニ外ナラス原判決ハ所論ノ如キ審理ノ不盡又ハ理由ノ不備アルコトナケレハ論旨ハ理由ナシ

各被告辯護人横山柱一上告趣意書第一點一定ノ社交團ニ於テ其ノ會員ニ對シ規約違背其ノ他正當ノ事由ニ因リ除名ノ決議ヲ爲シ之ヲ通告スルカ如キハ當然ノ措置ニシテ敢テ脅迫ヲ以テ論スヘキモノニアラス(大正九年、れ)第二三四五號判決)又一定ノ社交團體ニ於テ規約ニ會員カ規約違背ノ行為ヲ敢行シタル場合之ヲ除名又ハ違約金支拂ニ處スル旨ノ制裁規定ヲ設ケ其ノ團體ノ綱紀維持ノ爲之カ勵行ヲ爲スハ是亦當然ノ措置ナルヲ以テ其ノ行為ヲ目シテ脅迫又ハ恐喝若クハ暴力行為等處罰ニ關スル法律違反ナリト論スヘキモノニアラサルヤ勿論ナリト信ス又本件ニ於ケル各被告人ノ第一二審ニ於ケル供述第一審證人廣山太郎右衛門第二審證人宮本惣右衛門上野助松ノ證言押收ニ係ル證第一號字河内壯年者心合會則及壯年朋友者心得第二審公判ニ於ケル辯護人ヨリ提出シ領置セラレタル河内壯年者ノ約定書ニヨレハ河内壯年團ハ字河内區内ノ壯年者中ノ入團希望者ノミヲ以テ組織スル社交團體ニシテ其ノ規約ニハ規約違約ノ者又ハ不徳行為ヲ敢行シタル者ニハ除名又ハ罰酒料支拂ノ制裁ヲ科シ又除名者ト交際シタル者ハ同罪トシテ罰酒料支拂ヒ及除名ノ制裁ヲ科シ得ヘキ規定アリ故ニ河内壯年團ニ加盟スルモノハ總テ之ヲ承諾ノ上入團シタルモノト認ムヘク從テ加盟者ハ入團ト同時ニ團員ト右規約ト同趣旨ノ契約ヲ締結シタルモノト看做スヘキモノトス而シテ本件ニ於テ被害者ト目スヘキ字河内壯年團員坂本五右衛門丸本萬四郎笹彌久松ハ元河内壯年團員ナリシモ不徳行為アリシ爲除名セラレタル弘灰久三郎ト交際シタル爲河内壯年團員ハ臨時總會ヲ開キ壯年團規約ニ基キ處斷セントシタル處所謂被害者

絶交ノ通告ニ依ル脅迫ノ罪ト絶交ニ關スル特約

等ニ於テ罰酒料支拂ヲ提議シテ除名處分ヲ免レタル事實アリシニ止リ從テ本件被告等ハ或ハ河内壯年團長トシテ或ハ同壯年團員トシテ總會ニ列シ規約ノ實行即チ契約履行ヲ求メ所謂被害者等ヲシテ規約即チ契約ヲ履行セシメタルニ過キス然ルニ原判決カ河内壯年團ニ右ノ如キ規約アルコトヲ無視シ只單ニ除名者ト交際シタルコトヲ難詰シ除名スヘキ旨ヲ以テ所謂被害者等ヲ脅迫シ酒代ノ出捐ヲ承諾セシメタルモノノ如ク判示シ恐喝罪ニ問擬シタルハ重大ナル事實ノ誤認アルカ又ハ理由不備ノ不法アルモノナリト信スト云ヒ」同第二點一定ノ社交團體ニ於テ其ノ會員ニ對シ規約違背ニヨリ規約ニ基キ除名ノ決議ヲナシ之ヲ通告スルハ當然ノ措置ニシテ脅迫ニアラサルコトハ第一點論述ノ如シ而シテ河内壯年團カ社交團體ナルコト規約ニ總會ニ正當ノ事由ナク無斷缺席シタルモノハ罰酒料トシテ一斗以上ノ代金ヲ支拂ハシムヘキコト及不參者ヲシテ事故始末書ヲ提出セシムルコト之等ノ處分ハ壯年團長カ執行スヘキコト壯年團長ノ命令ニ服從セサル場合ニハ總會ヲ開キ罰酒代支拂及除名ニ處スヘキ制裁アルコト河内壯年團員前田長五郎カ臨時總會ニ無屆缺席シタルコト之ヲ團則違反トシテ難詰セラレ團長ヨリノ事故始末書ノ提出ヲ命セシモ應セザリシ爲規約ニ則リ除名セラレタルコトハ第一點記載ノ被告人證人ノ供述押收領置ニ係ル證據文書ニ依リ明白ナリ從テ各被告人ハ團員トトモニ契約ノ實行即チ權利ノ實行ヲナシタルニ過キス然ルニ原判決カ是亦右規約アルコトヲ無視シ理由ナクシテ右前田長五郎ノ行爲ヲ難詰シ除名シタルモノノ如ク判示シ脅迫罪ニ問擬シタルハ是亦重大ナル事實ノ誤認アルカ又ハ

理由不備ノ不法アルモノナリト信スト云ヒ」同第三點原判決ハ「尙罰酒料ノ如キニ至リテハ斯カル規約ヲ設ケタル場合之ニ基キ任意ニ提供授受ヲ遂クルハ敢テ法ノ關涉セサルニ止リ毫モ民事上ノ權利義務ヲ生セサルコト明カニシテ云々恐喝罪ヲ成立スルコト明カナリ」ト判示シタリ然レトモ一定團體ニ於テ團體規約ノ違反者ニ違約金又ハ罰酒代金ヲ支拂ハシムヘキ條項アラシカ其ノ團體ハ違反者ニ對シ之カ支拂ヲ強シ得ヘク若シ之ニ應セザランカ訴訟上ノ請求モナシ得ヘク原判決判示ノ如キ民事上ノ權利義務ヲ生セサル次第ニアラス而シテ河内壯年團ハ一個ノ社交團體ナルコト團則即チ規約ニ除名又ハ罰酒料支拂ノ制裁規約アルコト第一點論述ノ如クナル以上規約違背者ニ對シ罰酒料請求ノ法律上ノ權利アルコト勿論ナリ果シテ然ラハ此ノ當然ノ權利行使ニ多少妥當ヲ缺ク行爲アリシトスルモ恐喝罪ヲ構成スルモノニアラス然ルニ原判決カ之ヲ同罪ニ問擬シタルハ立論ノ根據ヲ誤リテ刑律ヲ適用シタルノ不法アリト信スト云フニ在リ○按スルニ一定ノ社交團體ニ於テ其ノ會員ニ對シ規約ノ違背ヲ理由トシ規約ノ定ムル所ニ從ヒ除名其ノ他ノ處分ヲ爲スコトハ團體ノ自衛上當然ノ措置ニシテ敢テ該會員ノ權利ヲ侵害シタルモノト謂フヘカラサルヲ通常トスルモノナレトモ然レトモ一定ノ地域ニ於テ共同生活ヲ爲セル人類ノ集團カ相結束シ之ヲ社會的道德感情ニ照シテ正當ナリト認ムヘキ理由アルニ非サルニ拘ハラス些少ノ事由ヲ口實ト爲シ集團中ノ特定人ニ對シテ將來一切ノ交際ヲ謝絶シ獨リ往來存問吉凶相摩吊スルコトヲ杜絶スルノミナラス必要ナル生活資料ノ有無相融通スルコト緩急相救助スルコト

ヲモ絶對ニ遮斷スルコトヲ目的トスル通俗ニ所謂村八分又町省ノ處分ヲ爲シ之ヲ通告スルカ如キハ其ノ特定人ノ人格ヲ蔑如シ共同生活ニ適セサル一種ノ劣等者ヲ以テ待遇セントスルモノナレハ個人ノ享有スル名譽ヲ侵害スル結果ヲ生スヘキ害惡ノ通告ニ外ナラスシテ其ノ通告ノ受領者ヲ畏怖セシムルニ足ルモノト謂フヘク縱令其ノ通告スル害惡カ刑法上ノ名譽毀損罪ノ構成要件ヲ缺クカ爲同罪ノ成立ヲ見サルモ其ノ行爲ノ脅迫罪ヲ構成スル妨トナラス然リ而シテ絶交ノ通告ヲ受ケタル者カ通告者等トノ間ニ於ケル契約ニ違反シ契約ノ違反者ニ對シテ絶交ノ處分ヲ爲スヘキ特約ノ存シタル場合ニ於テモ猶且絶交ヲ爲スヘキ正當ノ理由ノ有無ヲ判シテ其ノ絶交通告ノ違法性ヲ有スルヤ否ヲ判定スヘキモノニシテ單ニ特約アルノ一事ニ依リ右通告ノ違法性カ除却セラルルモノト謂フヲ得ス(大正二年(レ)第一七〇六號事件判決及同九年(レ)第二三四五號事件判決參照)蓋シ正當ノ理由存セサルニ拘ハラス些少ノ事由ニ憑據シ村八分町省ニ該當スル害惡ノ通告ヲ爲スハ其ノ行爲自體カ違法性ヲ有スルモノニシテ斯ノ如キ違法ノ事項ヲ内容トスル特約ハ毫モ其ノ内容ノ違法タルコトニ變更ヲ來スノ謂レナク從テ相手方ノ意思ニ反シテ如上害惡ヲ通告スル行爲ノ脅迫罪ヲ構成スルヤ復タ疑ヲ容レス原判決ハ被告人等ハ孰レモ居村石川縣勿作郡鉆打村字河内ノ壯年團員ニシテ被告人榮松ハ其ノ團長ナルトコロ該團ハ嘗テ數年前居村弘灰久三郎カ不徳ノ行爲ヲ爲シ戸主連トノ間ニ紛擾ヲ醸シタルコトアルニ基キ同人ヲ除名シタルコトアリ而シテ右戸主連トノ紛擾ハ其ノ後和解セラレ從テ壯年團ニ於テモ除名繼續ノ理由ナキ

【要旨】

ニ至レルニ拘ラス團員等ハ依然トシテ右久三郎ヲ除外シ團員等ノ之ト交通スルヲ禁シ居リシカ偶々昭和二年九月二十九日同壯年團員坂本五右衛門丸本萬四郎笹彌久松ノ三名カ前記久三郎ニ雇ハレ同人ノ爲藥草採取ニ從事シタルコトアルヤ團長タル被告人榮松ハ右五右衛門外二名ニ對シ相當ノ處置ヲ爲スノ要アリト爲シ同年十月九日被告人政吉幸林松太郎等六十餘名ノ團員ヲ同字ナル河内壯年俱樂部ニ集合セシメ第一被告人榮松政吉幸林松太郎ノ四名ハ共謀ノ上右席上ニ於テ前記三名ヲ團長被告人榮松ノ面前ニ引出シ午後六時頃ヨリ其ノ翌十日午前二時頃迄ノ間同人等ヲ薙敷ノ上ニ正坐セシメ交々前記三名カ久三郎ノ爲雇ハレ以テ同人ト交際シタルヲ難詰シ同人等ヲ前記壯年團員ヨリ除名シ且ツ團員トノ一切ノ交際ヲ斷ツヘキ旨脅シ付ケタル後團則ニ違背シタリトシテ前記笹彌久松坂本五右衛門ニ對シ各金五圓丸本萬四郎ニ對シ金二圓ヲ同壯年團ニ出捐スヘキコトヲ承諾セシメ之カ爲同人等ヲシテ同月二十日右金員ヲ被告人榮松ニ交付セシメ以テ同人等ヲ恐喝シ第二被告人榮松政吉幸林松太郎ノ四名ハ共謀ノ上同月十日午前三時頃前記壯年團集合ノ席上ニ於テ同團員前田長五郎ヲ正坐セシメ同人カ久三郎ノ許ニ藥草ヲ搬入セル事實竝ニ同日集會ニ出席セサリシ事實ヲ難詰シ長五郎ヲシテ壯年團員ヨリ除名ノ上他ノ團員トノ交際ヲ一切斷ツヘキ旨申告ケ以テ同人ヲ脅迫シタルモノナリト認定シ之ニ次キ證據理由ノ部ニ被告人及辯護人等ノ辯疏竝ニ之ニ對スル原審ノ判斷ヲ說示シアリテ之ニ依レハ河内壯年團ニ於テハ團員ハ除名者ニ對シ除名後之ト一切ノ交際ヲ絶ツヘキモノニシテ團員ニシテ除名者ト交通ス

ル者ハ其ノ理由ノ如何ヲ問ハス之ニ除名罰酒料等ノ制裁ヲ付スルコトニ團則ヲ以テ規定シアリテ團則ノ勵行ハ即チ村八分同様ノ結果ヲ生シ人格ノ蔑視名譽ノ毀損ニ因ル害惡ノ通告ヲ爲スコトニ因リ刑法上脅迫罪ヲ構成スヘキ事態ヲ惹起スルハ必然ノ理ナルカ故ニ縱令團員間ニ規約存シ一定ノ條件ノ下ニ除名其ノ他ノ處分ヲ爲シ之レカ通告ヲ爲スモノナリトスルモ其ノ規約即チ除名等ノ特約ノ存在ハ前ニ述フル所ノ理由ニ依リ毫モ其ノ行爲ノ違法性ヲ除却セスシテ脅迫罪ノ成立ニ何等ノ妨ケナキモノト謂フヘク團則ニ於テ除名ノ外罰酒料等ノ制裁ヲ設ケ一種ノ選擇的制裁ヲ付シタリトスルモ除名ニ依ル絶交通告カ既ニ違法性ヲ有スルコトハ上述ノ如クナル以上ハ右ノ制裁ヲ付シタル約款ソノモノニ違法性存スルカ故ニ是等ノ約款ハ團員ヲ羈束スル効力ナキモノト謂ハサルヘカラス本件ニ於テ被告人等ハ弘灰久三郎ニ對シテ團體的絶交ヲ爲スヘキ何等正當ノ理由ナキニ至リタルニ拘ハラズ團員坂本五右衛門丸本萬四郎笹彌久松又ハ前田長五郎カ同人ニ雇ハレ藥草採取ニ從事シ同人ト交通シ又ハ長五郎カ集會ニ出席セサリシ點ヲ捉ヘテ右五右衛門等三名又ハ長五郎ニ對シ除名シ團員トノ一切ノ交際ヲ斷ツヘキ旨ヲ以テ所謂村八分同様ノ害惡ヲ加フヘキコトヲ示シ之ヲ畏怖セシメ又ハ脅迫シタルモノナレハ正當ノ理由ナク些少ノ事由ニ依リ人格ヲ蔑如シ名譽ヲ毀損スヘキ害惡ノ通告ヲ爲シタルモノト謂フヘク從テ判示第一ノ場合ハ恐喝罪ヲ構成スヘク第二ノ場合ハ脅迫罪ヲ構成スルコト論ヲ俟タス然レハ原判決ニハ所論擬律ノ錯誤又ハ理由ノ不備ナク記録ニ徵スルモ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘ

キ顯著ナル事由ナキカ故ニ論旨ハ總テ理由ナシ
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事三橋市太郎關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件 (昭和三年(九)第九五六號 棄却)
(同年八月三日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 高島 斯儀 辯護人 樋口 恒藏
四宮 久吉
【第一審】 德島區裁判所 【第二審】 德島地方裁判所

○判示事項

衆議院議員選舉法ニ於ケル戸別訪問ノ罪ノ成立

○判決要旨

衆議院議員選舉法第九十八條第一項ノ戸別訪問ノ罪ノ成立ニハ投

衆議院議員選舉法ニ於ケル戸別訪問ノ罪ノ成立

票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲ス者カ
被訪問者ニ對シ特ニ來意ヲ通シ若ハ被訪問者力之ニ諾否ヲ表スル
コトヲ要スルモノニ非ス

〔參照〕 衆議院議員選舉法第九十八條 何人ト雖投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル
ノ目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲スコトヲ得ス
何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個個ノ選舉人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選
舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ判示シ被告人斯儀ヲ罰金二百圓ニ處シ罰金ヲ完納スル
コト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置シ押收物件中刑第三號十圓札二枚ヲ
沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人等ハ昭和三年二月二十日施行セラレタル衆議院議員總選舉ニ際シ被告人斯儀ハ同年一月二十九
日頃被告人國一ハ同年二月六日孰レモ德島縣第二區候補者高島兵吉ノ選舉委員ニ選任セラレタル者ナ
ルトコロ孰レモ候補者ノ爲投票ヲ得シムル目的ヲ以テ

第一 被告人斯儀國一ハ共謀ノ上選舉有權者ノ各戸ヲ訪問シ右候補者ノ推薦狀ニ署名ヲ依頼センコト
ヲ企テ被告人國一之カ實行ノ任ニ當リ同人ハ法定ノ選舉委員タルノ前ナル同月四日五日ノ兩日ニ互リ

肩書居村有權者ナル笹田甚彌外十數名ノ居宅ヲ訪問シ且平野縫之助外二名ノ者ニ對シテハ肩書居村道
路上等ニ於テ連續シテ面接シ同推薦狀ニ署名ヲ依頼シテ選舉運動ヲ爲シ

第二 被告人國一ハ同月七日德島縣板野郡撫養町ナル高島候補ノ選舉事務所ニ於テ被告人斯儀ヨリ前
記選舉運動並推薦署名者ニ與フル報酬トシテ出張費名義ノ下ニ金二十圓ノ供與ヲ受ケ被告人斯儀ハ右
報酬金ノ供與ヲ爲シ

右被告人等ノ戸別訪問ト面接等ノ點ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人斯儀ノ判示第一ノ所爲中戸別訪問ノ點ハ衆議院議員選舉法第九十八條第一項第百
二十九條刑法第六十條ニ面接ノ點ハ衆議院議員選舉法第九十八條第二項第百二十九條刑法第六十條ニ
判示第二ノ所爲ハ衆議院議員選舉法第一百二十二條第一號ニ該當スルトコロ被告人斯儀ノ戸別訪問並金錢
供與ノ點ハ併合罪ナルヲ以テ刑法第四十八條則リ所定金額内ニ於テ主文ノ罰金ニ處スヘク罰金不完納
ノ場合ハ刑法第十八條第一項第四項ニ依リ各主文記載ノ期間勞役場ニ留置スヘキモノトス

理由

辯護人樋口恒藏四宮久吉上告趣意書第二點原判決ハ「第一被告人斯儀國一ハ共謀ノ上選舉有權者ノ各
戸ヲ訪問シ右候補者ノ推薦狀ニ署名ヲ依頼センコトヲ企テ被告人國一之カ實行ノ任ニ當リ同人ハ法定
ノ選舉委員タルノ前ナル同月四日五日ノ兩日ニ互リ肩書居村有權者ナル笹田甚彌外十數名ノ居宅ヲ訪

問シ且平野縫之助外二名ノ者ニ對シテハ肩書居村道路上ニ於テ連續シテ面接シ同推薦狀ニ署名ヲ依頼シテ選舉運動ヲ爲シト認定シ其ノ證據説明ノ部ニ「笹田甚彌ニ對スル司法警察官ノ聽取書中孰レモ有權者ニシテ右判示ノ如ク訪問ヲ受ケ又ハ面接ヲ爲シ判示依頼ヲ受ケタル旨判示當該ノ供述記載」ト說示シタリ仍テ笹田甚彌ニ對スル司法警察官聽取書ヲ閱スルニ其ノ第一回ニ一二、私ニ對シテ山田國一カラ高島候補ノ爲ニ推薦者ニ爲テ吳レト頼マレタ事カアツタカト云フお尋ネニ付申上マス三、私ノ娘ヲ同村笹田宮太郎ノ妻ニ本年舊節分(新二月四日)ニヤリマシタノテ私ハお客ノ料理方ニ宮太郎方ヘ手傳ニ行テ居リマシタ處其ノ翌日二月五日午後二時過頃ニ私カ宮太郎方ノ臺所ノ料理場テ料理ヲシテ居ル處へお客ニ來テ居リマシタ山田國一カ酔テ參リ私ニ何カ話カアルト云フテ居リマシタカ私ハ今日此様ニシテ居ルノテ話モ出來ヌカラ此ノ次ニ話ヲスルト云フト國一カ何レ話ニ行クト云フテ別レタノテアリマス夫レテ高島候補ノ推薦者ニナツテ吳レトノ話ハ聞テ居リマセヌ云々六、私ハ山田國一ニ對シ高島候補ノ爲ニ推薦者ト爲ルト云フタ事モアリマセヌ(六〇丁以下)トアリ其ノ第二回聽取書ニハ「一問、其ノ許ニ對シ宮太郎方ニ於テ本月五日午後二時頃山田國一カラ高島兵吉ヲ衆議院議員候補者ニ推薦ヲ承諾シテ賛成シタラ推薦料ヲ何程カ出スト云フテ依頼シタト云フコトヲ山田國一ハ申述ヘテ居ルカ如何答、私ハ山田國一カラ選舉有權者名簿ヲ出シテ宜敷頼ムト申サレタコトハ聞テ居リマスカ推薦者ニナルトカ推薦狀ヲ出ストカト云フ話ハ聞カナンタノテアリマス二問、然ラハ何故山田國一カ左

様ナ事ヲ其ノ許ニ云フタト申述ヘタカ何カ理由カアリマスカ答、私ハ山田國一カ選舉名簿ヲ出シテ話ヲ仕掛ケマシタケレト今日ハ忙カシクテ何ノ段テモ無イカラ左様ノ話ハ出來マセヌト申シタノテアリマス問、左様ナ話ト云フコトハトウ云フ話ノ事ヲ云フタノカ答、私ハ選舉名簿ヲ見セラレタノテトウラモ此ノ度ノ選舉ニハ札ヲ入レテ吳レト云フコトテアロウト思ヒマシタノテ其レテ左様ナ話ハ忙カシイノテ出來ヌト申シタ理由テアリマス(二二六丁)ト供述アルノミニシテ笹田甚彌ハ被告國一ヨリ高島候補ノ推薦狀ニ推薦者トシテノ署名ヲ依頼セラレタリトノ供述記載存スルコトナシ(笹田甚彌ニ對スル檢事聽取書ニモ原判決摘示ノ如ク判示依頼ヲ受ケタリトノ記載存在セス)然ラハ原判決ハ虛無ノ證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シ以テ事實ヲ認定シタル違法アルモノニシテ破毀セラレヘキモノト信スト云フニ在レトモ○衆議院議員選舉法第九十八條第一項違反罪ハ投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人ノ邸宅ニ立入り面會ヲ求ムル行爲ヲ爲スニ因リ直ニ既遂ト爲ルモノニシテ被訪問者ニ對シ現實ニ其ノ來意ヲ通シ若ハ被訪問者ニ於テ諾否ヲ表スルヲ俟テ始テ既遂ト爲ルモノニ非ス原審ハ被告人ニ對シ同條項違反ノ事實ヲ判示シ同條項ヲ適用處斷シタルモノナルヲ以テ被告人カ笹田甚彌ニ推薦狀ノ署名ヲ依頼シタリトノ事實ハ畢竟犯罪既遂後ノ事實ニシテ被告人ノ判示犯行ヲ判示スルニ必要ナキ事項ナリトス故ニ笹田甚彌ニ對スル司法警察官ノ聽取書ニ所論高島候補ノ推薦狀ニ推薦者トシテ署名ヲ依頼セラレタル旨ノ供述記載存セサルニ拘ラス原判決カ同聽取書ノ供述記載ヲ罪證ニ供スルニ際シ

【要旨】

宛モ所論供述記載ノ存スルモノノ如ク判示シタレハトテ罪トナルヘキ事實ニ非サル事項ニ付虛無ノ證據ヲ採用シタルノ瑕疵アリト云フニ止マリ判決ニ何等影響スル所ナキヲ以テ依リテ以テ原判決ヲ破毀スルニ足ラス本論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス) 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス 檢事溝淵孝雄關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和三年(九)第一一二七號 棄却)

【上告人】 被告人 澤田敬藏 外七名 辯護人 南 利三
【第一審】 豐岡區裁判所 【第二審】 神戸地方裁判所

○判示事項

第三者力組織的且繼續的ニ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲ス 場合ト衆議院議員選舉法第九十六條

○判決要旨

法定ノ選舉運動者ニ非サル者力組織的且繼續的ニ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スモ衆議院議員選舉法第九十六條ニ違反セス

【參照】 衆議院議員選舉法第九十六條 議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ此ノ限ニ在ラス

同法第二百二十九條 第九十六條若ハ第九十八條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ従ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定辯護人及被告人ノ主張ニ對スル判斷及法律ノ適用ヲ爲シ被告人澤田敬藏ヲ罰金百圓ニ被告人國富秀明加鹿孫三郎ヲ各罰金五十圓ニ被告人村尾民三橫山良造日下部源造池内龜次郎保田長二ヲ各罰金三十圓ニ處ス右各罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其ノ被告人ヲ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置ス敬藏以外ノ各被告人ニ對シテハ衆議院議員選舉法第三百三十七條第一項ノ規定ヲ適用セサル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人澤田敬藏同村尾民三同日下部源造同池内龜次郎同國富秀明ハ兵庫縣城崎郡豐岡町町會議員被告人加鹿孫三郎同保田長二同橫山良造ハ同町區長ニシテ何レモ同町内ニ於ケル有力者ナルカ昭和二年九

第三者力組織的且繼續的ニ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲ス場合ト衆議院議員選舉法第九十六條

月二十五日施行セラレタル兵庫縣會議員總選舉ニ當リ同町ヨリ同議員ヲ選出セント欲シ同年八月末頃ヨリ其ノ他ノ同町町會議員區長町有志等ト相謀リ屢同町役場又ハ同町小學校等ニ會合シテ推薦スヘキ候補者ヲ詮衡シタル結果九月十二日頃同町長伊地智三郎右工門ヲ推薦スルコトニ決シ其ノ承認ヲ得ル處

第一ノ一 右伊地智三郎右工門立候補後ノ選舉運動方法トシテ同人ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人等ニ於テ所謂第三者運動ニ名ヲ藉リ重ニ演説及ヒ推薦狀其ノ他ポスター等ノ文書ニ依ル選舉運動團體ノ組織シ事務ノ分擔ノ便宜上遊説部文書部會計係等ヲ設ケ各自各部ニ分屬シテ組織的ニ選舉運動ニ從事スヘキ事同町會議員坂井虎之助瀧野彦次郎ノ兩名ヲ右伊地智三郎右工門ノ立候補ノ推薦届出名義人タラシムル事及ヒ同候補者ノ爲メ選舉運動費用ノ捻出方法等ニ付協議ヲ遂ケ同月十三日右坂井瀧野ヲシテ右伊地智三郎右工門ヲ議員候補者トシテ推薦届出ヲ爲サシメ右坂井瀧野及ヒ吉谷吉次ヲ同候補者ノ法定選舉運動員タラシメ各被告人ニ於テハ同候補者ノ法定運動員トナラスシテ前記ノ如キ方法ニ依リ第三者運動ニ名ヲ藉リ法定運動員タル右坂井等ト連絡ヲ取り之ト相一致協力シ同候補者ヲ當選セシムル目的ヲ以テ選舉運動ヲ爲サントコトヲ共謀シ各自ノ分擔ニ從ヒ

被告人澤田敬藏ニ於テハ同年九月十六日頃ヨリ同月二十四日頃迄ノ間ニ於テ前記協議ニ依リ遊説部部长トナリ同部ノ事務所ト定メラレタル同町海士屋旅館ニ於テ同部ノ事務ヲ取扱ヒ又ハ法定運動員ニ非ラサル峰高國光ヲシテ自己ニ代リ右旅館ニ於テ演説會場ノ借入レ出場辯士ノ配置演説會宣傳ヒラノ作成配付等ヲ爲サシメテ日々ノ演説會開催ニ關スル遊説部ノ事務ヲ取扱ハシメ自ラハ右期間ニ互リ同部ノ主催ニ係ル同候補者應援演説會ニ十數回辯士トシテ出演シ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ應援演説ヲ爲シ

被告人村尾民三ニ於テハ同年九月二十日頃ヨリ同月二十四日迄ノ間遊説部主任トシテ前記海士屋旅館ニ於テ右峰高國光等ト共ニ演説會場ノ借入レ辯士ノ配置演説會宣傳ビラノ作成配付等ヲ爲シテ日々ノ同候補者ノ應援演説會開催等ニ關スル遊説部ノ事務ヲ取扱ヒ

被告人日下部源造ニ於テハ同月二十日頃ヨリ同月二十四日頃迄ノ間遊説係トシテ右村尾民三等ト共ニ前記旅館ニ於テ日々ノ演説會開催期日ノ指定會場ノ借入レ又ハ警察官署ニ對スル之カ届出辯士ノ配置演説會宣傳ビラノ作成配付等遊説部ノ事務ヲ取扱ヒ又同町役場ニ於テ「伊地智三郎右工門ヲ舉町一致推薦」トノポスターヲ作成貽付スヘキコトヲ發案シ右ポスターヲ作成シテ同町内ニ之ヲ貼付セシメ被告人池内龜次郎ニ於テハ同年九月十七日頃ヨリ同月二十四日頃迄ノ間文書部長トシテ同部ノ事務所ト定メラレタル同町役場委員室ニ日々詰切り同候補者ニ對スル推薦狀約五千枚ヲ印刷作成シテ之ヲ同町内ニ配付セシメ又「空論家ヨリ實際家タル縣會議員候補者伊地智三郎右工門氏ヲ推薦ス御後援ヲ乞フ」旨ノポスター約三千枚ヲ印刷作成シテ之ヲ同縣城崎郡内ニ配付又ハ貼付セシメ又「舉町一致伊地

智三郎右工門ヲ推薦ス」トノボスターヲ作成シテ同町内其ノ他ニ貼付セシメ又同月二十五日朝「本日ノ選舉ニハ伊地智候補ニ投票セラレ度」旨ノ宣傳ビラヲ印刷作成シテ之ヲ同町内ニ散布セシメ
 被告人國富秀明ニ於テハ同月十六日頃ヨリ同月二十四日頃迄ノ間ニ於テ會計係トシテ同町役場委員室ニ於テ被告人等ノ所謂第三者運動ニ關スル一切ノ會計事務ニ付金錢ノ保管及出納ヲ取扱ヒ又豊岡町其ノ他附近村落ニ於ケル同候補者ノ運動情報ヲ聞キ演說會ヲ開催スヘキ方面又ハ推薦狀ボスター等ヲ配付スヘキ方面ニ關スル事務ニ付其ノ協議ニ參與シ又前記海士屋旅館ニ於テ遊說係トシテ演說會開催期日ノ指定辯士ノ配置等ニ關スル遊說部ノ事務ニ參與シ
 被告人加鹿孫三郎ニ於テハ同月二十日頃ヨリ同月二十四日頃迄ノ間前示被告人國富秀明ニ引續キ會計主任トナリ右選舉運動ニ關スル金錢ノ收入保管及ヒ推薦狀ボスター等ノ運動費用ノ一切ノ支辨ヲ爲シテ右選舉運動ノ會計事務ヲ執リ

被告人横山良造ニ於テハ同月十六日頃ヨリ同月二十四日迄ノ間前記町役場ニ詰切り被告人加鹿孫三郎等ノ會計係ト共ニ前記第三者運動ニ關スル金錢ノ出納事務ニ參與シ傍ラ被告人池内龜次郎等ト共ニ推薦狀ノ作成發送ニ關シテ協議ヲナシ以テ文書係ノ事務ニ參與シ

被告人保田長二ニ於テハ同月十五日頃ヨリ同月二十日頃迄ノ間會計係トナリ被告人加鹿孫三郎横山良造等ト共ニ前記ノ如ク第三者選舉運動ニ關スル會計事務ニ參與シ且ツ同月二十日頃ヨリ同月二十四日

頃迄ノ間豊岡町其ノ他附近村落ニ於テ開催セラレタル遊說部主催ノ同候補者ニ應援演說會ニ十餘回辯士トシテ出演シ同候補者ニ投票ヲ得シムヘキ目的ヲ以テ應援演說ヲ爲シ以テ被告人等共謀ノ上同月十五日頃ヨリ同月二十五日迄繼續的ニ同候補者ノ爲選舉運動ヲ爲シ

第一ノ二 被告人保田長二ハ單獨ニテ同月二十四日頃同町役場ニ於テ同町第十三區長一柳久吉ニ對シ同町選舉人ヲシテ同候補者ニ投票セシムヘク極力勸誘セラレ度且其ノ賛成者ノ氏名ヲ報告セラレタキ旨依頼シ同人ヨリ同區民細田梅吉外四名ニ對シ同候補者ニ投票ノ勸誘ヲ爲サシメ各其ノ賛成ヲ得シメ同月二十三日頃右一柳久吉ヨリ右賛成ノ旨報告ヲ受ケ以テ何レモ法定ノ選舉運動員ニ非サルニ拘ラス同候補者ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ選舉運動ヲ爲シ

第二 同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人澤田敬藏等ノ依頼ニ依リ同月十六日頃ヨリ同月二十四日頃迄ノ間同町其ノ他選舉區内各所ニ於テ同候補者ノ爲應援演說ヲ爲シタル妻谷猪之吉平川退介角田更生等三名ニ對スル報酬トシテ

一 被告人澤田敬藏同國富秀明ハ共謀ノ上同月十七日頃被告人澤田敬藏ニ於テ同被告人ノ肩書居宅ニ於テ妻谷猪之吉ニ對シ金百圓ヲ供與シ

二 被告人澤田敬藏ハ單獨ニテ同月二十一日頃右同人方ニ於テ前同様金百圓ヲ供與シ

三 被告人澤田敬藏同加鹿孫三郎ハ共謀ノ上被告人澤田敬藏ニ於テ前記同被告人居宅ニ於テ前同様金

第三者カ組織的且繼續的ニ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲ス場合ト衆議院議員選舉法第九十六條

二百二十回ヲ供與シタルモノニシテ

被告人澤田敬藏ノ右供與行爲ハ故意繼續ニ係ルモノトス
 各辯護人竝ニ各被告人ハ被告人ノ判示第一ノ一ノ演説及推薦狀ニ依ル選舉運動ハ衆議院議員選法第九十六條但書ニ該當スル選舉運動ニシテ當然何人ニモ許容セラレタル選舉運動ナルヲ以テ法定運動員タル資格ナキ被告人等ニ於テ之ヲ爲スモ罰セラルヘキニ非サル旨主張スレトモ前掲證據説明ノ冒頭ニ引用シタル被告人國富秀明及ヒ坂井虎之助ニ對スル各檢事聽取書ニ於ケル各供述記載ニヨレハ判示議員候補者ノ演説ニ依ル選舉運動竝ニ其ノ根據地タル豊岡町内ニ於ケル選舉運動ハ候補者ノ法定運動員側ニ於テ之ヲ行ハス一ツニ第三者運動員側タル被告人等ニ於テ之ヲ行フヘキコトヲ兩者間ニ於テ豫メ協定ヲ爲シ之ニ基キ法定運動員側ニ於テハ殆ト演説ニ依ル選舉運動及ヒ豊岡町内ニ貼付スヘキボスタ一ニハ直接關係セス右第三者側タル被告人等ニ於テ之ヲ行ヒタルコトヲ認メ得ヘク而シテ如此事情ノ下ニ前認定ノ如ク多數人相一致協力シ判示期間ニ互リ法定選舉事務所ト連絡ヲ取り組織的ニ繼續的ニ選舉運動ヲ行フニ至リテハ其ノ方法カ單ニ演説又ハ推薦狀ノミニヨル場合ナリトスルモ法定ノ選舉運動員ニノミ許容セラル可キ處ニシテ前示法條但書ニ依リ第三者ニ許容セラレタル選舉運動ニ屬セサルモノト解スルヲ相當ト認メ右主張ハ之ヲ採用セス
 法律ニ照スニ各被告人ノ判示第一ノ一ノ所爲ハ刑法第六十條府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選

學法第九十六條本文第二百二十九條ニ被告人保田長二ノ判示第一ノ二ノ所爲ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十六條本文第二百二十九條ニ該當スル處右被告人保田長二ニ付テハ之ヲ包括的ニ觀察シテ一個ノ選舉運動ト認メ一罪トシ被告人澤田敬藏同國富秀明同加鹿孫三郎ノ判示第二ノ所爲中一及ヒ三ノ點ハ刑法第六十條府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一號ニ二ノ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一號ニ該當シ被告人澤田敬藏ニ對シテハ刑法第五十五條ヲ適用シ各被告人ニ對シ夫々前記各罰條所定ノ各罰金刑ヲ選擇シ尙被告人澤田敬藏同國富秀明同加鹿孫三郎ニ付テハ二罪併發ニ係ルヲ以テ刑法第四十五條第四十八條第二項ニ則リ各被告人ヲ主文ノ如ク量刑處斷スヘク勞役場留置ニ付同法第十八條ヲ適用シ被告人澤田敬藏以外ノ各被告人ニ對シテハ府縣制第四十條ニ依リ準用セララル衆議院議員選舉法第三百七條第一項ヲ適用セサルヲ相當トスル情狀アルモノト認メ同法條第二項ヲ適用スヘキモノトス

○ 理 由

各被告辯護人南利三上告趣意書第一點原判決ハ其ノ理由トシテ「右伊地智三郎右工門立候補後ノ選舉運動方法トシテ同人ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人等ニ於テ所謂第三者運動ニ名ヲ藉リ主ニ演説及ヒ推薦狀其ノ他ボスタ一等ノ文書ニ依ル選舉運動團體ヲ組織シ事務ノ分擔ノ便宜上遊説部文書部會計係等ヲ設ケ各自各部ニ分屬シテ組織的ニ選舉運動ニ從事スヘキ事同町會議員坂井虎之助瀧野彦次郎

第三者カ組織的且繼續的ニ演説又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲ス場合ト衆議院議員選舉法第九十六條

ノ兩名ヲ右伊地智三郎右工門ノ立候補ノ推薦届出名義人タラシムル事及ヒ同候補者ノ爲メ選舉運動費ノ捻出方法等ニ付協議ヲ遂ケ同月十三日右坂井瀧野ヲシテ右伊地智三郎右工門ヲ議員候補者トシテ推薦届出ヲ爲サシメ右坂井瀧野及ヒ吉谷吉次ヲ同候補者ノ法定選舉運動員タラシメ各被告人ニ於テハ同候補者ノ法定運動員トナラスシテ前記ノ如キ方法ニ依リ第三者運動ニ名ヲ藉リ法定運動員タル右坂井等ト連絡ヲ取り之ト相一致協力シ同候補者ヲ當選セシムル目的ヲ以テ選舉運動ヲ爲サンコトヲ共謀シ各自ノ分擔ニ從ヒ被告人澤田敬藏ニ於テハ同年九月十六日頃ヨリ同月二十四日頃迄ノ間ニ於テ前記協議ニ依リ遊説部長トナリ同部ノ事務ト定メラレタル同町海士屋旅館ニ於テ同部ノ事務ヲ取扱ヒ又ハ法定運動員ニ非ラサル峰高國光ヲシテ自己ニ代リ右旅館ニ於テ演説會場ノ借入レ出場辯士ノ配置演説會宣傳ピラノ成作配付等ヲ爲サシメテ日々ノ演説會開催ニ關スル遊説部ノ事務ヲ取扱ハシメ自カラハ右期間ニ互リ同部ノ主催ニ係ル同候補者應援演説會ニ十數回辯士トシテ出演シ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ應援演説ヲ爲シ被告人村尾民三ニ於テハ同年九月二十日頃ヨリ九月二十四日迄ノ間遊説部主任トシテ前記海士屋旅館ニ於テ右峰高國光等ト共ニ演説會場ノ借入レ辯士ノ配置演説會宣傳ピラノ成作配付等ヲ爲シテ日々ノ同候補者ノ應援演説會開催等ニ關スル遊説部ノ事務ヲ取扱ヒ被告人日下部源造ニ於テハ同月二十日頃ヨリ同月二十四日頃迄ノ間遊説係トシテ右村尾民三等ト共ニ前記旅館ニ於テ日々ノ演説會開催期日ノ指定會場ノ借入レ又ハ警察官署ニ對スル之カ届出辯士ノ配置演説會宣傳

ピラノ成作配付等遊説部ノ事務ヲ取扱ヒ又同町役場ニ於テ「伊地智三郎右工門ヲ舉町一致推薦ス」トノポスターヲ作成貼付スヘキコトヲ發案シ右ポスターヲ作成シテ同町内ニ之ヲ貼付セシメ被告人池内龜次郎ニ於テハ同年九月十七日頃ヨリ同月二十四日頃迄ノ間文書部長トシテ同部ノ事務所ト定メラレタル同町役場委員室ニ日々詰切り同候補者ニ對スル推薦狀約五千枚ヲ印刷作成シテ之ヲ同町内ニ配付セシメ又「空論家ヨリ實際家タル縣會議員候補者伊地智三郎右工門氏ヲ推薦ス御後援ヲ乞フ」旨ノポスター約三千枚ヲ印刷作成シテ之ヲ同縣城崎郡内ニ配付又ハ貼付セシメ又「舉町一致伊地智三郎右工門氏ヲ推薦ス」トノポスターヲ作成シテ同町内其ノ他ニ貼付セシメ又同月二十五日朝「本日ノ選舉ニハ伊地智候補ニ投票セラレ度」旨ノ宣傳ピラヲ印刷作成シテ之ヲ同町内ニ散布セシメ被告人國富秀明ニ於テハ同月十六日頃ヨリ同月二十四日頃迄ノ間ニ於テ會計係トシテ同町役場委員室ニ於テ被告人等ノ所謂第三者運動ニ關スル一切ノ會計事務ニ付金錢ノ保管及ヒ出納ヲ取扱ヒ又豐岡町其ノ他附近村落ニ於ケル同候補者ノ運動情報ヲ聞キ演説會ヲ開催スヘキ方面又ハ推薦狀ポスター等ヲ配付スヘキ方面ニ關スル事務ニ付其ノ協議ニ參與シ又前記海士屋旅館ニ於テ遊説係トシテ演説會開催期日ノ指定辯士ノ配置等ニ關スル遊説部ノ事務ニ參與シ被告人加鹿孫三郎ニ於テハ同月二十日頃ヨリ同月二十四日頃迄ノ間前示被告國富秀明ニ引續キ會計主任トナリ右選舉運動ニ關スル金錢ノ收入保管及推薦狀ポスター等ノ運動費用ノ一切ノ支辨ヲ爲シテ右選舉運動ノ會計事務ヲ執リ被告人横山良造ニ於テハ同

月十六日頃ヨリ同月二十四日迄ノ間前記町役場ニ詰切り被告人加鹿孫三郎等ノ會計係ト共ニ前記第三者運動ニ關スル金錢ノ出納事務ニ參與シ傍ラ被告人池内龜次郎等ト共ニ推薦狀ノ作成發送ニ關シテ協議ヲ爲シ以テ文書係ノ事務ニ參與シ被告人保田長二ニ於テハ同月十五日頃ヨリ同月二十日頃迄ノ間會計係ト爲リ被告人加鹿孫三郎横山良造等ト共ニ前記ノ如ク第三者運動ニ關スル會計事務ニ參與シ且同月二十日頃ヨリ同月二十四日頃迄ノ間豊岡町其ノ他附近村落ニ於テ開催セラレタル遊説部主催ノ同候補者應援演説會ニ十餘回辯士トシテ出演シ同候補者ニ投票ヲ得シムヘキ目的ヲ以テ應援演説ヲ爲シ以テ被告人等共謀ノト同月十五日頃ヨリ同月二十五日迄繼續的ニ同候補者ノ爲選舉運動ヲ爲シト認定シ刑法第六十條府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十六條本文第二百二十九條ヲ適用處斷シタリ竊カニ案スルニ本件ノ原因トスルコロハ大正十三年五月二十三日突トシテ襲來シタル北但地方ニ於ケル大震災ニ因リ豊岡地方ハ之カ慘害ヲ蒙ムリ全町潰滅ニ類シ未タ餘燼收ラサル中ニモ豊岡町民ハ之カ復興ノ爲孜々トシテ日夜東奔西走シ居リタリ時々マ／＼昭和二年九月二十五日施行サレタル府縣會議員選舉ニ當リ右復興事業上縣會議員選舉ハ至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ豊岡町ヨリ有力ナル縣會議員ヲ選出シ縣政界及中央政界トノ連絡ヲ取ラシメ一日モ早ク右事業ヲ完成セシムル事ハ當時全町民ノ期セスシテ一致シタルコロナリ然シテ之カ候補者トシテ屢隱退ヲ聲明セル清廉潔白ノ士ニシテ其ノ政治的識見又萬人ノ尊敬スル伊地智三郎右工門ヲ舉町一致推舉スルコトトナリタリ此處ニ

於テ右伊地智三郎右衛門ハ衆望モタシ難ク豊岡町復興ノ爲ニ老軀ヲ携ケテ再ヒ縣會議員候補者タル可キコトヲ宣言發表シタリ依テ同町ノ有力者タル被告人等ハ右候補者ノ爲ニ演説及推薦狀ニ因ル獨立選舉運動ヲ爲シタルモノニシテ被告人間協議勸誘等ノ如キ事實更ニ無ク叙上ノ如ク一ニ愛町ノ大精神ニ基キ偶然意思合致シ殉情的ニ右選舉運動ヲ爲シタルモノナリ今ヤ世道頹廢人心萎靡シテ振ハサルノ時ニ際シ如斯事案ハ全國ニ其ノ例ヲ見ス一ニ選舉美談トモ云フ可キモノアリ然シテ原判決ハ法定ノ選舉運動員ニ非スシテ演説又ハ推薦狀ニ因ル選舉運動ヲ繼續的ニ爲シタル事實ヲ犯罪ナリト認定セリ然レトモ衆議院議員選舉法第九十六條但書ニヨリ演説又推薦狀ニ因ル選舉運動ハ何人ト雖自由ニ爲シ得可キ事ハ論ヲ俟タサル所ニシテ而シテ之カ運動ヲ繼續的ニ爲シタル場合ハ同法第九十六條但書ニ包含サルルモノナリヤ否ヤ原判決ハ但書ノ範圍ヲ逸脱セルモノナリトノ見解ヲ有スルモノノ如キ觀アルモ之カ根據ニ付其ノ繼續的ト云フ其ノ程度及其ノ形態ニ付何等說示スルコロナク漫然法定選舉運動員ニ非ラスシテ選舉運動ヲ爲シタルモノトシテ同法第九十六條本文ニヨリ處斷シタルモノナリ依テ按スルニ衆議院議員選舉法第九十六條本文ニハ議員候補者選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得スト規定シ同法第九十九條ニハ選舉權ヲ有セサル者ハ選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員トナルコトヲ得ス選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲スコトヲ得スト規定シタリ又選舉費用支出上ニ關シ同法第一百一條第一項ニハ立候補準備ノ爲ニ要スル

第三者カ組織的且繼續的ニ演説又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲ス場合ト衆議院議員選舉法第九十六條

費用ヲ除クノ外選舉運動ノ費用ハ選舉事務長ニ非サレハ之ヲ支出スルコトヲ得ス但シ議員候補者選舉委員ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ妨ケス同條第二項ニ議員候補者選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サル者ハ選舉運動ノ費用ヲ支出スルコトヲ得スト定メタルハ選舉運動ノ公レヲ期シ弊害ヲ除去セン爲選舉運動ノ樞機ニ參與スル是等議員候補者選舉事務長選舉委員及選舉事務員ノ資格ニ對シ將費用支出ニ付幾多ノ制限ヲ附シタルモノナルコト定ニ明白ニシテ同法第九十六條但書ノ所謂獨立選舉運動者ニ於テハ更ニ叙上ノ如ク身分上ノ制限ナク又選舉費用ノ支出ニ關シ何等制限ヲ設クルトコロナシ之レ一ニ衆議院議員選舉法ハ文書及言論ニ因ル選舉運動ヲ以テ最モ合理的ナルモノトシ法定選舉運動者ニ非サルモノニ於テモ演說又ハ推薦狀ニ因ル選舉運動ハ樞機ニ關與スルモノニアラス弊害少クシテ而モ從來腐敗セル選舉運動ヲ革正セシムルニ效アルモノナリト思料シタルモノナリ依而何人ト雖演說又ハ推薦狀ニヨル選舉運動ナル以上ハ繼續的ナルト組織的ナルト否トニ拘ラス又其ノ手段方法ノ如何ヲ問ハス自由ニ之ヲ爲スコトヲ得ル旨規定シタルモノナリ從テ原判決ノ如ク同法第九十六條但書ヲ狹義ニ解シ組織的繼續的ニ爲スコトヲ得ストセンカ例ヘハ一人カ同候補者ノ爲ニ一回ノミ出演又ハ推薦狀ヲ發スル場合ハ之ヲ適法行爲トナシ二人以上結合ニヨル時又ハ一人二回以上連續ニヨル場合ハ何レノ程度迄ヲ適法トシ何レノ程度ヲ以テ不適法ナリト爲スヤ其ノ間ノ區別明カナラス依而以而國民ヲシテ徒ラニ之カ去就ニ迷ハシムルモノニシテ寧ロ前記ノ如ク同法第九十六條

【要旨】

但書ノ文言ヲ文理解釋シ之ニ何等ノ制限ヲ附セサルコトハ衆議院議員選舉法改正ノ大精神ニ添フハ勿論其ノ他同法何レノ法條ニ因ルモ毫モ之ヲ制限スヘキ何等ノ文字條項ヲモ發見スルコトヲ得サルナリ故ニ第一審裁判所ハ演說又ハ推薦狀ニヨル選舉運動ハ法ノ許容スルトコロニシテ組織的ナルヤ繼續的ナルヤヲ論セス適法行爲ナルヲ以テ無罪ト宣シタリ又當然ト云ハサル可ラス此ノ點ニ關シ原判決ハ擬律錯誤ノ違法アリ到底破毀ヲ免レス云フニ在レトモ○衆議院議員選舉法第九十六條ハ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ニ付テハ議員候補者選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員ハ勿論是等法定ノ選舉運動者ニ非サル所謂第三者ト雖之ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定シタルニ止マリ組織的且繼續的ニ之ヲ爲スコトヲ禁シタル趣旨ノ見ルヘキモノナキヲ以テ第三者カ組織的且繼續的ニ之ヲ爲シタルトキト雖同條ノ規定ニ違背スルモノトシテ同法第二百二十九條ニ依リ之ヲ處罰スルコトヲ得サルモノトス蓋シ第三者カ組織的且繼續的ニ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スニ當リテハ或ハ選舉事務所ヲ設置シ或ハ事實上選舉委員又ハ選舉事務員ト同一ノ者ヲ選任シ其ノ他法律ノ禁止スル行爲ヲ爲スコトアルヘキハ想像スルニ難カラスト雖斯ル場合ニ於テハ夫レ夫レ當該罰條(例ヘハ衆議院議員選舉法第八十九條第一項第百三十一條)ニ依リ處罰スルハ格別其ノ選舉運動カ單ニ組織的且繼續的ナルノ故ヲ以テ之ヲ同法第九十六條ニ違反スルモノトシテ同法第二百二十九條ニ依リ處罰スルハ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ汎ク何人ニモ爲スコトヲ許シタル同法ノ精神ニ反スルモノト謂ハサルヲ得サレハナリ然ラハ所論原判示

第三者カ組織的且繼續的ニ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲ス場合ト衆議院議員選舉法第九十六條